

緑の募金

事業報告集

令和3年度



「緑の募金」は、身近な地域の森づくりをはじめ、国内外の森づくりや人づくりなどに大切に活用されています。

公益社団法人 国土緑化推進機構

緑の募金 事業報告集

令和3年度

公益社団法人 国土緑化推進機構

目次

- (注) 1. 本報告集に掲載した事業は、令和2年7月から令和3年6月までに事業決定した直接事業及び公募事業である。
2. 最左欄は交付決定番号、() 地名は事業実施都道府県等である。
3. 交付決定番号の区分の説明
- SC 直接事業(森林整備)／東震災 SC 東日本大震災復興事業(森林整備)／S 公募事業(森林整備)／災 S 公募事業(災害に強い森林づくり事業：森林整備)／SDGs SDGs 貢献事業(森林整備)
- RC 直接事業(緑化推進)／東震災 RC 東日本大震災復興事業(緑化推進)／熊震災 RC 熊本地震復興事業(緑化推進)／西豪災 RC 西日本豪雨災害復興事業(緑化推進)／台風災 RC 令和元年台風災害復興事業(緑化推進)／R 公募事業(緑化推進)／災 R 公募事業(災害に強い森林づくり事業：緑化推進)／子 R 公募事業(子どもたちの未来の森づくり事業：緑化推進)
- KC 直接事業(国際協力)／K 公募事業(国際協力)

森林の整備

02SC-01	緑のボランティアの森記念造成事業「いずみの森21」(大阪府).....	8
02SC-03	玖珠町ふれあいの森づくり事業(大分県).....	9
02SC-04	富士山緑の募金の森造成事業(静岡県).....	10
02SC-05	さいたまの森林づくり支援事業(埼玉県).....	11
02SC-06	湯河原で進める企業の森づくり体験活動事業(神奈川県).....	12
02SC-07	南足柄で進める企業の森づくり体験活動事業(神奈川県).....	13
02SC-08	「赤西溪谷・水源の森」保全事業(兵庫県).....	14
02SC-09	緑のボランティアの森記念造成事業「フォレスト21さがみの森」(神奈川県).....	15
02SC-10	木下沢溪谷冒険の森保全活動と環境教育(東京都).....	16
02SC-11	協働によるSDGsの森づくり事業(宮城県).....	17
02SC-12	日本曹達グループの森づくり事業(新潟県).....	18
02SC-13	和木町協働の森づくり事業(山口県).....	19
02SC-14	木曾川・やおつ水源の森づくり活動(岐阜県).....	20
02東震災SC-01	3.11復活の森づくり～千葉県山武市蓮沼海岸林再生事業(千葉県).....	21
02東震災SC-02	白子町海岸保安林整備事業(千葉県).....	22
02東震災SC-03	「岩沼・荒浜潮除須賀松の森」保育事業(宮城県).....	23
02東震災SC-04	3.11復活の森づくり～千葉県一宮町東浪見海岸林再生事業(千葉県).....	24
02SDGs-01	豊かな森づくりへの道 実働型次世代育成事業(神奈川県).....	25
02S-01	森林環境保全型の自伐林業家養成事業(北海道).....	26
02S-02	間伐材の資源化プロジェクト(岩手県).....	27
02S-03	栗原市行者の滝周辺「癒しの森」植樹活動(宮城県).....	28
02S-04	トトロの森と狭山丘陵周辺緑地での里山保全(埼玉県、東京都).....	29
02S-05	神奈川の森づくり「山北町と湘南海岸林」(神奈川県).....	30
02S-06	市民参加による森林づくり「山と緑の協力隊」(滋賀県).....	31
02S-07	高田松原再生整備事業(岩手県).....	32
02S-08	北浅川上流地区の森にホタルを飛ばそう！(東京都).....	33
02S-11	富士山で学びながら広葉樹の森林を復元する活動(静岡県).....	34
02S-12	相模湖若者の森づくり 知足の森整備活動(神奈川県).....	35
02S-13	竹林の持続可能な保全と活用(神奈川県).....	36
02S-14	都市の里山資源の活用推進(神奈川県).....	37
02S-15	都市近郊の新しい里山づくり(東京都).....	38
02S-16	熱海市の森林整備と木材加工(静岡県).....	39
02S-17	間伐整備活動で取組む三河湾の生態系の保全(愛知県、長野県).....	40
02S-18	資源利用と環境学習によるやまんなの森再生(滋賀県).....	41
02S-19	大学生による森林・竹林整備(京都府).....	42
02S-20	里山整備事業(兵庫県).....	43
02S-21	国境を越えたSDGs 六甲の森・里山づくり(兵庫県).....	44

02S-22	鹿ノ台周辺緑地の再生事業（奈良県）	45
02S-23	憩いの場として豊かな自然の森づくり（奈良県）	46
02S-26	尾の瀬山ヤマザクラの森と竹林の整備事業（香川県）	47
02災S-01	北上川の上下流を結ぶ緑の再生活動（岩手県）	48
02災S-02	世田谷・川場上下流連携の森林活性化事業（群馬県）	49
02災S-03	津波や大雨等からの災害予防に向けた森林整備事業（千葉県、東京都）	50
02災S-04	「山の学校」～水が繋ぐ地域と世代～促進事業（神奈川県）	51
02災S-05	命の森づくり2020ー里山自然復元植樹（新潟県）	52
02災S-06	緑の遺産「胎内」災害に強い森づくり（新潟県）	53
02災S-07	丹波山みんなの森づくり・防災事業（山梨県）	54
02災S-09	里山斜面林の復旧およびボランティア研修事業（大阪府）	55
02災S-10	丹波山のある暮らし再生事業（兵庫県）	56
02災S-12	入来浜海岸防災林保全活動（鹿児島県）	57

緑化の推進

02RC-01	獅子吼高原アウトドアFes.「もりもりの森」& 森のふれあい音楽会（石川県）	60
02東震災RC-01	「被災地に緑と心のふれあい森林づくり」事業（宮城県）	61
02東震災RC-02	「森と海を結う・絆の森林づくりプロジェクト」事業（宮城県）	62
02東震災RC-03	ラグビーワールドカップ2019後の コミュニティ再生を目指す大槌湾海岸防災林植樹事業（岩手県）	63
02熊震災RC-01	熊本地震復興支援事業（学校緑化）（熊本県）	64
02西豪災RC-01	うなぎの森植樹会（大阪府）	65
02台風災RC-01	千葉の里山で竹林整備と台風被害林復旧活動（千葉県）	66
02台風災RC-02	ボランティアによる参加型の日向の森（千葉県）	67
02R-02	【Furano Forest Style】植樹会と間伐イベントを通じた富良野・森づくり事業（北海道）	68
02R-03	森と緑と湖のマチ、そらの森づくりプロジェクト（北海道）	69
02R-04	いのちの森づくり植樹祭 IN おたる奥沢水源地 VOL8（北海道）	70
02R-05	オオヤマザクラ等の保育活動を通じた地域を結ぶ森林づくり（青森県）	71
02R-06	陸奥湾の植林と除間伐材の利用を学ぶ授業（青森県）	72
02R-08	沈黙しないでピカピカ里山にしませんか！（秋田県）	73
02R-09	八幡山桜（はな）の森整備事業 コブシ・ハンノキの森整備事業（山形県）	74
02R-10	健康で元気な森林づくり（茨城県）	75
02R-11	みんなの家でみんなの森づくりプロジェクト③（山梨県）	76
02R-13	オオムラサキ舞う故郷の里山再生（山梨県）	77
02R-14	猿投山北西山麓の環境林整備（愛知県）	78
02R-17	境港市竹内西緑地マツ林復元・整備事業（鳥取県）	79
02R-19	東京五輪開催記念植樹祭（広島県）	80
02R-21	森林づくり活動と森林資源の利活用を体験（鹿児島県）	81
02災R-01	渡良瀬川源流の荒廃地緑化事業（栃木県）	82
02災R-03	湘南国際村めぐりの森づくり（神奈川県）	83
02災R-04	菊炭と里山を未来につなぐプロジェクト（大阪府）	84
02災R-05	グリーンペイOSAKA森を育てる活動（大阪府）	85
02災R-06	揖保川源流の森づくり（兵庫県）	86

子どもたちの未来の森づくり事業

02子R-01	にちようびの森～森で育つ子どもたち（北海道）	88
02子R-02	こまおかの森げんきづくり事業（北海道）	89
02子R-03	子どもと馬を中心としたコミュニティによる里山整備及び森林環境教育事業（北海道）	90
02子R-04	ふるさとの森・遊びの森作り事業（北海道）	91
02子R-05	まるごと体験ツアー 2020（青森県）	92
02子R-06	子ども達の学びと遊びの共遊の森づくり事業（宮城県）	93
02子R-09	子供たちへ繋ぐ森林の風（秋田県）	94

02子R-10	モニワ桜を増やして植えるプロジェクト（福島県）	95
02子R-11	ふるさとの風景づくり植樹祭（福島県）	96
02子R-12	私たちの住むふるさとの森づくり（茨城県）	97
02子R-14	子どもたち参加の森づくり活動（茨城県）	98
02子R-15	茨城町小中学生の「体験学習の森」の環境整備（茨城県）	99
02子R-16	市民による里山と共生する持続的保全の実践（茨城県）	100
02子R-17	ひだまり里郷プロジェクト こどもの森整備（栃木県）	101
02子R-18	ふるさと糠塚山の里山環境保全事業（栃木県）	102
02子R-19	みんなで作るみんなの森プロジェクト（栃木県）	103
02子R-20	宮崎公園ツツジを未来へつなぐ（群馬県）	104
02子R-21	みんなで守ろう 育てよう!よしみ里山プロジェクト（埼玉県）	105
02子R-22	親子でとりくむ「森のがっこう」拠点づくり（千葉県）	106
02子R-23	歴史ある学びの森で、地元の小学生へ体験学習（東京都）	107
02子R-25	稲城市立長峰小学校学校林ルネサンス事業（東京都）	108
02子R-26	豊ヶ丘小学校林活用・再生プロジェクト（東京都）	109
02子R-27	4年生林業体験（間伐作業・下草刈り）5年生林業体験（間伐作業・枝打ち） ～相原小学校における「木育」～（東京都）	110
02子R-28	みんなで集う多様で豊かな森づくり活動（東京都）	111
02子R-31	故郷の里山再生および園芸文化の復活プロジェクト（新潟県）	112
02子R-32	子どもたちの未来の森づくり事業（石川県）	113
02子R-34	小学校移動教室における林業体験プログラム（長野県）	114
02子R-35	名勝「金尾滝」周辺の「森の学び」整備事業（岐阜県）	115
02子R-36	子どもたちと地域で育てる松野小学校の森とビオトープ整備事業（静岡県）	116
02子R-37	どんぐり交流会の山づくり（愛知県）	117
02子R-38	「森の教室」どんぐり山づくり①（愛知県）	118
02子R-39	「森の教室」どんぐり山づくり②（愛知県）	119
02子R-40	あさくら里山再生プロジェクト（愛知県）	120
02子R-41	未来を担う子ども達へ森林文化を伝えよう（三重県）	121
02子R-42	子供達・地域の人々が安全、快適に集える雌岡山梅林の管理、整備育成及び環境保全（兵庫県）	122
02子R-43	コウノトリ育む森づくりと森の恵み自然体験（兵庫県）	123
02子R-44	生駒市西畑町の棚田・里山の再生と創造（奈良県）	124
02子R-45	子ども達の心を育てる持続可能な森づくり（奈良県）	125
02子R-46	みんなで作るドングリの森林（鳥取県）	126
02子R-47	五感で感じる森のある園庭づくり事業（島根県）	127
02子R-48	みんなで育てよう伊部つながりの森整備事業（岡山県）	128
02子R-49	伊部区有林マツ再生事業（岡山県）	129
02子R-50	楽しい里山二島（山口県）	130
02子R-51	子ども達に託せる美しい里山づくり（高知県）	131
02子R-52	傷と病から身を守る森づくり（熊本県）	132
02子R-54	子どもとミツバチの森づくり活動（鹿児島県）	133

国際協力

02KC-01	地域住民によるアフリカの里山の再生と保護事業（マリ）	136
02KC-02	フィジー 森林と海の生物多様性保全に向けた植林と環境教育推進プロジェクト（フィジー）	137
02KC-03	インドネシアマドゥラ島 水保全に向けた緑化と環境教育の推進（インドネシア）	138
02KC-04	カンボジア国コンポンチャム州における持続可能な森林管理を目指した 植林事業（フェーズ2）（カンボジア）	139
02KC-05	地球温暖化防止と日中友好の森づくり事業（中国）	140
02K-04	モンゴル国ブルガン県における森林再生並びに環境教育事業（モンゴル）	141
02K-05	カンボジア国東部の里山再生を目指した緑化推進事業（カンボジア）	142
02K-08	ブラジル国パラ州での水源涵養林づくり（ブラジル）	143
02K-09	第3期モウス沙地における砂漠緑化・生態混交林造成事業（中国）	144

02K-10	ジャカルタ湾岸 マングローブ林再生プロジェクト（インドネシア）	145
02K-12	パレスチナ自治区カルキリア県の公立校・農地への植樹を通じた 環境改善事業（パレスチナ自治区）	146
02K-13	インド国オディッシャ州ゴバルプール沿岸の住民による「持続可能な生活林」づくり（インド）	147
02K-14	パンチカール市 女性グループを中心とした植林と環境保全活動（ネパール）	148
02-K15	ゴビ地域苗場造成と緑のエコクラブ育成（モンゴル）	149
02K-17	燃料資源維持を目指した持続的な種苗場運営（ケニア）	150
02K-18	マダガスカルでの土砂流失防止の植林事業（マダガスカル）	151
02K-19	ネパール シンドウバルチョーク郡 地震被災地の学校の緑化と地域の憩いの場及び 避難場所として活用するための緑の公園づくり（ネパール）	152
02K-20	フィリピン・ベンゲット州における鉱山開発地域の森林再生事業（フィリピン）	153
02K-22	モザンビーク共和国カーボデルガド州モリンガプロジェクト（モザンビーク）	154

令和元年度事業

01S-15	古民家／宙（そら）－こどもの「ひみつきち」の森づくり（千葉県）	156
01S-18	秩父市久那上の山及びその周辺山林の整備と育成（埼玉県）	157
01S-35	水源の森づくりと木材活用の一体型拠点事業（岐阜県）	158
01RC-09	福を呼ぶ「フクギさんぼ道」プロジェクト（最終年）（沖縄県）	159
01R-21	第3回「山と海をつなげるいのちの森づくり植樹祭」（静岡県）	160
01子R-21	菱小学校多行の松継承事業（群馬県）	161
01子R-29	「もりで遊び!もりで学び!もりで育てる!」鎌倉タヌキの森プロジェクト（神奈川県）	162
01子R-57	カブト・クワガタの学びの森づくり（長崎県）	163
01K-14	ガーナ植林・日本式炭焼普及プロジェクト（ガーナ、東京都）	164
01K-21	オランウータン保護活動の基盤強化に向けた住民共同での植樹活動（インドネシア）	165
01K-25	家庭菜園を利用した持続可能な苗木生産の創出（タジキスタン）	166
01K-33	ブラジル国トカンチンス下流域河畔林地域におけるアグロフォレスト植林事業（ブラジル）	167

令和2年度	中央事業実施状況一覧	168
-------	------------	-----

持続可能な開発目標

Sustainable Development Goals

エスディーゼーズ

SDGs

エスディーゼーズ

持続可能な開発目標 (SDGs) は、貧困や不平等・格差、気候変動などのさまざまな問題を根本的に解決することを目指す、世界共通の17の目標です。



目標1 **貧困をなくすこと**



目標2 **飢餓をなくすこと**



目標3 **健康であること**



目標4 **質の高い教育**



目標5 **ジェンダーの平等**



目標6 **清潔な水と衛生**



目標7 **再生可能エネルギー**



目標8 **適切な良い仕事と
経済成長**



目標9 **新しい技術とインフラ**



目標10 **不平等を減らすこと**



目標11 **持続可能なまちと
地域社会**



目標12 **責任を持って生産し、
消費すること**



目標13 **気候変動への対策**



目標14 **海のいのちを守ること**



目標15 **陸のいのちを守ること**



目標16 **平和で公正な社会**



目標17 **目標のために
協力すること**

森林の整備



緑のボランティアの森記念造成事業「いずみの森21」

大阪府泉佐野市



事業概要

稲倉池を囲む約30haの里山林は、薪炭、飼料や肥料の採取地として活用されてきたが、1960年代の燃料革命を境に経済的価値が減少し放置林となった。このため、本来の里山の姿に戻すとともに、森林ボランティア活動教育など人材育成を目的とする活動を開始した。

その後、近畿でも「ナラ枯れ」被害拡大を受け、数年前より冬季にはコナラ大径木の間伐（薪等へ再資源化）を行い、

夏季には密集灌木の除伐、陽光遮断改善の間伐や下刈に移行し、里山としての姿を戻すべく活動中。

事業成果

令和2年は池の反対側にナラが集中発生、安全対策上の伐倒をするも拡大の危険がある。

参加者の声

コロナが収まるまでは我慢するしかありません。



サクラの美しい里山



危険木の処理



下刈



間伐

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：0.01ha
間伐面積：0.1ha
枯死木など伐倒：28本

参加者数

府内：184人
計：184人

玖珠町ふれあいの森づくり事業

大分県玖珠町



事業概要

多くの町民ならびに企業・ENEOS(株)のボランティア参加を募り、大分玖珠地域の里山に生物多様性に富む豊かな生態系と美しい景観を創出し、人と森との共生する文化の創造に資する。

事業成果

シカネット設置をしたことにより、活動区域内の樹木が動物の被害にあわなくなった。

コロナ感染予防のため、2回計画した森林整備活動が実施できなかったが森林整備の維持活動ができた。



下刈



シカ防護ネット補修



シイタケ植菌



林内にほだ木を並べる

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：2.98ha
シカ防護ネット補修：30m
シイタケ駒打：2000駒
クヌギ伐採：30本

富士山緑の募金の森造成事業

静岡県富士宮市



事業概要

平成8年9月の台風7号は、富士山南東斜面に風倒木など甚大な被害を与え、本箇所は、その復旧を目的に開始された事業である。国土緑化推進機構が行う「国土緑化運動50周年記念事業」として、「国民参加の森林づくり活動」の場として、多くの森林ボランティア団体に呼びかけ、今日まで実行委員会方式で緑の募金中央事業として実施してきている。

事業成果

今年度は、植生調査等を継続するとともに、定期的に防

シカ柵の巡視等を実施した。なお、区域内にシカの侵入が見られ、ヒノキの皮剥ぎ被害等が発生した。企業参加による森林体験活動は新型コロナウイルスの影響で中止となった。

事業をよく知る関係者の声

- ・台風被害跡地への植栽開始から20年が経過し、ヒノキ林・広葉樹林ともに順調に生育しているものの、一部シカによる森林被害が見られることから、シカ対策の強化が必要である。



シカによる皮剥ぎ被害を受けたヒノキ



シカによる皮剥ぎ被害を受けたヒノキ



破れた防シカ柵の修繕

実績とりまとめ

作業内容

- 歩道整備：200m
- 作業道修理：50m
- シカ柵保全巡視：2300m

参加者数

- 県内：58人
- 計：58人

さいたまの森林づくり支援事業

埼玉県桶川市、越生町、ときがわ町、三芳町、小川町



事業概要

埼玉県内において森林ボランティア体験事業（植樹、間伐、下刈）を実施する企業や学校等に対し、安全に活動できるよう支援・指導する。これにより地球温暖化防止のための森林整備が進み国民参加の森林づくり運動に寄与することを目的とする。

事業成果

予期せぬ事態（コロナ禍）の中でも、小学生に安全な森林作業体験活動をしてもらうことができた。また、3月には屋敷林の植樹も基本的なガイドラインに沿った活動を行い安全に実施することができた。

事業をよく知る関係者の声

・都市部の方々が森林整備活動を体験することは森林の大

切さを知るよい機会である。また、山村部に住む小学生も、生活環境の変化等で自然と向き合う機会が少なくなっており、このような体験により森林への興味が持てたのではないかと思う。コロナ禍のなか屋敷林の植栽活動も工夫して実施しており、今後の活動の参考になる。（緑推関係者）

参加者の声

- ・こんなに大きな木を伐ったのは初めてで、とても良い体験になった。（小学生）
- ・生徒達の感謝の声や次回の植樹体験参加を約束し、子どもたちと笑顔でお別れした楽しい間伐体験会だった。（参加クラブ員）



小学生の間伐体験



屋敷林での植樹



植樹の準備



植樹

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：1.0ha
 植付本数：15本
 下刈面積：4.8ha
 除伐面積：2.3ha
 間伐面積：4.7ha
 森林調査：2.0ha

参加者数

県内：198人
 計：198人

樹種

ヤマツバキ、サンゴジュ

湯河原で進める企業の森づくり体験活動事業

神奈川県湯河原町



事業概要

湯河原町の協力を得て進める企業の森は、水源林として下層植生の豊かな水源かん養機能の高い森林づくりをめざしている。生物多様性など森林のさまざまなはたらきへの理解を深めるため、間伐等の森林づくり活動・自然観察会等の環境教育活動などを継続的に実施している。今年度は、夏に活動を予定していたが、コロナ感染拡大の関係で中止となった。なお、基盤整備は例年通り行った。

事業成果

コロナ禍で企業社員による体験活動は実施できなかったため、①森林インストラクターによる基盤整備の取り組み②森林の植生を広報誌を使って紹介を行った。さらに、活動地の広場へのアプローチを拡幅して改良するために間伐材を多く利用する工法を試験的に導入、次年度以降へのノウハウを取得した。

事業をよく知る関係者の声

- ・体験活動で行う予定だった植栽地の下刈や経路補修作業



下刈作業後



経路整備や看板清掃を行った

の手順・指導方法を確認しながら試行した。

- ・活動日ごとに、活動エリアを巡回し、あわせて植物などの調査を行い、新たな植物も確認でき自然観察は時期を問わないことを再認識した。
- ・体験活動ができなかったため、シイタケの発生時期における収穫につながらなかった。
- ・社員の皆さんに、「万葉の森」の様子やインストラクターの整備活動の様子を「森だより」や「動画」で伝えたが、直接ご意見や感想などの反応が伺えなかったのは残念だった。
- ・新規にセンサーカメラを1台設置したので、新たな生き物の確認が期待できる。
- ・今後の活動では、植栽して8年になる少花粉スギの枝打ち、経路木段づくり、間伐後乾燥している材の利用、広葉樹の実生樹を育てるために整備した苗床（畑）の利用、癒しの場ともなる水源地の利用などがあり、体験活動の再開が待たれる。

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：0.05ha
 経路整備：20m
 植生調査：1500m
 (経路沿い)

南足柄で進める企業の森づくり体験活動事業

神奈川県南足柄市



事業概要

住友三井オートサービス(株)による企業の森づくり体験活動が円滑に推進し充実した成果を上げるため、当財団の森林づくり活動に係わる蓄積したノウハウを活かし、活動計画の作成、それに基づく森林整備や環境整備、森づくり活動の指導などを行う。内容は、コロナウイルス感染症の問題があるため、SMASの事務局による少人数の現場活動を行った。また、WEB会議を用いたりリモートでの森林教室やクラフト教室を試験的に実施する予定だったが、準備が整わず中止とした。なお、基盤整備は例年通り行った。

事業成果

フィールドでの活動は一部に限られてしまったが、リモートでのクラフト体験を計画することができた。材料の配布など課題が生じて実施に至らなかったが、新たな活動方法の可能性を見出した。また令和元年から、ナラ枯れ被害が、フィールド内で確認されたが、予防対策の試行や被害

発生前の活用を基盤整備活動の中で取り組むことができ、今後の森林整備活動へ被害木処理や材の活用を盛り込むことが可能となった。

事業をよく知る関係者の声

予定した計画内容が実行されないことによって、いろいろ考えさせられる1年となった。自分たちがこれまでの企業の皆さんの成果を絶やすことのないよう基盤整備に取り組むとともに、フィールド周辺で拡大するナラ枯れに対しても、予防や利活用にも取り組んでみた。特にナラ枯れに対する取り組みは、次年度以降の活動に活かしていきたい。(森林インストラクター)

参加者の声

- ・マスクをしながらの下刈・間伐でいい汗を流せました。森の醍醐味を感じることができました。
- ・緑に囲まれながらマイナスイオンをたくさん浴び、リフレッシュできました。(企業担当者)



下刈



間伐



自然観察



MASの森

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：0.001ha
 間伐面積：0.1ha
 植生調査：4ha
 毎木調査：18か所
 林内整理：0.05ha
 自然観察

参加者数

計：33人

「赤西溪谷・水源の森」保全事業

兵庫県宍粟市



事業概要

(株)日本触媒および森林管理署と協働して森林整備などを行うことにより、環境林、水源かん養林を保全するとともに、あわせて自然保護、生物多様性について理解を深めることを目的とする。予定された企業の従業員などによる3回の森林整備活動は、新型コロナウイルスの感染防止などのために全て中止となったが、NPO会員主体で以下の活動を実施した。①令和2年11月に活動地の状況を調査するとともに、以降の活動の課題や必要な作業について検討をした。②令和3年4月に企業の担当者と会員で再度現地を訪問し、活動地の状況調査と活動の課題や必要な作業について再検討をした。③例年8月に企業の従業員などにより実施していた植樹地の下刈ができなかったため、令和3年8月に企業担当者と会員で下刈と獣害防止柵の保全作業を実施した。

事業成果

新型コロナウイルスの感染防止対応のため、計画された

企業による森林保全活動が中止となり、企業担当者と会員による活動の中で以下の新たな成果が得られた。

平成30年に企業の従業員が植菌したほど木にシイタケが多数発生し、企業担当者に森のめぐみを確認していただいた。植樹地で、大きく成長したヤマザクラの獣害防止ネットを取り外し、雪害や獣害で変形や倒れた樹脂製ネットの一部をワイヤメッシュ柵に取り換えた。

事業をよく知る関係者の声

- ・ひょうご森の倶楽部関係者の協力のもと、事務局で春と夏に現地確認を行った。当日は下刈など維持管理の作業にも取り組み、普段味わえない経験ができた。今後の社内イベント活動再開を楽しみに関係者と連携しながら取り組んでいきたい。(企業の活動企画担当者)

参加者の声

- ・今回、獣害防止網の傷んだものについて、網と支柱を鉄製に取り替えた。作業は大変だったが、効果は絶大だと思う。(70代会員)



植え替えたエドヒガンの活着確認



植樹地の下刈



獣害防止柵の保全



発生したシイタケ

実績とりまとめ

作業内容

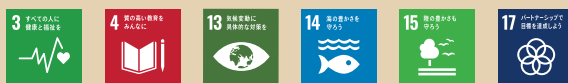
下刈面積：0.2ha
現地調査：2回
獣害柵保全：1回

参加者数

県内：21人
県外：5人
計：26人

緑のボランティアの森記念造成事業「フォレスト21さがみの森」

神奈川県相模原市



事業概要

目的は、「多様性」と「持続性」をテーマとした国民参加のモデルフォレストづくりを一層推進するために、活動を通じて「森と人」「人と人」の関係を再構築し森づくりの輪を拡げるとともに、持続可能な地域社会の基盤となる、生態系豊かな森をつくり、活かす事業の展開をめざすことである。主な活動は、①生物多様性や地域の環境に配慮した森林造成活動、②健全な森づくりのための知識・技術のスキルアップ、③地域・企業・学校等と連携し、自然とのふれあいを通して学ぶ森林環境教育、④森林環境のなかで心身をリフレッシュできる活動など。

事業成果

今年度の主な成果はフィールド周回作業道の補修が完了し災害復旧ができた。土砂が崩れやすい箇所へ広葉樹60本植栽ができた。長く手入れができていなかったフィールドでの方針が決定し、より多様性の高い人工林の育林活動が

できた。森林空間を活用したプログラムの開発とモニター実施が1回できた。

事業をよく知る関係者の声

- ・20年以上ボランティアの手が加わり続けたことで、林床が比較的明るく、単調な植生にならずに何とか多様性が維持されてきたと言える。(植物調査協力者)
- ・作業道周辺の土壌に水と空気の流れを取り戻すと、植生や生物相も豊かになり、かつ災害にも強い森により近づくのではないかと。(造園技師)

参加者の声

- ・林業の仕事に就くことはできないけど、自分のできる範囲で森にも自分にとって良い活動があることを知って良かった。(30代女性)
- ・常連の方ばかりで緊張したが、皆さん親切にご指導いただき楽しく過ごせ勉強にもなった。



道づくり(災害復旧活動)



枝打ち(定例活動)



補植イベント



夜間ライトトラップ(昆虫観察イベント)

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.01ha
 植付本数：60本
 下刈面積：0.05ha
 除伐面積：0.3ha
 間伐面積：1ha
 森林資源活用：1回
 作業道整備：155m
 枝打ち：0.4ha
 ベンチ補修：2回
 イベント・講習：1回
 生物調査：14回

参加者数

県内：106人
 県外：141人
 計：247人

樹種

ウリハダカエデほか

木下沢渓谷冒険の森保全活動と環境教育

東京都八王子市



事業概要

東京都八王子市裏高尾町にある木下沢下流域の森林を対象に、市民の憩いの場、レクレーションの場、多くの生物が息する場として利活用できる森林にしていくことを目的として、次のような活動を行っている。①歩道・遊歩道、ふれあい広場等の整備、②間伐、風倒木の処理・植樹等の森林整備、③裏高尾・木下沢渓谷連絡会議と連携した情報の共有、④自然とふれあい自然を知る行事の企画・提供、⑤イベント参加者による生物多様性に即した環境づくりの実施と学習。

事業成果

新しい拠点・整備エリアができたことから、周辺生物調査を行い、認知向上に向けたガイドブックの作成も続けて行った。こうした活動によって定期的に参加するメンバーのコミュニケーションは活性化した。また、イベント実施における指導者や協力スタッフの担当制が機能するようになり、結果初回参加者や親子の満足度の高い植樹や間伐を含めたプログラムが実施できるようになった。コロナウイ

ルス感染拡大に伴い、1～2月は一般向け活動ができなくなっていたが、主たるメンバーを中心に感染を防止しながらプログラムができる体制づくりを早い段階から行い、6月には人数制限をかけた上で親子体験が実施できた。対策をした上でプログラムを展開できたことは大きな成果と考えている。

事業をよく知る関係者の声

- ・紙漉きや染め物の実体験をしてみたい、竹編みなどの工作をしてみたい、虫や生き物の話も聞きたい。(活動のリピート参加者)

参加者の声

- ・ノコギリで木を切り倒したのが楽しかった。(小学生)
- ・木を切ってコースターを作ったのが楽しかった。(小学生)
- ・サワガニがたくさん取れて楽しかった(小学生)
- ・まっくろくろすけを作ったり、種を飛ばしたり、葉っぱのおいを嗅いだり、普段体験できないことを楽しんでいた。(小学生の親)



道づくり体験(プチ体験イベント)



間伐



竹林整理跡地での植樹



水生昆虫採取&沢遊び(プチ体験イベント)

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.1ha
 植付本数：80本
 下刈面積：0.1ha
 除伐面積：0.6ha
 間伐面積：0.3ha
 作業道整備：300m
 生物調査：5回
 イベント：7回

参加者数

都内：204人
 都外：68人
 計：272人

樹種

オニグルミ、ホオノキ、ヤマザクラ、ヤマグリ

協働によるSDGsの森づくり事業

宮城県利府町



事業概要

ENEOS(株)や地域ボランティア、小中学校などが協働し、人々が集まりやすい場所にある森林を整備し、未来へ緑を引き継ぐための植樹活動や、子ども達が気軽に森づくりや自然体験を楽しめるフィールドづくりを行う。また除伐・枝打ち・遊歩道づくり等の活動は、森林ボランティアが強力に進めるとともに、子ども達の体験としても実施し、「森での学び」の機会を数多く創出するとともに、森林での整備や遊びなどの実体験を通して、健全な森と人を育むこと目的とする。

内容としては広葉樹や針葉樹の植林活動や地域森林ボランティアの育成、遊歩道材等への間伐材有効活用、子どもを対象とした環境教育・減災教育活動、広葉樹枯損木の処理などの活動を実施した。

事業成果

県内の小学校や協働企業ボランティアの他に地域ボラン

ティアを対象としたイベントを実施、森づくり活動への参加者の幅を広げることができた。またコロナ禍でイベント数は減ったが大規模な枯損木伐倒処理作業を積極的に行い、林内の安全確保に努めることができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・今まで散策していて気になっていたナラ枯れが次々と処理できて良かった。これでもまだ大きな枯損木が残っているので、これからも積極的に処理したい。(60代ボランティア)

参加者の声

- ・実際の機械を使いながら、体験的に作業方法を学ぶことができて良かった。(講座参加者)
- ・切った枝でのネイチャークラフトが楽しかった。(未就学児女子)
- ・コロナ禍、子ども達が活発に活動できる場をつくってもらえて良かった。(小学校教員)



小学生による施肥と植樹



植樹指導(地域森林ボランティア講座)



枯損木の伐倒処理



チェーンソー研修会

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：1ha
 植付本数：85本
 樹勢回復：87本
 下刈面積：3.6ha
 除伐面積：3.2ha
 森林資源活用：2回
 クラフト体験：3回
 遊歩道整備：490m

参加者数

県内：439人
 計：439人

樹種

コナラ、サクラ、ヤマブキ

日本曹達グループの森づくり事業

新潟県上越市



事業概要

日本曹達グループが起業してから100年を迎えることから、起業の地である新潟県上越地域の「くわどり市民の森」内で、地域に貢献するため、新潟県民・上越市民に親しまれる森づくりを実施する。本年度は、事業を円滑に推進するための協議会の設立、全体計画の樹立のためのドローン撮影とその解析、スタートすることを広く周知する看板除幕式、森林整備（除伐、下刈）、植樹（モミジ、アジサイ）を実施した。

事業成果

本年度は、事業を進めるための協議会の設立、全体計画

樹立、事業の周知等の調整に大幅に時間を取らざるを得なかった。

事業をよく知る関係者の声

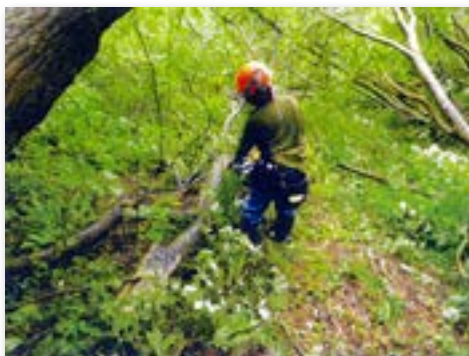
- ・森林整備を推進することができ、とてもありがたい。（上越市や公園指定管理者）

参加者の声

- ・技術や経験を通じて地域に貢献できてありがたい。（推進協議会構成員）



刈払い



伐採



林地を整備



除草後にモミジほかを植樹

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.01ha
植付本数：41本
下刈面積：0.1ha

樹種

モミジ、アジサイ

和木町協働の森づくり事業

山口県和木町



事業概要

「豊かで美しい森林づくり」と「地球環境の保全」を目的とし、和木町里山研究会が主体となって地元企業のENEOS株式会社麻里布製油所の社員や家族、OB及び和木町、山口県の職員ボランティアと協働で和木町有林約7haの整備を平成23年12月から継続している。

事業成果

新型コロナウイルス感染症拡大により、当初の計画通りには事業が進まなかった。予定していたエネオスの森事業は、感染症拡大防止のためにENEOS社員の参加が見込まれなくなったため、和木町里山研究会の会員が草刈り等の作業を行った。クリ拾いのみでも体験してもらうことはできないかと計画していたが、それも実現がかなわず、里山研究会会員のみで行った。作業後クリ30kgを提供、山の恵みを感じていただけるようにした。

また、2～3月に予定していた和木小学校でのシイタケ

植菌体験は、冬季の感染拡大を懸念して10月にノコギリ体験として小学生たちに木を切ってもらった。準備した木材は、前日に伐採したクリやヤマモモなどだった。

事業をよく知る関係者の声

- ・冬季の新型コロナウイルスの感染拡大を事前に予測して、秋季に小学校で森林体験学習を実施することができ良かった。また、初めての試みであるノコギリ体験も好評だった。小学生は水分を多分に含んだ山の木を切る体験はなかなかできない。この経験を通じて、家具などで使用されている木材の加工前の姿を見ることができたのが良かった。(町職員)

参加者の声

- ・こんなに大きな木を切るのは初めてだった。(10代女性)
- ・子どもたちがみんなで木を切ることができて良かった。(80代男性)



小学生のノコギリ体験



前日に伐採した木やタケでノコギリ体験



収穫したクリを活かしたメニュー

実績とりまとめ

作業内容

クリ拾い：12日
ノコギリ体験

参加者数

県内：85人
計：85人

木曾川・やおつ水源の森づくり活動

岐阜県八百津町



事業概要

木曾川流域に生活する住民に潤いと安らぎを与える自然豊かな水源の森を整備し、水源涵養機能を充実するとともに森林生態系や生物多様性について学ぶことを目的として実施してきた。海拔500mの高原を会場とし、下流域にて生産活動を行うキリンビール(株)名古屋工場の従業員と家族や流域に生活する地域住民及び地元住民が協力し合い、サクラの間伐、遊歩道の補修、下刈などの活動を行うとともに間伐材を利用した箸づくり体験などを実施した。

事業成果

新型コロナウイルス感染拡大防止のためボランティア参

加の交流を含めた整備事業は中止したが、地元ボランティアによる下刈を秋に実施した。夏は業務委託による下刈による水源の森の保全、整備に努めた。11月には、サクラの勉強会を昨年に引き続き実施し、参加者に知識や技術を身につけてもらった。

事業をよく知る関係者の声

- ・1年以上も事業に参加していないと忘れてしまうので、草刈りだけでもやれて良かった。(男性)

参加者の声

- ・水源の森でサクラの勉強会ができて良かった。剪定等のコツを実践しながら学べ、ためになった。(40代男性)



整備活動



下刈



サクラの勉強会



剪定作業などをしながらサクラについて学んだ

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：3.3ha
除伐面積：0.1ha
イベント：1回

参加者数

県内：47人
計：47人

3.11 復活の森づくり～千葉県山武市蓮沼海岸林再生事業

千葉県山武市



事業概要

津波によって枯れた千葉県山武市蓮沼下海岸防災林の再生を進めて、被災地住民の生活環境の回復を図るとともに、それを通じて「海岸防災林と住民との共生」を創り直すことを目的とする。あわせて、ボランティア活動の継続性の向上を図る。

①津波の浸水により塩害で枯れた木々の撤去とチップ化処理と敷き詰め及び転圧、②海岸林に適した樹種(抵抗性クロマツ)の植林。

事業成果

コロナ禍のマイクロツーリズムが叫ばれているなか、今年度は、千葉県内からの参加者募集をした。範囲を絞ったにも関わらず、40人の参加があった。これは、ここで10年続けてきた緑化活動が定着してきたことといえる。

事業をよく知る関係者の声

- ・最近、地震があった。幸い津波はなかったものの、2011年の光景を思い出した。海岸林の機能が弱かったり喪失していたりしていた地域の住宅被害が酷かったこともあり、海岸林づくりは大切であり有意義なことだ。これから間引きが始まる、長くこの事業に参画していきたい。(樹木医)

参加者の声

- ・数年ぶりに活動に参加した。前回植えた苗木も育っていた。今日植えるクロマツもきちんと育ってほしい。(30代会社員)
- ・緑化の大切さを子どもに伝えたくて、家族で参加した。(30代会社員)
- ・1000本を超える植林と聞き、大変そうだなと思いながらの参加だったが、ボランティア一丸となって行ったら見事に植え切ることができた。力が集まることの凄さを感じた。(50代会社員)



抵抗性クロマツ



ていねいに植樹



2000本を植樹



参加者

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：2000本
伐採、地拵え：0.2ha

参加者数

県内：35人
県外：5人
計：40人

樹種

抵抗性クロマツ

白子町海岸保安林整備事業

千葉県白子町



事業概要

東日本大震災に伴う津波や松くい虫の被害により無立木地化した白子町の海岸部に広がる保安林において、潮風や飛砂を遮へいするなど防災機能等の強化を図ることにより、生活環境の保全形成を図ることを目的として、海岸の厳しい環境でも生育することができる抵抗性クロマツの植樹を行った。

植樹を実施するにあたって、新型コロナウイルス感染症の緊急事態宣言が延長されたことにより、植樹をする予定であったみどりの少年団の参加が困難となったが、地元白子町のボランティアや町職員の参加を得て植樹を行った。

事業成果

新たな場所に植樹を行い、次代の保安林を増やすことができた。緊急事態宣言の延長で白子町みどりの少年団の参加が不可となってしまったが、町職員等がランテニアとして協力してくれたので無事に実施できた。少人数であった

が、コンテナ苗であったこともあり、効率的に植樹を行うことができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・コロナウイルスの影響で中学生が参加できないのは残念だったが、白子町職員等の協力により実施することができて良かった。植樹場所の土が固くなってしまい、穴を空けるのに手こずった。参加者が真剣に取り組んでくれたので短時間で植えることができた。(町職員)

参加者の声

- ・砂丘に植えたクロマツが大きく育って保安林の機能が強固になってほしい。(町職員)
- ・美しいマツ林になってほしい。今後もマツ林の再生の活動を続けてほしい。(町職員)
- ・コロナが収束していれば中学生の思い出になったと思う。(町職員)



植樹前の海岸



植樹方法の説明



抵抗性クロマツを植樹



コンテナ苗を植樹

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.18ha

植付本数：900本

参加者数

県内：26人

計：26人

樹種

抵抗性クロマツ

「岩沼・荒浜潮除須賀松の森」保育事業

宮城県岩沼市、仙台市若林区



事業概要

東日本大震災により壊滅的な被害を受けた仙台市沿岸域の海岸防災林について、その再生に向けて地域住民等との協働により保育活動を行いながら、失った「みどり」の重要性やその働き等への理解と関心を深めてもらい、海岸防災林再生に対する気運の醸成と、「みどりの文化」の普及啓発を図る。

事業成果

子どもたちの参加を促すことに力点を置いた。日常生活で様々な制約を受けている子どもたちが、楽しく元気に草取りやツル取りに励む姿は印象的であった。活動に全面的協力を頂いた団体が、創意工夫により被災地の自然環境の回復状況の観察や釣り、ビーチコーミングなどの活動を組み合わせながら体験学習を行ってくれたこともあり、引率教師から「充実した活動」であると感想と引き続き活動したいとの要望をいただいた。

事業をよく知る関係者の声

- 子どもたちはクロマツ苗の節(枝)を数え、その年月に思いを馳せながら一生懸命に草を抜き取っていた。帰り際にクロマツ苗に向かって「また来るから絶対に大きくなるんだよ」などと声をかけている姿を見て、子どもたちと海岸防災林の繋がりが生まれたことを感じた。大きな意味のある時間になった。(仙台市立小学校5年担任)

参加者の声

- 海岸防災林の成長をふさいでしまう草木があることを初めて知った。募金しようと思った。(小学5年男子)
- 防災林は津波からの被災を少しでも抑えるためにあることがわかった。貴重な経験を沢山でき、緑の募金に積極的に協力していきたい。(小学5年女子)
- 保育活動に参加できて大変良かった。海岸防災林の大切な役割などがわかった。(30代女性)



仙台市立錦ヶ丘小学校5年生による海岸防災林保育活動



仙台市立南材木町小学校5年生による海岸防災林保育活動



企業社員による保育活動



親子で保育活動

実績とりまとめ

作業内容

保育活動：1.43ha
イベント：6回

参加者数

県内：493人
計：493人

3.11 復活の森づくり～千葉県一宮町東浪見海岸林再生事業

千葉県一宮町



事業概要

3.11の津波の塩害によって、一宮町東浪見の海岸林も砂丘が削られるなど地域の暮らしを守ってきた海岸防災林がダメージを受けた。町ではオリンピックのサーフィン会場として誘致し、オリンピック終了後には、海岸林の機能回復をめざした緑化活動を計画している。本事業では、企業とともに、津波の被害を受けた千葉県一宮町東浪見海岸林の再生を図り、オリンピックを契機としたボランティアによる緑化活動の底辺拡大をめざす。

事業成果

予定していた植栽本数も植え終わることができ、海岸林の機能の早期回復に寄与することができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・植えるだけではなく、肥料や堆肥を混ぜる作業もあったので、大変だったと思う。早期に植栽への対応をしてもらい感謝しています。成長が楽しみです。(行政関係者)

参加者の声

- ・はじめて植栽ボランティアに参加した。思っていたよりも楽しかったので、次の草刈りボランティアにも参加したい。(協力企業社員)
- ・ライフセービングクラブに所属している。オリンピック会場への植樹ということでワクワクしました。植えた苗木が大きくなってくれると嬉しい。



植樹の説明



ていねいに植樹



抵抗性クロマツとトベラを植樹



参加者

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.96ha
植付本数：7350本

参加者数

県内：16人
県外：53人
計：69人

樹種

抵抗性クロマツ、トベラ、マサキ

豊かな森づくりへの道 実働型次世代育成事業

神奈川県横須賀市



事業概要

原生林は、人間の経済活動に伴い姿を消してしまっている。原生林は気候変動対策としても、二酸化炭素固定吸収・防災・減災などの機能を発揮することから、土地本来の原生林に近い森を再生するプロジェクトを推進している。ベースとなる混植・密植方式は、半世紀の実績があり、そのノウハウを当法人は継承している。その上で発展させ低コストで時代に適したリノベーションした手法を次世代へ敬称するため『森林再生指導員認定制度』を2017年より開始し、学生へ無料の実働型次世代育成事業を推進している。土地本来の森の再生と次世代育成は、両輪が健全に機能することが目標である。

事業成果

四期生の受講は社会人9人となった。オンライン形式の音声講座がいつでも無償で聴ける環境を得たことで、森林再生指導員の受講申込みをする人の輪の循環ができ、放送

後の令和4年春の受講生は、20人を超えた。また、受講生は京都・山梨・長野など遠方から通う方もおり、場所的隔たりがありながらも受講生に欠席や遅刻はなかった。

事業をよく知る関係者の声

- ・通常、こうした講座は座学が中心となり、知識として蓄積されるが、シルワの場合は実践が中心の完全な体験型研修の上に全日が野外での森の現場実修であり意義がある取り組みとなっている。情報過多により疲弊した若い世代の精神面のケアも同時に成している。(顧問)

参加者の声

- ・受講したことにより、植物や森、生物、地球への視点が変化したように思う。みんなに知ってもらいたいことばかり。これからも学びや実践を続け、森づくりにも携わっていききたい。
- ・これからもみ学びながら恩返ししていきたい。(四期生)



植生調査研修



植樹研修



水路づくり



基礎講座

実績とりまとめ

作業内容

野外講座：8日
野外実修：8日
森の学び：16日

参加者数

県内：21人
計：21人

森林環境保全型の自伐林業家養成事業

北海道七飯町



事業概要

個人所有林の未整備や放置が問題となっている。この問題に取り組むため、環境保全型の自伐林業家の担い手を育てるのが目的である。その方法として、七飯町大川の山林を借り、4工程8日間の講習会を実施した。講習内容は、①広葉樹施業とチェーンソー安全講習、②伐倒・造材・搬出、③作業道敷設講習、④作業道敷設講習。

事業成果

参加者は10代~70代と年齢幅も広く女性の参加者も多かった。この事から広い世代への普及の一步となったと思う。安全に森林の整備をしていく技術者が増えることで、地域の山林所有者にも整備していく事への理解と必要性を考えてもらう良い機会となりつつある。また、受講者間での交流により、今後も活動への継続可能な環境ができつつある。そして、具体的に森林保全活動への次のステップに繋がっている。

事業をよく知る関係者の声

- ・普段、山に縁のない方が講習会に参加いただけたことは、今後の活動に良い影響があると思われる。特に木の名前や特徴などの情報提供には特段の反応があり、このような情報を併せ持った活動には展開力を感じた。(当会会長)
- ・指導の際はゆっくりと個別にを徹底して行って無事故で終わることができた。技術指導と同時に安全面の指導も継続して力を入れていくべきだと思う。(林業家)

参加者の声

- ・林業は自分には縁遠いと思っていたが、主催者が女性ということもあり自分にもできるかもしれないと思い参加した。参加者にも女性は多く、驚き、意識は変わった。(40代女性)
- ・体験できとても勉強になった。ますます林業に関心がわいた。(50代男性)



チェーンソー講習



伐倒講習



作業道講習



座学講習

実績とりまとめ

作業内容

講習会：4回

参加者数

道内：103人

道外： 2人

計：105人

間伐材の資源化プロジェクト

岩手県盛岡市



事業概要

化石資源が地球温暖化と環境汚染をもたらしている現状の改善をめざし、地球に負荷をかけない木質資源の活用拡大に寄与する。主な活動は間伐材の活用でボランティアによる持続可能な森林整備の実現をめざす事業である。間伐材資源化と活用法の啓発として、簡易な製材機の使用を実践するとともに多面的な木質資源の利用を習得する研修会・体験会を行う。

事業成果

間伐材から32m³を資源化して活用した。CO₂削減38トン。間伐材から薪づくりをして16m³をバイオマスエネルギーとして資源化した。

簡易製材機の研修会と木工教室を開催して、良質間伐材を材に加工して木製品を製作した。間伐材からほだ木をつくり、植菌による栽培技術を研修した。

事業をよく知る関係者の声

- ・間伐材や風倒木も資源なので、ボランティアで資源化できるのは環境問題解決に有効で貴重な活動だ。技術を研鑽した参加者の作業は安心してまかせることができた。(団体代表)
- ・間伐材を製材加工し材として利用できるのは本当にありがたい。まだ未利用の木質資源があると思うので活動地域の広がりを期待したい。(会社役員)

参加者の声

- ・薪づくりで間伐材が立派な資源になるのはボランティアとしてやりがいがある。(60代男性)
- ・製材で余る背板も工夫次第で材に利用できる。販売できない間伐材も加工次第で価値が生まれるのは参加して知った。(60代男性)
- ・研修した木工技術を活かして次の作品にも取り組んでいきたい。(60代女性)



薪づくり(原木運搬)



薪づくり(玉切り作業)



木工体験(作品の加工)



キノコ栽培研修

実績とりまとめ

作業内容

薪づくり：8回
製材研修・木工体験：10回
キノコ栽培：3回
機材整備研修：1回

参加者数

県内：229人
計：229人

栗原市行者の滝周辺「癒しの森」植樹活動

宮城県栗原市



事業概要

平成20年6月に発生した「岩手・宮城内陸地震」により失った森林を再生させ、その地を「癒しの森」として人々に親しんでもらえる場とすることを目的としている。そのため、栗駒地域で育った苗を掘り取り、またドングリから育てた苗を植樹する取り組みを行っている。

事業成果

①植樹地はデコボコで湿地のところや大きな石があり人力での作業が困難なところもある。水のたまりやすい湿地には側溝を掘り水はけをよくしている。

②感染対策のために一般公募はせずに、これまで参加し

た人への案内に留めたが、会員でもいつもと同じメンバーしか集まれなかった。植樹は3年目で、すでに900本を植えている。年々植樹した面積も増えて、草刈りが大変になっている。

事業をよく知る関係者の声

- ・植樹地の一部に土を入れて植樹をしやすいようにした。敷地が広いので、まだまだ作業は続きそうである。(宮城北部森林管理署)

参加者の声

- ・コロナ禍の中、開催が危ぶまれたが毎年参加しているので今年も参加できて良かった。



排水溝づくり



コナラやミズナラを植樹



支柱を立てる



下刈

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：300本
下刈面積：0.3ha
竹の目印：0.2ha

参加者数

県内：140人
県外： 3人
計：143人

樹種

コナラ・ミズナラ

トトロの森と狭山丘陵周辺緑地での里山保全

埼玉県所沢市、入間市、東京都東村山市、東大和市、武蔵村山市



事業概要

目的は、生物多様性保全を行うため里山環境を再生し、このような活動を普及し、経済・人力的支援に繋げ、持続的な里山管理をめざすことである。主な活動は以下のとおり。①里山管理ボランティア「何かし隊」、地域の協力団体を中心としたボランティア活動の運営と作業道具の確保、安全教育、作業環境の整備の実施。②里山保全活動の普及啓発のための各トラスト地解説看板の作成と設置。③新たなボランティア参加のための登録説明会と自立に向けた安全管理・里山管理技術を持ったボランティアの育成講習会の開催。④各トラスト地の管理を担うボランティアグループの確保・自立に向けた基盤整備。⑤危険・支障木等の処理。

事業成果

活動・講習会等は新型コロナウイルスの関係で中止が相次ぐこととなってしまった。しかし、その様な中でも1つの新たな協力団体を結成させることができた。また、2回

のボランティア登録説明会で、10人の新規登録者を得た。

今年度はナラ枯れの猛威にもさらされ、危険木・支障木が急増した。対策として事務局職員での管理作業や状況調査、外部委託作業を進め、処理優先度の高い危険木・支障木を処理することができた。今年度は新たなトラスト地を3箇所取得をすることができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・子どもたちの未来のために、幅広い年代層を対象としたガイドツアーなど、とてもいい取り組みと思った。(協力団体女性)
- ・自然の中での作業は健康維持や気分転換にも最適だが、若い世代への引継ぎが問題だと思う。(協力団体男性)

参加者の声

- ・何かし隊の活動はいい運動になる。伸び放題で荒れたところほど伐採に力が入る。きれいに刈り終わったあとを眺め、ほっこりするのが楽しみ。(何かし隊・60代男性)



希少植物調査



ササ刈り



落ち葉掃き



アカマツの植樹

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.04ha
 植付本数：50本
 下刈面積：8ha
 除伐面積：8ha
 間伐面積：8ha
 森林資源活用：6回
 看板修理・設置：28回
 ナラ枯れ調査：50回

参加者数

県内：481人
 県外：202人
 計：683人

樹種

アカマツ

神奈川の森づくり「山北町と湘南海岸林」

神奈川県山北町、茅ヶ崎市、藤沢市



事業概要

町の大部分を森林で占めている神奈川県山北町で森林の機能回復および景観整備を目的として森林整備を行った。活動内容は雑木林の除伐、間伐、草刈り、枝打ちなど。また同じく神奈川の湘南海岸に位置する砂防林の維持管理活動も行った。補植用のクロマツ苗の草取りや砂防林内の下刈、ツル切り、間伐などを実施した。

事業成果

新型コロナウイルスの影響により、思ったような活動ができずまた参加者を募集するのも苦勞する場面が続いた。それでも熱心な参加者のお陰で整備活動も順調に進めることができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・なかなか活動ができない時も続いているが、感染症対策を実施した上で整備していただき感謝している。今後も継続的にお願いしたい。(山北町役場)

参加者の声

- ・外出自粛が続いていたので屋外で体を動かすことができ良かった。(20代男性)
- ・初めてだったが、森がキレイになる活動に参加でき「貢献している」との実感もてた。(30代女性)



海岸林での草取り



海岸林での間伐体験



下刈 (山北町)



森林整備 (山北町)

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：2.47ha

除伐面積：2.12ha

間伐面積：3.1ha

参加者数

県内：44人

県外：63人

計：107人

市民参加による森林づくり「山と緑の協力隊」

滋賀県多賀町



事業概要

かつてマツ林だった高取山ではヒノキ人工林として整備が進められている。この場所で除伐・間伐などを行い森林の維持活動に貢献するための活動を行う。間伐材を製材し木材として生産される工程を学こともできた。また地元森林組合職員を講師として森林教室を開き、水源涵養を理解する機会にもなった。

事業成果

高取山では、今年度はじめて活動を行ったが、間伐に加えて製材を経験する機会もあり、木材が生産される工程を学ぶ機会につながった。参加者もより身近に森林を体感することができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・こういった時期ではあったが、各地から参加いただきありがたかった。これからも継続して活動を実施してもらいたい。(地元森林組合職員)

参加者の声

- ・林業における一連の作業を経験することができ、色々な知識が必要であること、また労働に対する評価が木材の価格として反映されにくいことがわかった。
- ・私たちの生活に森や自然が大切なことが分かったので緑を大切にしていきたい。



伐採の見学



間伐体験



製材体験



森林教室

実績とりまとめ

作業内容

除伐面積：3.42ha

間伐面積：3.42ha

参加者数

県内：4人

県外：22人

計：26人

高田松原再生整備事業

岩手県陸前高田市



事業概要

2011年の東日本大震災の津波で壊滅的な被害にあった名勝・高田松原(岩手県陸前高田市)。2017年以降は地元NPO団体が中心となりクロマツの植樹も始められている。毎年6月から10月にかけては、植えられたクロマツの苗の背丈ほどの雑草も生い茂っているため除草活動を行った。あわせて震災の様子を学び次世代に語り継ぐことを目的として、地元ガイドと市内の震災遺構を巡り、震災当時の状況や復興の様子を学ぶ防災学習も行った。

事業成果

今年初めて実施したボランティアプログラムだったが、東北地方在住の方を中心に参加者も集まった。海岸での除草活動と併せて陸前高田市の復興状況などを巡る防災学習も行ったことで、参加者の学びとなる活動を行うことができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・除草活動は地味な作業だが、皆さん一生懸命に取り組んでいただき、一面がきれいになった。これからも来てください。(指導員)

参加者の声

- ・高田松原の再生に向けて、少しだけれど力になれた感じがした。(30代女性)
- ・日程的に仕方なかったが、体力的にはあと1時間ほど作業できたと思う。(20代男性)
- ・震災から9年経つが、こうして陸前高田まで来て地元の方と一緒に作業することで改めて震災について考える時間になった。(20代女性)



除草



除草



マツについて学ぶ



防災学習

実績とりまとめ

作業内容

除草：1回
防災学習

参加者数

県内：6人
県外：7人
計：13人

北浅川上流地区の森にホテルを飛ばそう！

東京都八王子市



事業概要

目的は、森林内の土壌改善を通じて枯れた沢を復活させ、森全体を健全化させるとともに水源かん養機能を高めながら生物多様性の高い豊かな森を創出する活動を行うことである。主な活動は以下のとおり。①沢の水の流れを停滞させている箇所や土砂等の除去、②沢周辺の法面で表土が流出しやすくなっている箇所に片づけた枝葉を利用して小規模な土留めを作製、③炭や有機物を活用した土壌改善、④随所に溝や穴を掘ることでの大地の呼吸口づくり、⑤①～④を安全に実施するための活動エリアの危険木等の伐採など。

事業成果

沢の詰まりを除去したり、流れを滞らせる石などを退けるなどの造作を続けた結果、長く雨が降らない時でも、わずかながら水が残る場所なども現れ、以前は見られなかった水棲生物を確認できた。

事業をよく知る関係者の声

- ・森林再生や生物多様性の創出のため、場当たりの生きものの放流をせずに環境そのものを改善していこうという会の活動は高く評価している。しかし、植物については地域の植生について配慮していただきたい。例えば、高尾の在来種は赤くならず黄葉するのが特徴であり、国内外来種には該当しないからと近県から持ち込んで安易に移植せず、本来の高尾の自然を守ってほしい。(植物専門家)

参加者の声

- ・故郷の森を守り、地球環境を守って子どもたちまで繋げていきたい。こういう機会があってとても助かりました。これからも継続して参加し、森の手入れのやり方を身につけたい。(30代女性)



沢の整備



道際に植栽



森林整備



倒木処理

実績とりまとめ

作業内容
地拵え等：14回
参加者数
都内：50人
都外：10人
計：60人

富士山で学びながら広葉樹の森林を復元する活動

静岡県富士市



事業概要

静岡森林管理署との協定に基づき、富士山南麓の国有林を天然林に復元する活動1996年の台風による被害を受けたヒノキ人工林跡を広葉樹林に戻すための維持管理、保育活動。遷移を進めるために天然林の構成樹種を補植する。補植に使用するために天然林から種子や山取苗を採取、苗木の育成を行う。季節に応じて春期に補植、夏期に下刈・ツル切り・低木類の刈り払い等、秋期に種子採取、通年の保育作業として苗木の育成、土壌保全等を行う。同時に自然での活動体験や富士山の自然を観察する機会を設けて生き物、生態系・森の成り立ちに関する知識を深め、環境教育の効果をあわせて持った活動にすることを目標としている。

事業成果

新型コロナウイルス感染症の拡大により、団体を受入れ体験学習する活動の企画は難しかったので、日帰り現地講

座を企画した。森づくり関連の活動については、参加者や移動手段、宿泊施設等を事前に調整することにより7月、9月、10月に保育作業、9月、10月に種子採取を計画通りに実施できた。学生の実習参加も日程・人数とも限定されたが10月に実施した。

事業をよく知る関係者の声

- ・新型コロナの影響により学生の参加は影響を受けてしまう。大学の対応を含めて、今後もよく相談しながら実施内容等検討していく必要がある。(東京農業大学教員)

参加者の声

- ・参加できるか心配していたが、フィールドでの活動に参加できてうれしい。
- ・社員で参加できる取り組みを探していた。参加して充実した活動だったため今後も参加を検討したい(企業の組合活動担当者)



ブナの種子採取



大学生が育成した苗の仮植え



カシノナガキクイムシ被害木の撤去作業



樹木学講座

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.3ha
 植付本数：350本
 下刈面積：0.7ha
 除伐面積：0.7ha
 自然観察会：4回
 種子採取：3回
 活動報告会：2回

参加者数

県内：8人
 県外：89人
 計：97人

相模湖若者の森づくり 知足の森整備活動

神奈川県相模原市



事業概要

中高生が主体となって、放置林を月2回をベースとした間伐・枝打ちの森林整備作業を行う。シカの侵入の影響について調査を行い、シカだけでなく小型哺乳類も多く撮影された。さらにアライグマといった外来種も確認されている。整備された森を使って地元小学生を対象とした体験学校、高等学校スーパーサイエンスハイスクールの実習も行うことができた。

事業成果

東京学芸大学内の研究センターとの連携が進み、コロナで自粛する定例活動も複数回あったが、参加する中高生がコンスタントに増加し、毎回15~20人ほどが参加している。調査も多様化してきている。また、地域の製材所との連携も進み、材の有効活用が進み、大学研究施設で様々な体験に活用できるようになった。

事業をよく知る関係者の声

- ・間伐材を有効活用するお手伝いをさせていただいた。中学生たちは試行錯誤しながら作ることを通して、木スキルだけでなく人と関わる力をメキメキ向上させている。自分の手で物を作り、それを人に使ってもらうことでアイデアを広げ、活動の豊かさにつながればと考えている。(VIVITA株式会社)

参加者の声

- ・作業の中で一番楽しかったのは間伐です。木の切り込み加減を調節しながら伐ることが難しかった。ロープを引いて木を倒した。ロープを引いている途中で他の木にぶつかるともあったが、ロープでうまく方向を変えることもできた。達成感があった。(中学1年女子)



枝打ち体験



間伐体験



体験学校竹ドームづくり



間伐材の活用、大学図書館にベンチ寄贈

実績とりまとめ

作業内容

除伐面積：0.2ha
 間伐面積：1.3ha
 体験イベント：1回
 高校実習：1回

参加者数

県内：100人
 県外：285人
 計：385人

竹林の持続可能な保全と活用

神奈川県横浜市、中井町



事業概要

竹林の持続可能な保全と活用を進め、タケが地域で循環する仕組みを創ることを目的に以下の活動を行った。5カ所の竹林保全活動を93日間実施。次世代育成活動を竹の学校を中心に管理講座、体験教室、竹工芸講座、出前講座等を29回実施。間伐材活用プロジェクトとして竹灯籠を2回開催、タケノコすめ加工販売を実施。竹林活用、地域活性化プロジェクトとして竹灯籠祭2カ所、タケノコ掘りイベントを2カ所で実施した。

事業成果

地域資源を活用したイベントでは地元町内会、学生団体、

小学校、企業等の連携がさらに広がり、間伐作業への参加者も増えており、よい循環ができてきた。

事業をよく知る関係者の声

- ・「タケについて学びたい」という学校関係者の声も多数寄せられている。また、地元施設関係からのコラボの要請も寄せられている。

参加者の声

- ・「竹灯籠祭」は、すっかり地域の風物詩となった。(男性)
- ・小机は、竹林に癒される隠れた名所的な場所です。(男性)
- ・「竹灯籠祭」は、小さな子どもも参加できるので楽しい。(女性)



竹林整備



竹林整備



タケのチップ化



竹灯籠祭

実績とりまとめ

作業内容
 間伐面積：10ha
 竹灯籠祭：2回

参加者数
 県内：3934人
 県外：400人
 計：4334人

都市の里山資源の活用推進

神奈川県横浜市



事業概要

都市の里山保全活動では、活動によって産出する間伐材や樹林地内の植物等が資源は、自団体が活用する他は、ほとんど活用されていない。持続的な里山保全及びその活動を推進するため今年度は、よこはま里山研究所が活動する川井緑地に参加するボランティア、スタッフを中心に、里山の資源有効活用のための研修会を開催した。①森のめぐみお香材料を学ぶ講習会、②グリーンウッドワーク研修会、③自然豊かな「川井の森」で癒しの体験講習会、④水中乾燥研修会 また、当該団体の定例活動日である第2、第4日曜日に、樹林地整備や製材作業を継続して実施した。

事業成果

過年度に取得した技術を活用し、里山保全活動で産出する里山資源の活用を検討した。

今年度、グリーンウッドワークによる生木の活用、材の乾燥の理論や技術、また、今まであまり注目されてこなかったスギ、ヒノキのお香材料としての活用など、新たな活用法を学ぶことができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・お香材料を学ぶ講習会：材としての活用ばかり考えていたが、他の活用法を知ることができたことは良い機会であった。
- ・グリーンウッドワーク研修会：実際に道具の使い方を学ぶことで、次年度以降の活用につなげられると感じた。今年度は道具の数が十分ではなかったため、ワークショップを開催する場合は、道具類の整備が必要と感じた。(当団体の研修担当理事)
- ・水中乾燥研修会：理論的になぜ乾燥中に木が割れるのかを学ぶことができ有意義であった。(当団体活動メンバー)

参加者の声

- ・森にお香の材料になる多種の植物があることがわかり勉強になった。(40代女性)
- ・生木を加工する楽しさを体験することができた。(30代男性)



定例活動 伐採



定例活動 製材



「お香材料を学ぶ講習会」の材料



生木の加工を学ぶ「グリーンウッド研修会」

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：5.4ha
除伐面積：5.4ha
間伐面積：5.4ha
森林資源活用研修会：3回

参加者数

計：363人

都市近郊の新しい里山づくり

東京都八王子市



事業概要

目的は、里山の手入れによる生態系回復と地域のシンボリックな里山にすること。また、その過程において環境と人の生活を考え、この先も具体的な取り組みを実践していくこと。主な活動は、竹林整備、ササ除去、広葉樹育苗および植樹、古木の除間伐整備。地域住民との緑地内材料（主にタケ）によるベンチや堆肥圃製作、落ち葉および竹の粉碎チップによる堆肥づくりなど。

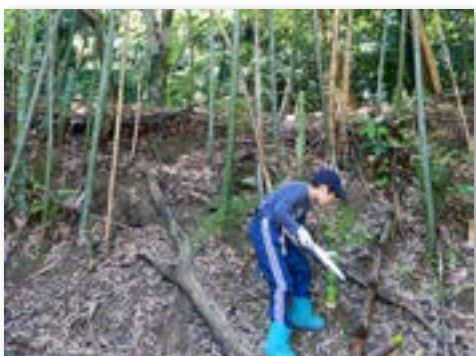
事業成果

地域住民との日常的な作業展開。週3日、都合の良い時

間に少数で進める作業を展開（コロナの影響もあり）。これにより、ボランティアがより自分の好きな作業を計画的に展開できるようになり、活動がより主体的にできるようになった。タケやササのチップ化により、林内がかなり整然としてきて、地域の方々からの声掛けが多くなった。

事業をよく知る関係者の声

- ・ここ1年、看板による告知を含め日常的に作業に入っているため、顔見知りとなり、直接的な情報も得れるようになった。暗くて一人歩きが怖かった緑地が、徐々に明るくなっていくのは楽しい。（緑地を散歩している方）



子どもたちも参加して竹林整備



2竹材の粉碎



林床の整備



竹材でベンチ製作

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：100本
下刈面積：3ha
除伐面積：2ha
間伐面積：1ha
講話：2回

樹種

コナラ、クヌギ、カエデ

熱海市の森林整備と木材加工

静岡県熱海市



事業概要

放置林の再生化、間伐材の価値向上のための加工、地域貢献のために間伐材加工品を市内に還元したり市民の方々を中心とした体験コンテンツを提供する。「みんなでつくる森づくり」を通して熱海の森での課題や解決策のひとつを感じてもらい取り組みを実施した。

①森林の整備事業:間伐を引き続き実施し、搬出のための道づくり、その後セラピーロードとしての活用。自然郷・姫の尾・紅葉が丘の放置林の再生化に取り組んだ。

②間伐材の利用・加工事業:間伐・搬出した木材を、製材加工をする取り組み。企業から依頼を受けた間伐材プランターや熱海市内レストランからの依頼の間伐材プレート&ウッドチップ。マルシェやイベントでの加工体験も行った。

事業成果

市有林である自然郷では、「山や人に優しい道づくり」を

学び、より搬出の可能性を拡大できた。また、自然郷管理会社とのつながりもでき、自然郷に住む方々とのつながりをつくるべくワークショップなどを実施した。

事業をよく知る関係者の声

- ・当初の5カ年計画で熱海市が掲げていた「モデル林を作ること」「セラピーロードとして開放していくこと」に一步步ずつ着実に進化している。今後も地産地消な取り組みを応援している。(熱海市役所職員)
- ・我々の森をキコリーズの森として活用してもらいたいと提案したのが4年前のこと。森林浴フィールドエリアが完成するの楽しみだ。(森林所有者)

参加者の声

- ・森の作業も大工さんの仕事も楽しかった。(40代女性)
- ・ヒノキの皮はバラバラで触って面白かった。(小学生男子)



間伐



間伐した木の枝払い



間伐材の搬出



間伐材の加工体験

実績とりまとめ

作業内容
 間伐面積：0.2ha
 森林資源活用：2回

参加者数
 県内：6人
 県外：6人
 計：12人

間伐整備活動で取組む三河湾の生態系の保全

愛知県岡崎市、長野県根羽村



事業概要

目的は、森林の間伐整備を行い下流域に良質な砂と水を持続的に供給する森づくりである。主な活動は以下のとおり。①関係地域の森林組合等会議に出席し情報収集と交流に務める。②愛知県県有林、岡崎市額田地区私有林、長野県根羽村の森林で年間約50日（週1回）、森林測量・下刈・除伐・間伐活動を実施し森林の整備活動を進める。③毎回の間伐整備活動で「間伐体験希望者」を受け入れ、間伐作業の重要性の啓蒙・啓発と新会員の確保に努める。④会員の間伐技術の習得と向上を図る。

事業成果

間伐作業の効率化と安全性の向上を目的にした架線集材により間伐を進めることができた。また、年間を通じて26人の間伐体験希望者を受け入れることができ、5人が新規会員となった。

事業をよく知る関係者の声

- ・間伐こもれび会は、年間を通して間伐活動を実施している。熱中症対策として一部会員は空調服を使用しているが、参加者全員の熱中症対策が必要だ。(会員)
- ・間伐体験者に貸し出す「安全装備(ヘルメット・防振手袋・チャップスなど)」や「チェンソー」の充実が必要である。(会員)

参加者の声

- ・間伐作業体験者の感想や画像・動画を見て活動を知り間伐体験に参加した。全てが新鮮でした。(40代女性)
- ・新緑の中での間伐作業を体験。夏、秋、冬の間伐作業にも参加してみたい。(男性)



間伐材の集材



架線集材



参加者



間伐など森林整備の意味を伝える看板を設置

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：5.18ha
 除伐面積：5.18ha
 間伐面積：5.18ha
 森林資源活用：94㎡
 作業道整備：170m
 ワイヤー設置：170m

参加者数

県内：456人
 計：456人

資源利用と環境学習によるやまんばの森再生

滋賀県米原市、多賀町



事業概要

放置された里山を持続的に保全するため、森林資源を薪等として積極的に循環利用するとともに、森林環境学習・自然体験により将来の人材を育成した。また、老朽化した環境学習等の拠点施設の一部について修繕を行った。

事業成果

何度かコロナ感染拡大の波があったが、相互に感染予防措置を行ったことで、屋外を基本とする活動ではクラスターの発生は起きないことが分かった。

事業をよく知る関係者の声

- ・墓等を損傷することなく伐採を行っている状況を見て信頼感が生まれた。また、隣接する保育施設に影響を与えそうな所有地の樹木伐採の依頼に応えたことで大変感謝された。(森林所有者)

参加者の声

- ・高所伐採を含めチェーンソー作業に関心があり、安全技術を身につけたうえで、もっと積極的に参加したいと思うようになった。



里山整備



薪づくり



高所での枝払い



タケ伐採(森林環境学習)

実績とりまとめ

作業内容

間伐面積：1.1ha
 森林資源活用：60.5台
 (2tトラック)
 施設修繕：5回
 高所伐採作業：18回
 自然体験：7回
 森林環境学習：2回

参加者数

県内：403人
 計：403人

大学生による森林・竹林整備

京都府京都市、南丹市



事業概要

京都府立大学演習林の森林環境の改善を目的に、植林を行った谷で下刈や低木の除伐を行った。枯死竹や古竹が多く放置されている竹林環境の改善を目的に、枯死竹や古竹を伐採した。

事業成果

サカイ谷においては、ヒノキの稚樹が十分に成長し、そのうえヒノキの成長を阻害する下草と低木を伐採することができたので、来年度は下刈を行う必要なくなった。キノエ谷では今年度分の下刈は完了したが、ヒノキの稚樹が成長しきっていないので、来年度以降も引き続き下刈を行う

必要がある。竹林整備は作業回数が少なかったため、次年度以降も引き続き整備を行わなければならないと思われる。

事業をよく知る関係者の声

- ・新型コロナウイルスでサークル活動が制限されるなかで部員たちができることを自分たちで探して活動を行って、素晴らしいと思った。(森なかまOG)

参加者の声

- ・大学の実習等では経験できないことをサークルを通して体験でき、森林保全に関する知識や学びが深まった。これらの活動を後輩に伝えて今後も継続的に森林保全に携わりたい。(20代学生)



作業前ミーティング



下刈



竹林整備



下刈作業参加者

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：2.28ha
竹林整備：1回

参加者数

府内：46人
計：46人

里山整備事業

兵庫県加東市



事業概要

①温暖化の要因であるCO₂の吸収を高める。②森林資源の育成と有効活用。③野生動物の生存エリアを確保し獣害を減少させる。④土砂くずれ等の災害発生要因の減少。⑤地域の農業・林業が衰退し過疎化が進む地域において、森林再生により地域活性化に貢献する。⑥森林内での生物多様性について調査する。

実施内容は下記のとおり。①下刈、倒木及雑木除伐。②雑木の除伐・間伐、スギ・ヒノキの間伐、森林再生により林内通行が可能になり、学童の遊び場、市民来場が可能になった。③バイオエネルギーの需要は低く採用見送り。薪材、薪割台を試験提供。④集いの場であった旧東屋付近の雑木などの除伐を再度実施、森林の立入を可能にする。⑤森のようちえん見の体験学習。⑥林内に放置されたため池があり今後他グループと生物の生息を調べる。

事業成果

本年度は前年実施分より隣接の森林整備を実施する。寺から民家へ下る区域の森林で面積1.4haである。

事業をよく知る関係者の声

・かつては、寺のふもと民家が立並び、墓地、神社、地藏堂も周辺に点在し、地域住民と寺を中心にしたコミュニティを守られていた。高齢化と過疎化が進み、活性を失って久しい。今後は寺従事者、参拝者、地域住民との交流増が見込める。ボランティアで地域の整備を進めていただけなのはありがたい。(住職)

参加者の声

・整備した森林内で宝探しを行い、園児たちの盛り上がりが見られ楽しく過ごすことができた。来年も参加したい。(森のようちえん)



森林整備活動前の放置状態の人工林



森林整備活動後



森林整備活動後



森の宝さがし(森のようちえん)

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：1.4ha
 樹勢回復：2000本
 下刈面積：1.4ha
 除伐面積：1.4ha
 除伐本数：1500本
 間伐面積：1.4ha
 間伐本数：500本
 通路設置：20m

参加者数

県内：187人
 計：187人

樹種

スギ、ヒノキ、広葉樹

国境を越えたSDGs 六甲の森・里山づくり

兵庫県神戸市



事業概要

目的は、様々な国籍の児童・学生・若者を対象に新たなSDGsプログラムとして植樹や間伐等の体験コースを整備し、地域の里山や森林の復元に取り組むことである。主な活動は、①植樹、苗木の手入れ、下刈、②中低木の移植、③間伐、ナラ枯れ樹木の伐採、④竹林の整備、間伐材の有効活用、⑤環境教育を含むSDGs教育、⑥チェーンソー取扱い研修、チェーンソーの活用など。

事業成果

①定期的に森林管理を継続しながら78本の苗木を植樹できた。②植樹やタケ伐採・資源有効活用のコースを含めて初めて5つのSDGs体験コースを整備し、高校生を対象としたSDGs校外学習を実施できた。③鉄塔付替え工事に伴う伐採計画が関電グループから提案されたが、現場での打合せ後、当団体で移植体験ワークショップを企画して26本を移植できた。④チェーンソー取扱い研修会を2回実施してメ

ンバーが技術習得。当団体活動エリア以外にも六甲ハイキングコースそばのナラ枯れした木を伐採。

事業をよく知る関係者の声

- ・多様な参加者が集って活動をすることで、楽しみながら社会の課題を発見し課題解決を試みる取り組み。植樹活動は、自然をこれ以上壊さないようにし、私たちの未来を私たちの手で創るという積極的な取り組みだ。若い人たちが自分たちの自然を大切にしていけるような環境づくりを行うという意味で大変意義のある活動で、今後も引き続き活動していただきたい。(大学准教授)
- ・日本に居ながら国際交流を体験できる場であり、森林保全・里山復元の大切さを伝えながらこの取り組みを更に充実させていってほしい。(協賛企業担当者)

参加者の声

- ・伐採の可能性があったモミジやサクラを移植した。命の大切さや多様性を感じる体験となった。(20代大学生)



森林整備と中低木の伐採



チェーンソー取扱い研修会



タケ伐採 (SDGs 校外学習)



植樹 (SDGs 校外学習)

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.9ha
植付本数：78本
下刈面積：2.0ha
除伐面積：0.3ha
間伐面積：1.2ha
森林資源活用：150本
移植：26本
SDGs環境教育：13回

参加者数

県内：644人
県外：9人
計：653人

樹種

サクラ、ムクノキ、ザイフリボク、ヤマコウバシなど

鹿ノ台周辺緑地の再生事業

奈良県生駒市



事業概要

12haの鹿ノ台周辺緑地は住宅開発から40年が経過し、緑地や隣接河川へのゴミ不法投棄及び緑地全体が暗く密林状態にあったことから、地域住民から苦情が寄せられていた。そこで、生駒市と協議の上で、これらの課題を解消するために、以下の活動を実施した。①住民主体による間伐、下刈、枯損木処理、不法投棄ゴミの集積など林内整備。②良好な沿道景観を形成するため花木類を植樹。③疎林化した箇所では、既存植生を勘案しヤマザクラ、ヤブツバキほかを植樹。④未利用地の活用ではチューリップのオープンガーデンとし、地域住民の憩いの場として一般に公開した。活動の結果として、四季彩を身近に感じられる明るい樹林地となった。

事業成果

継続的な林内整備に加えて、特に急斜面地の侵入タケ間伐や植樹などの作業を実施。コロナ禍で、計画通りに進ま

ない点もあったが、若手の参加もありコミュニティーの広がりを得ることができたことで、住民自ら地域を見直す良い機会となり新たな発見につながった。

事業をよく知る関係者の声

- ・密林化した緑地、部分的に荒廃した急斜面地などへのゴミの不法投棄や防犯防災面を解消し、生活者の更なる地域愛を育むことができた。これまでに2000本以上の植樹を行い、シニア層の社会貢献は、SDGsを地域から創生した活動である。(生駒市長との面談で)
- ・構成員の高齢化に伴い、次世代への継承を考えること。(鹿ノ台自治連合会)

参加者の声

- ・自分たちの街にこんなに豊かな森があるとは知らなかった。身近な緑を大切にしていきたい。(30代子育て世帯)
- ・良好な自然景観が生活に潤いを与え、安らぎを感じている。(70代男性)



林内整備



管理道の補修



シラカシ、ヤマザクラほかを植樹



未利用地を花畑に

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：約1ha
 植付本数：80本
 下刈面積：約6ha
 除伐面積：0.7ha
 間伐面積：約2.5ha
 作業道修理：約3km

参加者数

県内：497人
 計：497人

樹種

シラカシ、クロガネモチ、ヤマザクラ、ヤブツバキほか

憩いの場として豊かな自然の森づくり

奈良県奈良市



事業概要

県立矢田山遊びの森の多くの方が森に親しみながら歩く沿道において、手入れが遅れ枯損木や雑草が繁茂し、景観と小動物のすむ自然環境を阻害している所の整備を実施した。内容は主に下刈とナラ枯れをして倒木となると危険な枯損木処理であり、公園開設時に植樹したモミジなどを残し景観の回復に努めた。間伐で出た木材は薪やクラフト製作の材料として利用した。森林整備に関わる活動の意識向上のため、講師による森林環境教育を実施した。

事業成果

すでに育っているモミジなどの景観の回復を行うため、伐採する木を選び下刈時に伐らないように明示や注意をしながら行った。また、年々ナラ枯れ後に放置された枯損木

の伐採の危険性・難易度が上がる状況であったが、メンバーの伐採や工具の取扱い技術の向上をしながら安全に作業ができた。若者の新規参入や募金への協力が増えた。

事業をよく知る関係者の声

- ・活動によりハイキング道が明るくなり森林環境が改善された。また、薪を作り公園管理棟での利活用が進み、結果として今冬は灯油を購入することなく燃料代削減のほかCO₂削減などの効果がみられた。(公園管理者)

参加者の声

- ・年間を通じて整備をすることで環境が改善されていくのが感じられた。コロナ過であったものの、安全に配慮しながら野外活動をすることで健康的な森林活動ができた。



道周辺の下刈



枯損木伐採



森林整備



森林環境教育

実績とりまとめ

作業内容

樹勢回復：75本
下刈面積：1ha
間伐面積：1ha
森林資源活用：14本

参加者数

県内： 8人
県外：122人
計：130人

尾の瀬山ヤマザクラの森と竹林の整備事業

香川県まんのう町、綾川町



事業概要

山火事で焼失した森林を再生して環境保全を図るために植栽したヤマザクラ植林地で下刈と補植を行った。荒れている竹林を適切に管理することで竹害を抑えるために伐採など整備を行った。

事業成果

ヤマザクラ植林地は傾斜地での作業だったが、仲南町森林組合や香川県西部林業事務所に安全指導を行っていただいた。参加者は下刈や補植を行うことで次の作業につなげることができた。竹林整備は新型コロナウイルス禍により実施が心配されたが新規参加者がいて、さらなる広がりの可能性を確認した。

事業をよく知る関係者の声

・継続した下刈等の整備活動は、その作業の大変さとともに

に、植林したヤマザクラの成長を確認することで、森林保全活動への参加意識の向上につながる意義ある活動と感じた。(労働組合執行委員長)

・各参加者が十分に作業できるよう、事前の説明にもう少し時間をかけてはいかがでしょう。(実行委員会担当者)

参加者の声

・下刈は傾斜地での作業だったので大変だったが、一人一人ができることを取り組んでいくことの大切さを感じた。(40代男性)

・普段の生活では自然と触れ合う機会が少ないため、子どもの教育にも非常に良い活動と思った。(30代女性)

・春になったら開花しているヤマザクラを見に来たい。(中学生女子)

・生い茂った竹林の中は暗くて危なかった。(20代男性)



ヤマザクラ植林地の下刈と補植



作業参加者



竹林整備



竹材を粉碎

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：約0.1ha
植付本数：70本
下刈面積：約1ha
竹林整備：1回

参加者数

県内：78人
計：78人

樹種

ヤマザクラ

北上川の上下流を結ぶ緑の再生活動

岩手県八幡平市



事業概要

目的は、岩手県八幡平市・旧松尾鉱山跡地の植生再生のために実施してきた植樹について、さらなる定着や生長をめざした育樹活動とその活動による環境意識啓発である。主な活動は以下のとおり。①すでに植えてきた樹木（2014、2016年度植樹）の剪定と追肥、枯損箇所への補植、②冬季の風雪から幼木を守るための防風柵の設置・補修、③育樹のための作業手順書の作成と事前講習・事業説明、現地指導。

事業成果

参加者が減ったものの2014・2016年度に植樹した苗を対象に計画通り実施できた。団体参加者のうち高校（仙台市）は毎年生徒が替わるため新規参加者といえるが、社会人は

ほぼ継続経験者。作業手順の動画を作成し事前視聴をお願いした。

事業をよく知る関係者の声

- ・生徒にとって穴掘り器や剪定バサミなど不慣れな道具も多く、予定よりも時間がかかることを見込み、引率教員にも実務的な事前学習をしてもらった。作業手順の動画を見せていただき、作業概要はつかめたと思う。（高校教員）

参加者の声

- ・事前に作業手順の動画を視聴でき、継続参加のため何となくこなしていた作業手順が良くわかった。



ナナカマド、ミズナラを植樹



追肥用の穴掘り



防風柵の設置



剪定

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.42ha
植付本数：320本
樹勢回復：1680本
下刈面積：0.2ha
防風柵作り：40組

参加者数

県内：128人
県外：533人
計：661人

樹種

ナナカマド、ミズナラ

世田谷・川場上下流連携の森林活性化事業

群馬県川場村



事業概要

放置されている川場村内の人工林を下流域の世田谷区住民が地元の地権者等と協力して整備する。主な活動は、①地元住民と協力した除伐・枝打ち・間伐、②植林とその育成のための下刈、③間伐材を燃料に、近くにある広葉樹や竹林・松林の整備で発生する材などを原料として炭焼きならびに地元で計画されているバイオマス利用への協力。「循環型」の森づくりのサイクル完成。

事業成果

川場村で進められていた間伐竹材のバイオ肥料づくりへの

協力の第一弾として間伐した竹材の粉碎機による材料づくりを実施した。ただ、コロナの影響で施業現場作業ができる参加者が大幅に減り、間伐などの施業実績が残せなかった（前年度の1～2割程度）。

事業をよく知る関係者の声

- ・間伐材運搬の問題から村のプロジェクトへの協力が難渋されていた。しかし、今回運搬については村で対応できたため、バイオ肥料づくりへの協力を始めていただいたことは本当にありがたい。（川場村村長）



間伐（木炭用）



炭焼き



竹林整備



タケ粉碎

実績とりまとめ

作業内容

間伐本数：10本
下刈面積：0.8ha
除伐面積：0.4ha
間伐面積：0.8ha

参加者数

会員：77人
計：77人

津波や大雨等からの災害予防に向けた森林整備事業

千葉県山武市、東京都八王子市



事業概要

減災や大雨による土砂流出の予防と国民の森づくりへの関心喚起から参加機会の創出をめざし、津波被害林や軽度な斜面崩壊のある里山で以下の森林整備事業を実施。

千葉県山武市 (海岸防災林) ①下刈

東京都八王子市 (上川の里特別緑地保全地区) 照葉樹林化が進む里山の再生。①照葉樹林化が加速している人工林の伐採と地拵え、②伐採木を活用して散策路や階段の資材づくり。

事業成果

新型コロナウイルスの影響で、広く市民を巻き込む活動は困難ではあったものの、SDGs の関心が企業を中心に高まったことから、企業ボランティアの受け入れを積極的に行った。これまでにないボランティア層とのネットワークづくりができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・社員ボランティアの受け入れを通じて今後の協業を考えていきたい。意義ある活動だと思うので、できる限りバックアップしていきたい。(社員ボランティア担当)
- ・苗木の活着率が高く防災機能を高めているものとして評価している。(行政関係者)
- ・裾野を広げる取り組みだと思う。(環境NPO)

参加者の声

- ・新型コロナウイルスにより、自然を求めるようになってきた。身体を動かし森も良くなるので、今後も参加を続けていきたい。(40代男性)
- ・ビフォーアフターが分かるボランティアだったので、とても達成感があった。(30代女性)



下刈 (山武)



森林整備 (八王子)



伐り出した間伐材を杭に加工 (八王子)



歩道整備 (八王子)

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：6.5ha
森林資源活用：720本

参加者数

都内：368人
都外：164人
計：532人

「山の学校」～水が繋ぐ地域と世代～促進事業

神奈川県横浜市、茅ヶ崎市、大和市



事業概要

目的は、森林が有する森林メカニズム機能向上をめざし、課題解決のため、山の学校を継続・開校する事で、地球温暖化防止策と位置づけ国土保全に対しても具体的な解決行動案として「山の学校」を継続、開校することである。主な活動は、水源林保全を体験学習する宿泊型・日帰り型「山の学校」の開校。水源地保全学習をはじめ、間伐体験や上下流域地域の交流、川上地域食材の採集と調理体験等。

事業成果

新型コロナウイルス感染症により、従来形式での活動及び「山の学校」開催は見直しとなった。しかし、今回のような事態を経験して、全く新たな視点から事業の展開を模索することができた。SDGsに興味をもつきっかけとなった、といった声もいただき、事業を通じて水源地・森林保全に興味関心をもたらすきっかけづくりとなった。

事業をよく知る関係者の声

- ・コロナ禍のなかで、自然に触れ、実際に森林保全活動を見て、自らも体験することで、普段当たり前で使用している水や日々の生活が、それらの活動の上に成り立っていることを実感できると考え、参加を予定していた。今後こうした状況のなかでどのような対策を講じ、どのような方法で開催するのが課題だと思った。

参加者の声

- ・泳ぐための水はどこからどのようにきているのか知る良い機会になった。(ジュニアオリンピック通信大会参加者)
- ・自分ができていることをしていかなければと感じた。(ジュニアオリンピック通信大会参加者)



森林や水について学んだ



実績とりまとめ

参加者数

県内：689人

計：689人

命の森づくり2020ー里山自然復元植樹

新潟県長岡市



事業概要

環境保全といのちと心を育む森づくりを行うために、長岡市西部のテーマパーク構想が頓挫して荒廃した丘陵地に、潜在自然植生の構成種によるふるさとの森づくりを行うことを目的としている。また、あわせて植樹地を活かした環境教育を推進する。主な活動を以下のとおり。①植樹地及び周辺の1500㎡の測量と植樹マップの作成、②植樹地のマウンドの造成及び腐葉土等を用いた地拵え、③当法人及びNPO法人関原里山・ぬかやま会の会員と市民による植樹会を開催、④環境教育を推進するための植樹地を中心とする自然観察会の実施。

事業成果

会員及びNPO法人関原里山・ぬかやま会と一般市民並びに本事業の支援企業である長岡信用金庫の従業員等が協力して、荒廃した丘陵地に、潜在自然植生を構成する苗木を

植樹し森づくりの重要性を学ぶことができた。また、自然観察会を行うことによって、樹木の生態系等を理解することができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・NPO法人2団体が協力して、植樹地の造成から植樹会の設営・後片付けまで行うことができたのは、会員の負担を軽減する上でもとても良かった。これからの環境保全活動の一つのモデルになる。(NPO会員)
- ・育樹活動を継続して、開発前のようなふるさとの森を復活してもらいたい。(教員)

参加者の声

- ・植樹準備の縄張り、苗木配り、除草に取り組んだ。いろいろな種類の苗木について何も知らなかった私にとって勉強になった。皆で力を合わせ汗をかいたのは楽しかった。(70代市民)



植樹地の測量



モミ殻の散布



タブノキ、スダジイほかを植樹



自然観察会

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.12ha
植付本数：1298本

参加者数

県内：248人
計：248人

樹種

タブノキ、スダジイ、アカガシ、シラカシなど121種

緑の遺産「胎内」災害に強い森づくり

新潟県胎内市



事業概要

松くい虫被害で喪失した海岸林を再生するため、地域住民や子どもたちと一緒に海岸植栽に適する広葉樹を植樹した。

事業成果

地域住民や子どもたちが継続して植樹活動を行い、地元と協定した面積（2.7ha）の植樹を終えたことから、達成感とともに地域の森との意識が定着した。

事業をよく知る関係者の声

- ・今回5回目の植樹活動で協定した面積の植樹を完了した。地域をあげて取り組んだ植樹活動も一区切りとなった。今後は植えたという絆をもとに地域と森がつながっていくと思う。（緑化推進委員会）

参加者の声

- ・植樹活動に参加して良かった。これからも海岸林を大切にしていきたい。



土壌改良



植樹指導



シロダモ、エノキほかを植樹



植樹手直し

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.5ha
植付本数：2548本

参加者数

県内：200人
計：200人

樹種

シロダモ、エノキ、タブノキ、アベマキ

丹波山みんなの森づくり・防災事業

山梨県丹波山村



事業概要

村中心にある里山だが、急峻で、がれ場であり、どのような整備をすべきか検討する。そして、新たな利活用により、住民の生業創出を目的とする。専門家による調査と並行し、都市の企業ボランティアによる整備、また安全を期するためのプロによる整備を実施した。しかし、コロナ禍により、4回の予定が3回中止になった。安全のための歩道整備などと環境整備の施業は実施した。

事業成果

専門家のアドバイスを関係者全員で受けてから、その活動は、村人の生活に関わる防災の観点、また、生活を豊かにする癒しなどの観点からの整備を考えるようになった。

事業をよく知る関係者の声

- ・この事業は、単に森づくりを広めるだけではなく、企業、住民、市町村、林業者、コーディネーターそれぞれが関わりをもつことができ、さらに活躍できることが魅力的である。(地元林業者)
- ・森林を活用した地域づくりにも繋がる可能性をもっている。(住民)
- ・防災の森づくりは今後の新たなポイントになるので、村としても協力していきたい。(市町村職員)

参加者の声

- ・森に歩道をつくと歩きやすくなり、また行きたい。木柵づくりは初体験だったが、杭打ちが楽しく、完成後には達成感があった。(参加企業の社員家族)



森林整備



木柵設置



歩道整備



歩道整備後

実績とりまとめ

作業内容

作業道：100m
木柵づくり：220m
歩道整備：100m
歩道作設：100m

参加者数

県内：11人
県外：36人
計：47人

里山斜面林の復旧およびボランティア研修事業

大阪府河南町



事業概要

大雨で流出した斜面林を復旧するための整備作業を行うこと、また参加者の技術向上のための研修講座を開催することである。主な活動は以下のとおり。①ボランティアによる斜面林の修復作業、②動力機械の安全技能講習、③赤十字救急法講習会、④緑化講習会。

事業成果

フィールドの斜面修復作業は、毎年の大雨で継続を余儀なくされており、今年度は昨年新たに生じた土砂崩れ箇所に対応することができた。また作業に不可欠な安全技能や救急法、緑化講習についての専門家を招いた講座開催により、ボランティアによる活動を安全に、また効果的に実施でき、今後の活動にもつなげることができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・参加の皆さんがとても熱心で、フレンドリーな雰囲気での講習をやりやすかった。野外シミュレーションはもう少し時間があれば、より深められたように思う。(救急法講師)
- ・斜面の修復作業、大変な作業であることが良くわかった。人間にとっては安全のために必要な工事が、自然破壊につながっている側面もあり、今後も両方の視点をもつことが大切。(当倶楽部理事)

参加者の声

- ・救急法のシミュレーションは、救急対応のみならず、日頃のメンバー間の信頼も重要であると感じさせる有意義なプログラムだった。(救急法受講者70代男性)
- ・道具のメンテナンスを学べた。災害事例から、ここまで危険になる可能性を忘れずにやっていきたい。(技能講習受講者30代女性)



作業道整備



カキ、クリほかを植樹



下刈



斜面修復用の土のうづくり

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.01ha
植付本数：10本
下刈面積：0.43ha
斜面修復：0.08ha
作業道整備：30m

参加者数

府内：129人
計：129人

樹種

カキ、クリほか

丹波山のある暮らし再生事業

兵庫県丹波市



事業概要

目的は、森林を活かした地域の住民や都市との交流により、外部人材に関わってもらうことで、持続性のある森林整備を構築すること。主な活動は、12月の植樹祭。その準備として、植樹場所の間伐を実施。災害に強い山づくりをめざすため、植樹する苗はしっかりと根を張る落葉樹を選定し植樹した。

事業成果

定期的な森林の整備に加え、今年度は地区内で、雨のたびに住宅敷地に水が流れ込む課題があり、当該住宅の裏山整備に取りかかることができた。また、丹波市木の駅プロジェクトの「木の駅ストックヤード」への出荷量が市内でト

ップとなった。3回目となった植樹祭では、多くの参加者とともに実施することができた。継続して植樹祭を実施していきたい。

事業をよく知る関係者の声

- ・スタッフ側の女性の参加が少なかった。(自治会員)
- ・行政のさまざまな部門(環境・農林・まちづくり)からの理解や協力が得られ、必要なアドバイスや支援を受けながら事業を進めている。(自治会員)

参加者の声

- ・植樹の必要性がよく分かり、勉強になった。
- ・森林整備と防災は近い関係にあることが分かった。(大学生)



間伐



間伐材の搬出



薪割り



モミジ、クルミなどを植樹

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：5ha
植付本数：400本
間伐面積：5ha

参加者数

県内：96人
県外：20人
計：116人

樹種

モミジ、クルミなど

入来浜海岸防災林保全活動

鹿児島県日置市



事業概要

入来浜海岸防災林は入来浜集落を保全すると同時に県立自然公園として多くの県民に親しまれている森林であるが、近年松くい虫の害や台風災害により欠損した部分も見られた。

このため、入来浜自治会など地域の住民と当研究所が協働で、欠損箇所にマツクイムシ抵抗性クロマツの植栽と、中下層の暴風効果を得るためシャリンバイの下層木を植栽するとともに、過年度植栽部分の下刈、植栽木の育成を図るための竹穂防風垣を設置した。あわせて、利用者の利便を図るため、歩道へのウッドチップ散布、道標設置を行った。

事業成果

ギャップの生じていた残りの林分に抵抗性クロマツとシャリンバイを植栽すると同時に防風垣を設置して植栽木の健全な育成を図った。また、歩道を整備して利用者の利便性の向上を図ることができた。

事業をよく知る関係者の声

- 自治会の活動のみでは、不可能であった植樹活動等が、緑の募金事業を導入することができてありがたかった。今後もしっかりと管理していきたい。(入来浜自治会長)



抵抗性クロマツの植樹



シャリンバイの植樹



林間歩道の刈払い



歩道にウッドチップを敷く

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.3ha
植付本数：400本
下刈面積：0.6ha
防風垣設置：30m
道標設置：5基

参加者数

県内：73人
計：73人

樹種

抵抗性クロマツ、シャリンバイ

緑化の推進



獅子吼高原アウトドアFes.「もりもりの森」& 森のふれあい音楽会

石川県白山市



事業概要

“森を知るには、まず森に行き、森に親しむことから”と
 いった考えから、県民参加型の様々な事業を展開している。
 10月に開催した「獅子吼高原アウトドアFes.& 森のふれあい
 音楽会」では、石川県白山市の獅子吼高原一帯で、芝生広場
 仮設ステージを設けて屋外ライブや広葉樹の植栽、更には
 森を巡るクイズラリーといった多彩なプログラムにより、
 森で楽しく過ごしながらか森林保全の必要性を石川県民に理
 解してもらった。

事業成果

コロナ禍にあり、人々を集めても密にはさせないという
 課題に直面する。集客要素のワークショップなどを取りや
 め、屋外での音楽会、植樹、森を巡るクイズラリーといっ
 た参加者間の距離が保てるプログラムに絞る。来場者は昨

年の30%強の約700人とはなったが、森という開放された
 空間が如何に貴重かということを理解してもらえた。

事業をよく知る関係者の声

- ・本年の開催は危惧されたが、感染防止策を十分に取っ
 いただき、結果として素晴らしいイベントになった。感
 染リスクの少ない森を会場とし、適度な参加人数、感染
 症対策を取った今回の催事を成功例とし、今後も安全で
 楽しい森を維持していきたい。(獅子吼高原施設支配人)

参加者の声

- ・今年はお出かけの事ができず、子どもたちの不満が溜まっ
 ていたが、これならばと応募した。植樹という形で何か
 残せるのは大変良い。(植樹体験)
- ・自然に囲まれた中で音楽を楽しめて良かった。(屋外フェ
 ス)



植樹の説明



クヌギを植樹



森の音楽会



クイズラリー

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.3ha
 植付本数：20本
 音楽会（屋外フェス）：1回
 森のクイズラリー：1回

参加者数

県内：700人
 計：700人

樹種

クヌギ

「被災地に緑と心のふれあい森林づくり」事業

宮城県登米市、南三陸町



事業概要

緑とのふれあい等を通して、沿岸被害住民と山村住民の交流も図りながら、東日本大震災からの復興を誓うと共に森林づくりの重要性を普及する。

事業成果

コロナ禍により、昨年度に引き続き南三陸町の被災者との交流活動を回避するため分離開催となったほか、参加者数を抑えながら式典や活動の簡素化を図った。そうした制約の中での開催であったが、参加者にとって心が和み、楽しいひとときを過ごすことができた。特に被災地住民参加者からは、コロナ禍で外出する機会が少ない中での野外活動であり、さらなる継続を望む声が大きかった。

事業をよく知る関係者の声

新型コロナウイルス感染予防対策で開催が危ぶまれたが、

開催方法や移動手段を工夫して開催することができたと思われる。参加された被災者の方々の笑顔が印象に残り、来年も感染予防対策をしっかりと講じながら開催していただきたい。(ボランティア団体)

参加者の声

- ・自然の中でおもいっきり活動ができ、とても心が癒やされた。野外での作業は気分が爽快です。(70代女性)
- ・植樹活動をしてからあらためて海を見渡すと、また復興に向けて頑張ろうと前向きな気持ちになれた。(70代男性)
- ・地球温暖化を防ぐために、森林をもっと大切にしたい。(小学生女子)
- ・友達や家族に今日の体験で知った森林の大切さを話して、これからも活動していきたい。(小学生男子)



広葉樹を植樹



ドングリを播種



県産材で加工された小箱の組み立て



被災地住民ほかによる植樹

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：439本
播種活動：1回
山菜採り：1回
木工教室：2回

参加者数

県内：205人
計：205人

樹種

ヤマザクラ、ヤマツツジほか

「森と海を結ぶ・絆の森林づくりプロジェクト」事業

宮城県石巻市雄勝町



事業概要

東日本大震災からの復興と被災から甦った「みやぎの豊かな海」を県内外に発信する全国豊かな海づくり大会を見据え、そして、コロナ禍で分断される中、森と海、そして人々の絆をさらに深めていくため、沿岸養殖漁業の盛んな雄勝湾に流れ込む北上川支流域にある荒廃森林を対象に、森と海の関係者らが協働して健全な森林の回復をめざし、植樹活動を実施。

事業成果

本県では、「森は海の恋人」に象徴されるように牡蠣養殖業者が上流域の山で植樹活動を行ってきたが、地域が限定されて広がりを見せていなかった。本県での「全国豊かな海づくり大会」開催が間近に迫る中、「森と海」の関わり、森も海も豊かにする森林づくりの意義を関係者へ伝えることができ、また、今後の森と海との関係者による協働活動に一石を投じることができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・県においても森と海の交流促進策として、沿岸域での森と海との協働活動の実施を描いていたところであり、願ってもない事業である。ポスト海づくり大会に向けて、その先鞭として当該事業を参考にしていきたい。(県水産林業政策室長)

参加者の声

- ・大変有意義な活動であった。とりわけ沿岸漁業の盛んな地で人の手によって森林づくりをすることは、海を守ることに繋がる。(60代森林組合代表理事組合長)
- ・近年、貝毒の発生を頻繁に起こす海洋環境の悪化や、湾内周辺の森林がマツ枯れ等で荒廃していることを危惧していた中での植樹活動は、大変ありがたく思う。今後も森林に支えられた豊かな海で美味しい海産物を提供していきたい。(60代漁協運営委員長)



記念植樹



アカマツ、ヤマザクラを植樹



植樹参加者



作業以前の荒廃したマツ林

実績とりまとめ

作業内容

植栽面積：0.1ha
植栽本数：251本

参加者数

県内：70人
計：70人

樹種

抵抗性アカマツ、ヤマザクラ

ラグビーワールドカップ2019後のコミュニティ再生を目指す大槌湾海岸防災林植樹事業

岩手県釜石市



事業概要

東日本大震災により被害を受けた海岸防災林の再生には、世代を引き継いで行われる息の長い活動が不可欠である。釜石市根浜海岸の海岸防災林再生を軸に、大槌湾に面したエリアの景観の創造をめざした。主な活動は、海岸防災林の再生と浜から海岸林までの景観を創り上げるために、植樹、海浜植物の種まき、植替え活動、海浜の清掃活動である。ラグビーワールドカップ2019招致に地域を挙げて取り組んだ根浜地区の住民の協力を得、さらに、NPOおよび自治体の連携のもと釜石東中学校全学年の活動参加を果たすことができた。

事業成果

新たに海岸に捨てられたり流れ着いたりしたごみを考える視点を盛り込んだ授業を行った。中学生たちが実地でごみを拾い集め、それを観察、分析し、考察を加えて発表することで、地元の海岸を含む、海浜全体の環境保全まで視

野を広げて考えることを促す活動とすることができた。地元の自治会や行政や企業などが共に汗を流すことで、世代を引き継ぐ活動として成果を上げている。そんな中、地元の若者が中心となり新たに「根浜ハマナスプロジェクト実行委員会」が組織され、活動の基盤がより強められた。

事業をよく知る関係者の声

- ・活動が継続されてきたこと、生徒たちの姿を見て感激ばかりでした。中学生が大人になった時にまた、さまざまなことを思って根浜を訪れるのだろうと思い巡らせることができた。(地元自治会)

参加者の声

- ・中学に入って、苗の植え替えなどの作業を初めて体験した。来年からは後輩に伝えていきたい。(中学生)
- ・マツを育てていくことで、海岸の環境を守ることに役立つことがわかった。(中学生)



ハマナスの移植



子どもたちも参加



中学生による海岸清掃



海岸清掃で集まったゴミ

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：1.4ha
 下刈面積：1.4ha
 海浜植物種まき：800個
 海浜植物移植：800本

参加者数

県内：433人
 計：433人

熊本地震復興支援事業(学校緑化)

熊本県菊陽町、御船町、益城町、甲佐町



事業概要

平成28年熊本地震による被災地域において、地域の復興を支援するため、学校や幼稚園、保育園等周辺の緑化により、子どもたちの共同生活の充実を図るとともに、緑の大切さや木のぬくもりを感じてもらおう事業を行う。

事業成果

今年度は、特に被害の大きかった地域の幼稚園や災害公営住宅等に植樹80本を配布し、緑による潤いを被災者に届けることができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・新しく建て直した幼稚園や保育園の園庭に緑がなく、樹木が園の潤いになるほか、初めて木を植える園児も多く良い経験をさせてもらった。(県、市町村の担当者及び各施設の園長)

参加者の声

- ・地域住民や生徒がみんなで植栽や水やりを行っており、木や花が大きくなるのが楽しみ。



サクラを植樹



大きく育つよう願って

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：80本

参加者数

県内：200人

計：200人

樹種

サクラほか

うなぎの森植樹会

大阪府高槻市



事業概要

森と川と海は一体であり、腐葉土が水中のプランクトンの養分になり、水生生物の餌になる。森林の管理の大切さを人々に知ってもらうとともに絶滅危惧種の淀川のウナギの生息を増やすために、台風被害で大量に風倒木が発生した高槻市上流の森林において植樹活動を行った。

事業成果

台風被害地で植栽を実施。人々に自然災害の恐ろしさや早期に森林の復旧を図ることの大切さを体感していただい

た。うなぎの森の記事が全国紙に掲載され、全国の人々にその趣旨を理解していただけた。

事業をよく知る関係者の声

- ・毎年参加しているが植栽木が成長していくのが励みになる。国土緑化の大切さが良くわかる。(府木連会員)

参加者の声

- ・植樹活動に参加して自然守り、緑を育てる大切さが良くわかった。緑の募金の意義も十分に理解できた。



植樹の前に作業の説明



ヤマザクラ、カエデを植樹



ネットで苗木を保護



ウナギ植樹祭参加者

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.5ha
植付本数：120本

参加者数

府内：50人
計：50人

樹種

ヤマザクラ、カエデ

千葉の里山で竹林整備と台風被害林復旧活動

千葉県市原市、大多喜町



事業概要

春にタケノコを収穫できるような竹林をめざして整備活動すると同時に台風被害からの復旧作業も行い、地域コミュニティをつくる。

事業成果

台風被害からの復旧が進み、竹林の活用について積極的に行えた。竹林内でアーティストによる撮影なども行われるようになった。

事業をよく知る関係者の声

- ・竹林整備は全国的に行われている。その中で整備した竹

林からタケノコや幼竹を出荷し、国産メンマプロジェクトが活発になっている。その取り組みのリーダーよりこの取り組みは評価に値すると言われている。(国産メンマプロジェクト代表)

参加者の声

- ・身近にある竹林の整備の方法がわかって良かった。地域資源を活用することの大切さがわかった。(高校生)
- ・自然と触れ合うことと竹林がきれいになることに参加できてうれしい。(50代女性)



竹林整備



高校生による竹林整備



タケノコ掘り



薪割り

実績とりまとめ

作業内容

間伐面積：1.2ha

薪作り：5m³

竹炭づくり：900kg

参加者数

県内：141人

県外：26人

計：167人

ボランティアによる参加型の日向の森

千葉県山武市



事業概要

都市住民や地域住民を対象に、人工林の保全作業を通じた自然環境への理解促進の活動を実施した。初心者でも参加しやすいよう、季節ごとに作業内容に変化を持たせつつ、活動で安全性が確保されたフィールドで森林環境教育イベントを計画。令和元年9月の台風により活動地の日向の森でも甚大な被害が発生したため、その復旧を主とした活動を行ってきたが、ようやく目途がついてきた。一方、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、予定していた活動や環境教育イベントは縮小及び中止せざるを得ない状況となったが対策を講じながら活動は継続した。

事業成果

感染症拡大により参加者を多く募っての活動が困難となったため、スタッフによる巡回と維持管理を実施しながら、活動が実施できる状況の際は、国土緑化推進機構のガイドラインを参照し、活動を継続することができた。事務局と

して、ソーシャルディスタンスを保ちながら活動を継続するためのノウハウを蓄積することができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・通常の伐採であれば現状の道具でも対応できるが、危険木除去などの特殊な作業を行う場合にはロープの強度不足や滑車、チルホールなど不足している道具が多い。熟練者が少ないため道具の選定にはより注意を払いたい。(危険木除去委託先NPO代表)

参加者の声

- ・雨天時の緊急避難場所などを確保しておきたい。また水回り(水道や水洗トイレ)が脆弱なので、改善したほうが良い。(定例活動リピーター)
- ・学校がSDGsの取り組みに積極的なこともあり参加したが、リフレッシュの機会になり森づくりに貢献できたという実感も沸いた。(大学生)



下刈



7年前に植樹したスギの枝打ち



子どもたちの伐採体験



植樹作業参加者

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.2ha
 植付本数：157本
 下刈面積：0.5ha
 間伐面積：0.2ha
 散策路整備：1300m
 植栽地地拵え：0.2ha

参加者数

県内：85人
 県外：58人
 計：143人

樹種

スギ

【Furano Forest Style】植樹会と間伐イベントを通じた富良野・森づくり事業

北海道富良野市



事業概要

目的は、植樹や間伐作業を通じて、我々動物が生きていくために必要不可欠な森の役割を伝えることである。また、森づくり作業に参加することにより、地域の人（特に若い世代）を育てることにある。主な活動は以下のとおり。①元ゴルフ場跡地のフィールドに自分たちの手で穴を掘って木を植える。②森づくり活動の重要なフェーズである間伐の意味を知り間伐を行う。③間伐材を利用した調理やクラフトプログラムを開発する。④コロナ禍における外出自粛や自宅謹慎により溜まったストレスを森で解放する。

事業成果

コロナ禍における外出自粛や自宅謹慎により溜まったストレスを森で解放することを目的とし「へそ森クラブ」という活動を開始した。来年度以降も継続して実施したい。また、活動の意義と目的に共感してくれた林業従事者育成の

ための「北海道立北の森づくり専門学院」との連携が決まり、間伐作業や樹木調査の協力を約束してくれた。

事業をよく知る関係者の声

- ・採算目当ての人工林ではなく想いを持って育てている森なので、研究対象としてもとても興味深い。(林業学校関係者)
- ・地元でこのような森づくり活動をしているのを知らなかった。富良野市の強みとして、内外にアピールしていきたい。(市担当者)

参加者の声

- ・森と水の繋がり、森と生き物の繋がりなどを体験を通して学びました。また来たい。(20代女性)
- ・サウナが好きなので、間伐材を使ってサウナを楽しむ取り組みに可能性を感じている。(ボランティア)



植樹会



植樹ボランティア



間伐体験



間伐材を使った炭焼き実験

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：1.2ha
 植付本数：1149本
 間伐面積：0.8ha
 植樹会：4回
 間伐イベント：1回
 視察会：1回
 勉強会：2回

参加者数

道内：155人
 道外：7人
 計：162人

樹種

アカエゾマツ、イタヤカエデ、エゾマツ、オオバボダイジュ、キタコブシ、シナノキほか。

森と緑と湖のマチ、そらの森づくりプロジェクト

北海道弟子屈町



事業概要

遊休地となっている弟子屈空港跡地を観光客や地域住民が楽しむための森づくりをすることを目的としている。主な活動は、①自然を活かした観光資源の充実を図るための植樹活動、②環境に対する意識醸成と共生社会の実現をめざした木育教室の開催である。

事業成果

コロナ禍の中、開催自体も危ぶまれたが感染対策を十分に行っての植樹祭の開催となった。参加者も例年と比べ減少したものの、植樹面積の拡大、シラカバ並木の延長を行うことができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・今年ではできるかどうか不安だったが開催できて良かった。ソーシャルディスタンスによってちょうど良い植樹間隔が取れていた。今後も定期的なメンテナンスを行っていただきたい。(植生業者)

参加者の声

- ・コロナで開催中止かと思っていたが、今年も行ってくれて良かった。(40代女性)
- ・ただの荒地だったのがここまで木が増えると景色が良くなった。自分たちが植えたと思うと感慨深い。(50代男性)
- ・初めて参加したが、ここが飛行場だったとは思えないほど木が多くて驚いた。(20代男性)



植樹の事前説明



カラマツ、ハルニレ、ドロノキ、シラカバなどを植樹



植樹後



参加のみなさん

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.3ha
 植付本数：220本
 下刈面積：0.7ha
 苗床作り：1回

参加者数

道内：43人
 計：43人

樹種

カラマツ、ハルニレ、ドロノキ、シラカバ

いのちの森づくり植樹祭 IN おたる奥沢水源地 VOL8

北海道小樽市



事業概要

私達が地球環境を意識し、地域住民との協働で植樹を行う事で、防災や自然環境への意識を高めると共に、都市開発などにより多くの自然が破壊されるなか、その土地本来の植生がある「いのちの森」を守り再生させる。また、ここに暮らす人々が自然を愛し大切に思う心を育み地球温暖化問題を考えると一つとして、「いのちの森づくり植樹祭」を開催する。

事業成果

参加者はコロナ過での開催とあり、従来より少ない140人だった。近隣小中学校の参加も学校単位でも募集などはせず、家族単位での募集となり、今回は千年の森会員企業の

家族での参加が多くみられた。また、市内の団体（ロータリー・ライオンズ・青年会議所）が昨年に引き続き参加。小樽市が今後進める奥沢水源地の公園計画に向け、私達が植樹を続ける事により市民が寄与する市民公園造りとも主旨を共に、今後も環境教育との二本柱で事業を進めていきたい。

事業をよく知る関係者の声

- ・コロナ過での開催で心配したが野外での活動でもあり、参加者が密になることもなく安心して植樹ができた。

参加者の声

- ・ホームページを見て、札幌から幼児を含む家族での参加した。楽しく自然に触れると共に植樹事業の重要性を再認識できてよかった。(20代女性)



ミズナラほかを植樹



142人が参加



参加のみなさん



植樹地

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.13ha
 植付本数：1374本
 樹勢回復：360本
 下刈面積：0.1ha

参加者数

道内：202人
 計：202人

樹種

ミズナラほか

オオヤマザクラ等の保育活動を通じた地域を結ぶ森林づくり

青森県弘前市



事業概要

目的は、津軽地方のシンボリック的存在である岩木山の麓の沿線に植えられた街路樹（オオヤマザクラ）の保育・保護と景観の維持及び体験林業と森林観察会の開催。内容は、①街路樹への補植、ツル切り、枯木・枯枝・被陰木の伐採撤去及び作業沿線清掃。②弘前城築城400年記念として植えた森へ補植、下刈・除伐・ツル切り及び森林観察など。

事業成果

街路樹の手入れは、毎年場所を変えて実施していることから景観が充実してきている。育樹会は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から公募を取り止め小規模な森林観

察会を2回実施した。

事業をよく知る関係者の声

- ・コロナ禍もあり、積極的に活動に参加要請ができなかった割には作業回数、参加人員とも昨年を上回っており、頑張っていると思う。(協力関係にあるNPO理事)

参加者の声

- ・コロナ禍にあり、しかも私は義足を装備して家にいることが多い。友達に誘われ森のボランティアに参加させてもらった。清々しい森の空気に触れ感激した。(60代女性)



下刈、ツル切り作業



桜並木の手入れ



オオヤマザクラの補植



桜並木の周りのアカシア伐採撤去

実績とりまとめ

作業内容

- 植付本数：12本
- 樹勢回復：400本
- 下刈面積：1.0ha
- 除伐面積：1.0ha
- 歩道修理：2km
- ベンチ設置：2基
- 森の観察会：2回

参加者数

- 県内：120人
- 県外： 5人
- 計：125人

樹種

オオヤマザクラ

陸奥湾の植林と除間伐材の利用を学ぶ授業

青森県平内町



事業概要

平内町の社会貢献の森で、おいしいホタテを守る為に植林活動を展開する。その植林地の地拵えから出た除間伐材を利用して薪をつくり、利活用する事で、里山の雑木を活かした暮らしを振り返りSDGsの14「海の豊かさを守ろう」15「陸の豊かさを守ろう」を経験する。また、広葉樹のミズナラ・イタヤカエデ等を植林を通して、海を守る為には、山を守る事を高校生に体験を通して知ってもらった。

事業成果

地元平内町の松風塾高校から校長先生をはじめ生徒たちが参加してくれたのは、継続して植林や山の手入れを実践してきた結果である。また、青森大学・明けの星高校・青

森北高校・青森南高校・青森高校などから200人が参加した。また、薪割機を通して薪を林地残材として捨てることなく、利活用できて大変有意義な事を子ども達の授業で紹介できている。

事業をよく知る関係者の声

- ・コロナ対策をしっかりとやっての植林活動だったので、安心してできる植林活動だった。高校生が生き生きと活動をしていたのがすばらしかった。(教員)

参加者の声

- ・山で木を植えたのは初めてで、こんなに大変だとは思わなかったが、初めて4本植えて感動した。満足感と充実感があった。(高校生)



整備した植樹地



高校生による植樹



除伐



薪づくり

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.5ha
 植付本数：250本
 下刈面積：0.5ha
 薪割り：100本

参加者数

県内：236人
 県外：6人
 計：242人

樹種

ミズナラ、イタヤカエデ、クロモジ

沈黙しないでピカピカ里山にしませんか!

秋田県仙北市



事業概要

城下町に隣接した里山が住民の高齢化等により、利用されず放置されている状況を改善し、木の文化への理解と地域との交流を図ることを目的としている。主な活動は、①林内環境整備として刈払いやツル切り、②不良木の伐採とヤマザクラ植栽、③遊歩道整備の刈払いや階段の整備、④市民を対象してトレッキングの実施。

事業成果

足場の悪い箇所でのツル切り・刈払いの作業ではベテラン会員の指導もあり安全に作業実施ができた。また、階段については杭打ちに苦労したことから次の作業では施工に工夫する必要がある。

事業をよく知る関係者の声

- ・刈払い作業を継続的に実施することは大変だが、植栽等を含めて里山が目に見える形になってきており、市民の参加意識の向上に繋がる活動である。今後癒しの場としての機能が再生されることを願っている。(元教員)
- ・それぞれの参加者に合った条件で作業できるような環境を望む。(支援学校教員)

参加者の声

- ・これからの成長が楽しみ。(小学生男子)
- ・高齢者でも参加できるようなトレッキングコースがほしい。(60代女性)
- ・きれいに整備されている。また来たい(50代男性)



ベニヤマザクラを記念植樹



下刈



遊歩道の整備



トレッキング

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.1ha
 植付本数：11本
 樹勢回復：12本
 下刈面積：3ha
 遊歩道整備：3km
 トレッキング：2回

参加者数

県内：36人
 県外：10人
 計：46人

樹種

ベニヤマザクラ

八幡山桜(はな)の森整備事業 コブシ・ハンノキの森整備事業

山形県飯豊町



事業概要

農地としての再生が困難な元採草地を「里山の森」に再生することを目的に事業を始めた。桜の森のほか、早春・初夏・初秋の花木の森、新・深緑の森、紅葉の森を造り、雪解けから降雪までの期間、人々が楽しめる里山に整備する。今年度は、コブシ・ハンノキの森の整備を行った。

また、「森づくり」と「里山を考える」集いは、今年度は、自然林の重要性和非木材林産物の振興の必要性について山形大学農学部から講師を招き研修した。子どもたちに「森」に関心を持ってもらうために「森のホームステイ事業(山形県事業)」を行った。

事業成果

今年度は、湿地再生のためにコブシ・ハンノキの森を造成した。あわせて八重桜の森整備に着手した。第5回「里山を考える」集いを行った。自然林(広葉樹林)造成の重要性和、林業再生、農山村振興のカギを学んだ。「苗づくり」か

らの森づくり事業では、ブナ林から採取した稚苗を竹ポットに移植する作業を行った。子どものときから「森」と人間のかかわりや森の重要性を知る機会を提供する必要性、重要性を痛感している。

事業をよく知る関係者の声

- ・子どもの参加対策が必要、たとえば「焼き芋パーティ」を加えたらどうか。(協議会役員)
- ・講演内容が参考になった。問題は具体的にどう取り組むかだ。(参加者)

参加者の声

- ・植樹が短い時間で終わった、ほかのイベントを加えたらどうか。(60代男性)
- ・植樹、講演会、いずれもとても大事な取り組みだと思う。(40代女性)
- ・ノーカーボン社会をめざすなら森の大切さを知ることも大切。(60代男性)



ヤマハンノキ、コブシを植樹



ブナの稚苗採取



補植作業



里山を考える集い

実績とりまとめ

作業内容
 植付面積：0.5ha
 植付本数：50本
 下刈面積：1ha
 講演会：1回

参加者数
 県内：95人
 計：95人

樹種
 コブシ、ヤマハンノキ

健康で元気な森林づくり

茨城県かすみがうら市



事業概要

手入れができず日の射し込まないヒノキ林を間伐ほかの作業をする事で、健康で元気な森林をめざす。活動内容は次のとおり。①ヒノキの間伐。②下刈を実施し、ヒノキや植樹した広葉樹の成長を促す。③雑木等を伐採し、平地や斜面を整備し、毎年11月に行う地域交流会の企画として、広葉樹の植樹を行う。④ヒノキ間伐材でコースターや箸を参加者つくる。⑤森林の整備は、地球温暖化防止に貢献している事をパンフレットやポスター等で啓蒙。⑥間伐したヒノキ皮を剥きスウェーデントーチ等必要な方に提供をしていきたい。⑦活動場所の近くを流れる天の川の水質検査。地域の方々と子供会の協働で実施、霞ヶ浦をきれいに・川をきれいにの合言葉で活動している。

事業成果

新型コロナウイルス禍の中で活動を実施した。体調管理、マスク着用等の励行を促した。このような時期に新規加入者

があった。また近隣の施設や個人宅から間伐の依頼を受け、参加者、装備や傷害保険等の活動環境の充実を図り、作業に取り組んだ。依頼者から感謝の言葉を頂き、信頼関係の構築が深まった。

事業をよく知る関係者の声

- ・地域交流会の集いがあり、会員と一緒に広葉樹の植樹や間伐したヒノキで箸づくり、地球温暖化防止の講話があり、すごいことをやっているんだと感じた。(地域の区長)
- ・子どもたちをはじめ若い人たちに参加を促し、協働活動できるプロジェクトを立ち上げてほしい。(子供会保護者)

参加者の声

- ・毎年、地域交流会が行われ楽しみにしている。特に植樹した木の成長が楽しみ。(母親)
- ・森林の話や地球温暖化の話が良かった。(小学生男子)
- ・サクラを植えたのが楽しかった。(小学1年女子)



サクラ、モミジを植樹 (地域交流会)



天の川の水質検査



活動地入口の草刈り



ヒノキの間伐

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.01ha
 植付本数：15本
 下刈面積：0.73ha
 間伐面積：0.1ha
 森林資源活用：29本
 水質検査：3回
 地域交流会：1回

参加者数

県内：48人
 計：48人

樹種

サクラ、モミジ

みんなの家でみんなの森づくりプロジェクト③

山梨県大月市



事業概要

本事業の拠点である「みんなの家」周辺には、手つかずの森林が多く残っている。高齢化が進み森林整備ができる人がいないためだ。そのため、地域の森林を守るとともに、都市部では体験することのできない森林での活動を通して自然との共生や重要性に気づくことを目的として活動を実施した。主な活動は以下のとおり。①幼児を対象としたキャンプ、8月と11月に実施。②幼児を対象にしたデイキャンプ、10月と12月に実施。③当法人ボランティアスタッフが行う森林整備、7月から3月に計14回実施。

事業成果

都市部の子どもたちにとって里山や林業は身近なものではなく、子どももスタッフも多くのことを感じ学び体験することができた。近隣住民は、自然(里山、動物)と日常的に共生しており、今年度はそうした住民の方たちに活動に協力していただいた。

事業をよく知る関係者の声

- ・ 幡野地区(活動拠点)に多くの子どもたちや若者が来てくれて活気にあふれている。定期的に来てくれ、森林整備を進めてくれることで獣害も減ってきた。(70代男性)
- ・ 子どもたちの声や顔を見ると元気が出る。何か困ったことがあったらすぐに教えてほしい。(70代女性)
- ・ この地域にはもともとホテルや川魚がたくさんいた。少しでも昔の風景や環境に戻したい。(80代男性)

参加者の声

- ・ いつもはできないことができてたのしかった。(幼児)
- ・ ノコギリがつかえたよ。木のおいっていいにおい。たからものにする。(幼児)
- ・ ここに来ると自然と一体化できる気がする。風の匂いか自然の音とか普段感じられないことが感じられる。(20代女性ボランティアスタッフ)



自然に親しむ子どもたち



川遊び



休耕地や森林を整備



活動拠点・みんなの家

実績とりまとめ

作業内容
 除伐面積：4ha
 間伐面積：2ha

参加者数
 県内：2人
 県外：81人
 計：83人

オオムラサキ舞う故郷の里山再生

山梨県北杜市



事業概要

国蝶オオムラサキの最大級の生息地である里山林が荒廃している。オオムラサキの生息地再生で故郷を元気にするために、アカマツ林皆伐地にオオムラサキの好むクヌギ・エノキを植林した。また、これまでに植林した場所で、育苗のために下刈を行い、管理放置の里山林の間伐、枯損木の片づけを行い、生息環境の改善を行った。

事業成果

里山を再生する活動の成果は、景観も改善して目に見える形になっている。こうした成果で、活動に参加する若者や女性が増えて、活動層の高齢化の中で新しい力になりつつある。活動の中で、間伐材などを薪にして販売しており好評で需要が増加し行政から大型薪割り機を貸与された。

事業をよく知る関係者の声

- ・頼りにできる存在である。困りごとは相談したい。(市林政課職員)
- ・感謝している。地域の景観が良くなっていると感じる。(地域住民)
- ・管理できない山を、きれいにして植林までしてもらい本当にありがたい。(森林所有者)

参加者の声

- ・オオムラサキの舞う里山づくりに参加して満足している。
- ・故郷の里山が改善している様子に、やりがいを感じる。



植樹地の整備



クヌギを植樹



緑の少年隊も参加



薪づくり

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：2.2ha
 植付本数：6100本
 下刈面積：24ha
 間伐面積：1.4ha
 森林資源活用：200m³

参加者数

県内：602人
 計：602人

樹種

クヌギ

猿投山北西山麓の環境林整備

愛知県瀬戸市



事業概要

目的は、名古屋近郊にある県有林、東大演習林、私有林を生物多様性のある豊かな環境林として整備すること。主な内容は、放置されている人工林の間伐、自然観察道の整備（ササ刈り・除伐・道路の保全）を実施。訪れる散策者・ハイカー・登山者などに森の恵みを感じてもらった。「せと環境塾」では炭焼き体験、「なごや環境大学」では“森からのプレゼント”の講座で間伐・シイタケ植菌・腐葉土づくり・植樹などを行った。

事業成果

感染対策をしながら人工林の間伐、雑木林・自然観察道の整備は予定通り実施。炭焼き体験や「なごや環境大学」の

“森からのプレゼント～腐葉土・飾り炭・シイタケづくり・植樹体験”では多くの家族連れが参加し好評であった。

事業をよく知る関係者の声

- ・「なごや環境大学」の事務局が当会の活動を評価しPR用動画に採用された。林内散策者からは“いつもありがとう、ご苦労さん”“森が明るくなり気持ちがいい”と声をかけられるようになった。

参加者の声

- ・活動できて良かった、森は3密になりにくい。(環境大学)
- ・腐葉土づくりは楽しい。(小学2年女子)
- ・シイタケ原木づくりは家でもやってみたい。(幼稚園児の父親)



コナラを植樹



落ち葉でたい肥づくり(なごや環境大学講座)



間伐材でベンチづくり



東海自然歩道の枯損木除伐

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.1ha
 植付本数：32本
 除伐面積：0.6ha
 間伐面積：0.5ha
 自然観察道整備：1.8km
 作業道整備：1.2km
 イベント：5回

参加者数

県内：766人
 計：766人

樹種

コナラ

境港市竹内西緑地マツ林復元・整備事業

鳥取県境港市



事業概要

竹内町は境港市の日本海側にあり、その海辺はかつて引網も盛んに行われ子どもたちの遊び場でもあった。平成元年に埋立て工業団地となり、住宅地との間に竹内西緑地を設置した。昭和50年代にマツが植えられ整備された。しかし、マツクイムシや塩害・雪害等で雑木林になった。竹内西緑地を美しい白砂青松に復元することを目的に、5.7haの雑木林を開墾・整備しマツを植え遊歩道設置を進めた。今年4000㎡を開墾・整備し、マツとサクラを植樹をした。

事業成果

開墾整備の取り組みは8年目になる。開墾・整備し、マ

ツ500本とサクラ26本を植樹した。今年度より、JT鳥取支店と連携してSDGsの取り組みも始めた。

事業をよく知る関係者の声

- ・事業を始める前と比べると見違える様になっている。すばらし事業なので、もっと多くの人に参加しやすい環境を作ってはどうか。たとえば、取り組み内容をチラシやホームページ等で広報など。(公民館職員)

参加者の声

- ・どんどんきれいになっていくのが嬉しい。
- ・遊歩道もできたので最近では散歩コースに入れて歩いている。



クロマツを植樹



サクラを植樹



下刈



枝打ち

実績とりまとめ

作業内容

開墾面積：0.4ha
 整備面積：0.5ha
 植付面積：0.45ha
 植付本数：500本
 草刈面積：1.5ha
 枝打ち面積：0.4ha

参加者数

県内：461人
 計：461人

樹種

クロマツ、サクラ

東京五輪開催記念植樹祭

広島県廿日市市



事業概要

植樹祭を国民の祝日「山の日（8月11日）」に小室井山（標高1072m）の山頂付近で行った。参加者自身の手で植えて育てる。活動を通して、山の恩恵を見つめ直し、山の恩恵を深めていくことを目的に植樹をした。今年はコロナ禍の影響を受け10月4日に行った。主な活動は次のとおりである。

- ① 7月9日実行委員会を開催し植樹祭の方針を決定した。
- ② その後、コロナ禍影響を受け延期、国の感染防止対策が緩和された10月4日に植樹祭を開催した。
- ③ 小室井山に登り、山頂付近に一人2本の苗木を記念植樹した。
- ④ 事前に地拵えを行い植えやすい環境をつくった。また、安全に登山するため登山道整備（草刈り）を行った。

事業成果

参加者に植える苗木1本と給水用ポット（2ℓ）を持って登山してもらい植栽、達成感を感じてもらった。コロナ禍の中で工夫を行い、3密を避けて実施した。各人が蓄積し

ていたコロナ禍ストレスを解消することができた。

広島市内の施設の児童（知的障害者）36人が参加した。お互いへの思いやりを学ぶことができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・継続した植樹活動は、苗木の成長を確認することで森林保全活動への参加意識の向上につながる意義のある活動である。（公務員）

参加者の声

- ・毎年家族で参加している。植えた木が大きくなり自分の木も5本に増えた。花が咲くころに来たい。（中学生）
- ・最初は戸惑ったが指導を受けて、苗木を植付、記念に名前と思いを記した札を付けた。花を咲かせる時期にまた来たい。（40代男性）
- ・花の咲くころが待ち遠しい。（50代女性）
- ・知的障害者を連れて参加した最初は心配したが子どもたちは元気に輝いていた。（施設職員）



登山道を整備



植樹地を整備



記念の名札を付ける



レンゲツツジを植樹

実績とりまとめ

作業内容

草刈り：2000m（登山道）
地拵え面積：5ha
植栽本数：200本

参加者数

県内：141人
計：141人

樹種

レンゲツツジ

森林づくり活動と森林資源の利活用を体験

鹿児島県始良市、霧島市



事業概要

森林に対する知識を深め森林づくりの重要性を認識してもらうとともに、森林を身近に感じてもらうことを目的に以下の活動をする。センリョウ・イチヨウの植栽体験による森林づくり活動、森林の役割や働きについての講話、薪割、丸太切り、花炭づくり、タケ輪挿しづくり、タケノコ掘り等の森林資源の利活用を体験してもらい、豊かな森林づくりに対する理解と定着を図る。

事業成果

新型コロナの影響で参加者は大幅に減少したが、工夫を凝らし全イベントを実施できた。なかでも、植栽体験による森林づくり、森林の恵みを利活用したふれあい体験活動は、高評価をいただき、引き続き森林環境教育を推進していくうえでの自信にもつながった。

事業をよく知る関係者の声

- ・全イベントの実施をやり遂げたことはすばらしかった。当法人の活動は、森づくり活動、森林資源有効活用、特用林産物体験活動と、参加者は楽しみながら多くのことを学び理解を深めている。今後は、若い世代の参加をより多く誘引できるよう事業にも期待している。

参加者の声

- ・空気のきれいな森林で様々な体験活動ができ、久しぶりに楽しい時間を過ごせた。
- ・植樹体験をしてみたかったので嬉しかった。秋になったら、自分の植えた木と共に黄葉の景色を見に来たい。
- ・森林体験にはたくさんの活動があることに驚きでした。



タラノキ植樹



タケノコ掘り体験



丸太切り体験



タケについて学ぶ

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：410本
 下刈面積：0.6ha
 地拵え面積：0.36ha
 施肥面積：0.33ha

参加者数

県内：194人
 計：194人

樹種

タラノキ、センリョウ、イチヨウ

渡良瀬川源流の荒廃地緑化事業

栃木県日光市



事業概要

目的は、銅山の煙害で荒廃した足尾の山に木を植えることを通して、自然環境の健全化に貢献すること。主な活動は以下のとおり。①植樹後の下刈や枝打ち等の管理作業(毎月第3土日の作業デー) 今回はコロナ禍で一部中止となった、②小学校を中心とした団体の植樹活動の支援(体験植樹)、③ボランティアを募集し植樹会を開催(春の植樹デー)。

事業成果

昨年度はコロナ禍により中止とした春の植樹デーを、開催回数を増やし参加人員を分散させ、また開会式等を行わない等の工夫をし今年開催できた。開催回数を増やしたことで、今まで参加できなかった人が参加できるようになった。また、急斜面で土壌流出が激しい植樹地に柵を作り、黒土を入れる作業を行うことができ、苗木の活着率が高くなった。

事業をよく知る関係者の声

- ・植樹体験の際に、過去に植えた苗木を見ながら解説すると、植えた苗木の成長が想像できて良いのではないかと。(関連企業)
- ・足尾の歴史を学ぶことや植樹体験は、多くの子どもたちに体験してもらおうと教育的に良いと思う。広く周知してほしい。(小学校教員)

参加者の声

- ・大変貴重な体験を行うことができ、子どもたちも環境についてしっかりと考えられたようだ。長く継続していただきたい。(小学校教員)
- ・今回植えたのは3本のみだが、周りを見渡すと小中高生が植えた木々が広がっていた。このように一人ひとりの貢献はわずかでも、大勢が行えば大きなことが成しとげられる。(大学生)



土が流失しているところに黒土を入れる



コナラ、クヌギほかを植樹



ていねいに植樹



森づくりについて学ぶ

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.8ha
植付本数：7634本
イベント：60回

参加者数

県内：1606人
県外：654人
計：2260人

樹種

コナラ、クヌギほか

湘南国際村めぐりの森づくり

神奈川県横須賀市、葉山町



事業概要

「湘南国際村めぐりの森」は、民間業者により約25年前から300haの開発が行われていたが、業績不振に陥った民間会社から県へ無償譲渡された土地112haである。そこを土地本来に生育する常緑広葉樹林に再生する気運が高まり、神奈川県は2008年より森林再生を市民による協働参加型による活動を始めた。自然環境の復元、里地里山の持続的 management のための社会的枠組みや利活用方策等に関する普及啓発に寄与するものと考えられる。具体的な内容は、①通年の育樹、②通年の荒廃地の大地再生施工、③通年の各種調査、④植樹用マウンドの施工、⑤年間2回の公開イベント植樹祭、⑥実地訓練型「森林再生指導員」認定事業、⑦通年活動には一般ボランティアの体験参加も受け入れ、コロナ禍にも関わらず年間のべ450人の参加（植樹祭以外）があった。

事業成果

厳しい環境下でも年間の森作業を継続し、第20回春の植

樹時には植樹祭の開催がなかった。半日で3000本の植樹が終了し、育樹等のメンテナンス作業時間の確保ができた。今季も無料の植樹祭イベントとして開催でき、家族連れの参加が多く次世代育成の足がかりともなった。

事業をよく知る関係者の声

- ・混植・密植方式植樹推進グループが所属する協働参加型めぐりの森づくり推進会議による全体会議が5月に開催され、推進会議会長からは、「細部まで配慮された有意義な取り組みだった」とのコメントがあった。県からは、「感染者ゼロの実績のある混植・密植方式植樹推進グループには、全面的信頼をおけ安心して見守ることができた」との言葉があった。

参加者の声

- ・何回か参加している、以前に植えた木々の成長も見たい。
- ・コロナで在宅やリモートが増えて運動不足だったが、森での作業でリフレッシュした。



植樹の説明



121種の苗木を植樹



山道づくり



草刈りと粗朶づくり

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：4000本
大地再生：0.07ha
風の草刈：0.2ha
育樹：0.2ha
植樹施工：0.07ha

参加者数

県内：935人
県外：402人
計：1337人

樹種

常緑広葉樹

菊炭と里山を未来につなぐプロジェクト

大阪府能勢町



事業概要

伝統燃料である「菊炭」の継承と里山の緑保を土台として参加者が森林活動にかかわることで心身健康保持増進に努める。また森林ESDの視点から幼少期から山に触れる機会を提供し、子どもたちの生きる力の獲得に寄与、さらにはこうした活動が地域の活性化につながることをめざす。主な内容は、①ドングリのホームステイ事業、地元のドングリを拾いポットへ移植活動を行うとともに購入苗の植樹と一連のサイクルを行った。今年度は森林ESDを意識して都市の幼児や児童へのPRを行い、隣接市の小学校でドングリのホームステイ事業を開始、また親子活動としての植樹会も開催した。②間伐材を使う菊炭グリーンウッドワークでは、生木に触れる体験会とイス作りを行い、森林資源を生活に取り込む体験を行った。

事業成果

ドングリのホームステイ事業を拡充した。個人レベルで

の参加のみならず小学校と連携し出張活動で校庭での菊炭と里山の話やドングリのポット移植活動を児童と共に行った。菊炭の伝統文化や自然環境保全について伝えた、2年後にはその苗を山へ戻す植樹活動へとつなげる。また植樹活動では、前年度試行のドングリ苗を植樹することができ地域での循環が可能であることを確信した。

事業をよく知る関係者の声

- ・何年も協働で植樹活動をしているが、子ども達が参加してくれることは自分たちの活動の励みでもあり、未来に期待を持てる。(都市部の森林ボランティア)
- ・見ると聞くでは大違いだ。さらに幼少期の山作業の体験は机では学べないことを子ども達に気づかせてくれる。(小学校教員)

参加者の声

- ・自分が育てた苗が山で育つのを見守りたい。長い先で菊炭になると思うとワクワクする。(都市住民)



小学校での「ドングリのホームステイ事業出前講座」



クヌギを植樹(菊炭と里山を未来につなぐ植樹会)



ネットで苗木を保護



木工クラフト体験(菊炭グリーンウッドワーク)

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.21ha
植付本数：560本
下刈面積：0.2ha
除伐面積：0.2ha

参加者数

府内：183人
府外：7人
計：190人

樹種

クヌギ

グリーンベイ OSAKA 森を育てる活動

大阪府堺市



事業概要

目的は、東南海地震が発生した際に大阪湾岸の都市部を襲う大津波の緩衝地となる海岸防災林の植林と保全を行うことである。そのために、大阪府堺市の産業廃棄物最終処理場であった埋め立て地で植樹を行う。主な活動は、①25㎡×30ヶ所に13種の苗木の植栽。②大型除草機械を使って除草と土壌改良、作業用道路の除草と整備。③繁茂するツル類対策と緑地の保全。

事業成果

広範囲に生い茂る雑草やクズなどの除去を効率よく行ったことは、防災林の造成には必要だと学んだ。それは、ボランティアの参加者が多く、これまで植栽樹木の周囲の雑

草を時間をかけて取り除くからこそ、感じることができると思った。

事業をよく知る関係者の声

- ・参加したメンバーが、うっそうとした樹木に驚き、10年間の歳月の結晶と感心していた。また、主催者側メンバーの高齢化にどのように対応していくのが課題だ。(参加メンバーの友人)

参加者の声

- ・参加した人はそれぞれの仕事を持ちながら10年以上活動に関わっていることがすばらしい。
- ・2m四方の除草に30分くらいかかった。大変な仕事だと思う。(リピーター)



親子で植樹



アキノレ、エノキ、タブノキなど13種を植樹



クズの除去



植樹地

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.075ha
植付本数：420本
下刈面積：0.34ha

参加者数

府内：40人
府外：6人
計：46人

樹種

アキノレ、エノキ、タブノキ
など13種

揖保川源流の森づくり

兵庫県宍粟市、明石市、姫路市、神戸市



事業概要

揖保川の自然風土を後世に引き継ぐ活動を通し、地域住民の森林に対する意識を高め、地域で交流をはかり、地域の森づくりを推進すること。

事業成果

新型コロナウイルス感染拡大を考慮して、役員のみで小規模ながらも150本の苗木を植樹した。

事業をよく知る関係者の声

- ・植樹範囲が曖昧で、植樹する十分なスペースが確保できていなかった。
- ・どこにどれだけ植樹するかを明確にし、参加者全員がわかるようにすればさらにスムーズに植樹会を行えるのではないかと。

参加者の声

- ・近隣の山や公園などで拾ったドングリを持参した。
- ・今回のドングリ拾いは参加者が少人数だったが、たくさん拾えてよかった。



ドングリ拾い



植樹



植樹会の参加者のみなさん



下刈

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：1ha
植付本数：150本
下刈面積：2ha

参加者数

県内：78人
計：78人

子どもたちの未来の 森づくり事業



緑の募金では、「ファミリーマート夢の掛け橋募金」並びに㈱ファミリーマートの募金寄付により都道府県緑化推進委員会推薦事業として「子どもたちの未来の森づくり事業」を実施しています。

にちようびの森～森で育つ子どもたち

北海道帯広市



事業概要

誰もが気軽に集える森のコミュニティーセンターをめざし、活動を通じて森づくりへの関心を喚起し、担い手育成を行う。①あそびの森のあしあとづくり；木こり体験や森の手入れ、薪割り、フィールド内の地図づくりや自然観察など。②森のこどもらんど；緊急事態宣言のため中止。③野外の子どもの活動に特化したリスクマネジメント研修会。④子どもの自然体験のノウハウや、森の活動を楽しむヒントを得るための研修会。⑤自然に興味関心を抱ききっかけとして、森の写真絵本づくりワークショップ。

事業成果

コロナ禍で、さまざまな活動が制限される中で、森の中で家族で参加できる本活動への関心が高まった。隔月のあそびの森の活動だけでなく、活動のない月にも自主的に家族で森で過ごす活動が生まれた。森に愛着が生まれ、森づくり活動への関心が一層高まっている。隣接する幼稚園が散

歩コースとして当該エリアを活用するなどの広がりも出てきた。

事業をよく知る関係者の声

- ・森のコミュニティーセンターの形が、かかわるすべての人とイメージを共有できた一年であったと思う。冬季期間を使ってさまざまな研修を行ったことで「やりたいことをするために」という機運が高まっていると感じる。今後は、参加者が迷わず主体的に森づくり作業ができるよう、前期のうちに共有できたイメージをより具体的に設計図をつくり、実践する段取りを整えることが課題と感じる。(はぐくーむ職員)

参加者の声

- ・木を切る、皮をむくところが楽しかった。宝さがしゲームも楽しかった。(小学1年)
- ・回数を重ねるごとに子どもたちが自分たちでどんどん遊び方を見つけている。(父親)



オオアワダチソウ抜き



馬による間伐材の搬出



ツル切り



リスクマネジメント研修会

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：0.2ha
 除伐面積：4ha
 間伐面積：0.1ha
 調査：2ha
 馬による搬出：0.1ha
 ツル切り：0.1ha
 その他：7回

参加者数

道内：317人
 計：317人

こまおかの森げんきづくり事業

北海道札幌市



事業概要

目的は、子どもたちに緑を愛する健全な心身を養い、社会のために役立つ自主的な活動を行うことで、自然物への愛着が深まり、自然愛護の心情を養うこと。学校林の再生に関わることで、生涯にわたり森林を大切にしようとする心、限りある資源を有効活用しようとする態度を育てることである。主な活動は、学校裏に隣接する「学校林」で、樹木や植物、野鳥、虫の観察を行うこと、森の学習会、植樹体験、育樹体験、伐採・剪定・間伐作業、薪づくり体験活動、巣箱はずし、巣箱かけ、マイツリー活動、ネイチャーゲームなどの自然体験活動である。

事業成果

児童が、学校の教育ボランティアからの指導を受け、学校林で伐採した樹木から薪をつくり、特色ある行事である「野焼き」に活用することで、エネルギーの循環や有効利用について学ぶことができた。地域に居住している学校OBや

地域企業の方がボランティアとして学校林再生の教育活動に協力いただき、つながりをつくることができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・学校林を自分たちで育てていることを実感できる教育課程をつくりあげたことがうれしい。できることがあれば力になりたい。(学校OB)
- ・エネルギー循環教育につなげたところが素晴らしい。多くの場で発信すると良いのではないか。(学校教育ボランティア)

参加者の声

- ・学校林を活用し、体験的な学びをぜひ創り上げてほしいと思っていた。学校林の木々が薪となり行事に活用されるといった教育活動が行われうれしい。(保護者男性)
- ・学校林に落ちていたどんぐりも火付けの材料になる。野焼きなどで駒岡小の森の資源を使う可能性が広がるのではないか。(保護者女性)



学校林での巣箱かけ



学校林の間伐材を利用した薪づくり



ミズナラを植樹



マイツリー選定活動

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.5ha
 植付本数：10本
 下刈面積：2ha
 除伐面積：2ha
 間伐面積：2ha

参加者数

道内：32人
 計：32人

樹種

ミズナラ

子どもと馬を中心としたコミュニティによる里山整備及び森林環境教育事業

北海道苫小牧市



事業概要

地域の小学生とともに、なるべく化石燃料を使わず馬を活用した整備作業を通じた活動を通して、子どもたちへの森林環境教育活動の推進と、北海道的里山モデルの構築をめざすこと。そのために、かつて「森のようちえん」に参加していた現小学生を対象に展開している放課後体験活動「森っこアフタースクール」と連携し、馬による森林整備をからめた森林環境教育活動を提供した。また、かつての「森っこアフタースクール」参加者をボランティアとして募集し、活動に協力してもらった。土日を活用し、保護者も参加できるイベント「森っこホリデー」を実施した。

事業成果

今年度から参加者数が倍に増え、かつ子どもたちの経験値も向上したために、森林整備や馬を使った整備活動に対する子どもの貢献度が高まってきた。また、昨年度視察してきた幼稚園へノウハウ移転が進み、新たなフィールド開発

はもちろん、第3の幼稚園からも打診を受けるようになってきた。

事業をよく知る関係者の声

- ・森林を所有する園として、専門家や元卒園した後の子どもや保護者が手入れをしてくれることは有意義であり、ありがたく思っている。幼稚園が森や馬を通して世代や業界を超えてつながっていくことに意義を感じている。(幼稚園園長)

参加者の声

- ・OBとして関わっていることにとっても嬉しさを感じている。今の自分にとっても面白いことであり、かつての自分を「こんなふう楽しんでたんだ」と振り返るいい機会になっている。(高校生ボランティア)
- ・森の中で自由に遊べる機会をつくってくれたことに、感謝している。親である私自身も、ストレス発散になっている。(保護者)



親子で薪割り



薪積み



丸太の結束



森を楽しむ子どもたち

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：0.5ha
 間伐面積：6ha
 森林資源活用：7回
 イベント：1回

参加者数

道内：60人
 計：60人

ふるさとの森・遊びの森作り事業

北海道恵庭市



事業概要

失なわれていく自然環境の保護と、自然の中の厳しさや五感を生かした保育の充実を主として活動を行う。主な活動は、市内幼稚園、保育園、こども園の自然体験活動の利用、市内学童の放課後育成事業における自然体験、市民への自由開放を行う。

事業成果

地域、周辺企業の認知度が上がり、子どもだけでなく企業のレクリエーション等で利用が見られた。緊急事態宣言下でも感染予防に配慮しながら森の開放を行うことで、親子の息抜きなど森での過ごし方に一定の発展が見られた。

事業をよく知る関係者の声

・森林における環境学習を行うことで、子どもののびのびとした成長と、自信をもって様々なことにチャレンジできるようになった。(保護者)

参加者の声

- ・コロナで公園が閉鎖し、子どもの遊び場がなくなっている中、子どもがのびのび遊べる場所があった。(幼児保護者)
- ・園児が日頃利用する森が生活の一部となった。子どもたち自らやりたいことを森で実現したいと考えようになり、森が身近な存在となった。(幼稚園教員)



幼稚園児の自然体験



薪割り



焚き火



馬で間伐材を搬出

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：1ha
 間伐面積：0.3ha
 自然保育：32回
 野外活動：28回
 教育キャンプ：2回
 プレーパーク：14回

参加者数

道内：31人
 計：31人

まるごと体験ツアー2020

青森県青森市



事業概要

「森林体験」や「木ものづくり体験」を通して、子どもたちに「森の学び」の場を提供すると共に青い森の魅力を内外に発信すること。主なイベントは、「まるごと体験ツアー」と「緑のめぐみ展」であり、以下のような活動を行った。

①現地調査と「森林体験ガイド養成研修」。「まるごと体験ツアー」の森林体験の会場となる青森市浅虫温泉森林公園において、遊歩道の整備や安全確認を行うと共に、スタッフを対象に「森林体験ガイド養成研修」を3回行った。

②開催準備会議。「まるごと体験ツアー」準備会議を2回と「緑のめぐみ展」準備会議を3回行った。

③「まるごと体験ツアー2020」開催。8月13日(山の日)開催予定だったが新型コロナウイルス感染拡大の影響で10月に延期、10月も悪天候のため中止となった。

④「青森市環境フェア」への参加。緑の募金活動並びに「おどろ木をつくろう」イベントを行った。

⑤「緑のめぐみ展」の開催。「ものづくり体験コーナー」、

地域作家グループの手作り木工品の展示、さらに新たに設けた動画コーナーでは「森林体験動画」や「ものづくり体験動画」を放映した。

事業成果

「緑のめぐみ展2021」では「森林体験・ものづくり体験動画の放映」、「ものづくり体験コーナー」など多彩な演出で森林の魅力を発信することができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・参加者の人数制限やグループ分け対応、ガイドの増員、感染防止対策が必要となるので、これに対応した細やかな体験プログラムを検討してもらいたい。(あおもりクアガイド協会会長)

参加者の声

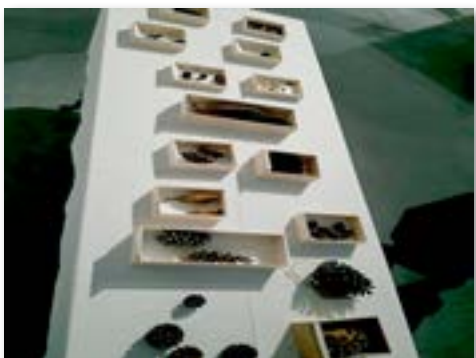
- ・森の中にいる雰囲気が出ていて、とてもリラックスできた。(「緑のめぐみ展2021」女性)



浅虫温泉森林公園ガイド研修



飛沫防止パネルとものづくり体験(青森市環境フェア)



緑のめぐみ展作品コーナー



緑のめぐみ展 シンボル作品

実績とりまとめ

作業内容

研修会：1回
環境フェア：2回
展示会：1回
遊歩道整備：1日

参加者数

計：287人

子ども達の学びと遊びの共遊の森づくり事業

宮城県利府町



事業概要

学校や親子などが安心して自然体験活動を行うためには、安全で安心できるフィールドづくりと、安心して参加できるイベントと、活動を主導する森のプロ団体の支援が必要である。そこで、①親子や学校が訪れやすい近場でかつ駐車場がある施設からアクセスできる場所に自然体験フィールドを整備する。その後丁寧に維持管理し、さまざまな自然体験を楽しめるレベルで保全する。②親子が気軽に参加できるイベントを数多く開催する。③学校に対しては、安全でかつ魅力的な森づくり・自然体験プログラムを提案する。④経験豊富なスタッフを十分に配置して、子どもたち安全に楽しく森のこと、自然のことを体験しながら学べるイベントを実施し、森に来ることが普通のことになる地域づくり、社会づくりをめざす。

事業成果

親子や学校の森づくり活動フィールドが整備され、自然

体験+本格的な森づくり体験のイベントを実施できるようになった。また、森づくりのプログラムが充実し、イベントや学校単位の森づくり活動の幅が広がった。実際に地域の校長先生や児童館の館長等で構成する「県民の森運営委員会」などでプログラムが紹介され、高い関心が示された。

事業をよく知る関係者の声

- ・イベントに参加した親子は、自然体験だけでなく土木や機械作業等、さまざまな貴重な体験ができて楽しそうだった。(宮城県県民の森管理事務所所長)
- ・クマの出没やイノシシの被害が相次いでいることから、森の見通し良くしていただきありがたい。(利府町職員)

参加者の声

- ・学校ではできない活動をたくさん体験できた。私達も楽しかった。(小学校教員)
- ・森についてたくさん学ぶことができた。ネイチャークラフトが楽しかった。(小学生男子)



親子で植樹



みんなで協力してヒノキ伐採



親子で除草



雑木林での除伐

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.04ha
 植付本数：45本
 樹勢回復：180本
 下刈面積：0.5ha
 除伐面積：0.5ha
 イベント：10回
 花壇づくり：20㎡
 遊歩道づくり：190m

参加者数

県内：644人
 計：644人

樹種

ユーカリ、トキワマンサク、
 ツツジ、ニシキギほか

子供たちへ繋ぐ森林の風

秋田県北秋田市



事業概要

荒廃した山林(里山)を、自伐作業・整備清掃・植樹によって再生をめざすとともに、子ども達が自分たちの住む地域の緑化を考えるきっかけとして実施した。植樹当日は、伐採した間伐材で工作体験を行った。地域の親子、友達グループでの参加が多く、指導を受けながら植樹をした。小鳥巣箱取付場所は子ども達がいつでも楽しめるように整備した。

事業成果

コロナ禍だったが昨年より多い参加者となった。親子での活動に子ども達が参加を喜んでくれたようだ。昨年参加した親子が、小鳥が入ったかを確認めたいと参加が増えた。

事業をよく知る関係者の声

- ・このような企画は子ども達には最高の体験、今後も続けてほしい。(地元製材所)
- ・1回から参加している。親子での参加が多く笑顔がいい。(市議会議員)
- ・散策路も歩きやすいので植えた自分の木を見に来たい。(福祉障がい者施設職員)

参加者の声

- ・子ども達が生き生きと動く姿は嬉しかった。(30代父親)
- ・子どもたちは植樹の際もスコップを離さずに楽しんでいった。(40代子ども2人参加)
- ・自然の中で親子で小鳥や木の話をして癒されました。(30代母親)



植樹地の刈払い



ブナ、ナラ、クリなどを植樹



巣箱づくり



巣箱の取り付け

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.4ha
 植付本数：180本
 下刈面積：0.4ha
 除伐面積：0.4ha
 道路整備：100m
 巣箱づくり：30個

参加者数

県内：79人
 計：79人

樹種

ブナ、ナラ、クリ

モニワ桜を増やして植えるプロジェクト

福島県福島市



事業概要

福島市の固有種モニワザクラを子どもたちや市民に広く知ってもらうとともに樹木に親しむ機会を提供する。主な活動は次のとおり。①福島市の小学生、中学生、高校生と福島市民を対象に行った。コロナ禍の開催であったため、ロータリークラブの会員家族、従業員並びに、クラブと関係のある養護学校の小学生、高校生を対象に実施。②福島ロータリークラブで継続して実施しているモニワザクラの接ぎ木を行うことで、さらに今後福島市内でモニワザクラを植樹し、緑と花を増やし、市民が樹木に親しむ機会を提供した。③接ぎ木作業を実施することにより苗木の生産方法を学んだ。④接ぎ木した樹木は養護学校や高校に植樹され子どもたちは緑化促進の喜びを感じた。

事業成果

晴天の秋空の下楽しく接ぎ木作業を実施した。講師から

は、接ぎ木して育てられた果樹畑で、果樹の成長過程を見せていただき、参加者は大変勉強になった。当初は、子どもを対象にしていたが、大人も大変興味を持って参加し、熱心に講義に耳を傾けていた。

事業をよく知る関係者の声

- ・接ぎ木による苗木の生産方法を学ぶことができた。
- ・自ら接ぎ木した苗が来年学校や職場、自宅などに植樹することで緑化推進の喜びを感じることができる絶好の機会となった。
- ・学校のクラブ活動で応用できる。(養護学校教員)

参加者の声

- ・初めは難しかったが、慣れると上手くできた。(10代～30代男女)
- ・接ぎ木の講習は大変勉強になった。(50代～70代男女)
- ・また参加して福島を花いっぱいになりたい。(20代男性)



青葉桜の台木にモニワザクラを接ぎ木



子どもたちも参加して接ぎ木



慎重に作業



接ぎ木プロジェクト参加者

実績とりまとめ

作業内容

接ぎ木本数：200本
森林教室：1回

参加者数

県内：45人
計：45人

ふるさとの風景づくり植樹祭

福島県矢祭町



事業概要

目的は、子どもたちが自慢できるふるさとの風景づくり(地域の風景をリデザインする)。主な活動は次のとおり。耕作放棄地を地域の方々と協働で整備し、福島復興支援を兼ねて、原発事故により見ることができなくなった富岡町の夜ノ森桜等を、地域の子どもの協力を得ながら地域の方々と植栽する。

事業成果

福島県が独自に緊急事態宣言を発出したため、子どもたちの参加を見送らざるを得なかった。土地所有者を中心に参加を想定していたが、地域の女性や高齢者など多数が参

加。今回の活動の近接地から、自分の土地も事業の対象にしてほしいとの要望も出された。来年度はさらに仲間を増やして活動したい。

事業をよく知る関係者の声

- ・地域で活動しているボランティア団体はないので、より多くの協力者・理解者を増やすことが課題である。

参加者の声

- ・子どもたちの参加は見送ったが来年はぜひ参加させたい。
- ・自分が生きているうちにサクラの花が見られるといいな。(高齢者)



植樹地を整備



サクラ、ヤマボウシを植樹



花を見る日を楽しみに



植樹に参加したみなさん

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.3ha
 植付本数：100本
 下刈面積：0.2ha
 植栽地整備：0.3ha

参加者数

県内：132人
 計：132人

樹種

サクラ、ヤマボウシ

私たちの住むふるさとの森づくり

茨城県筑西市



事業概要

近年、太陽光発電用地として平地林が伐採され、急速に里山が減少している。一方、管理が放棄され、荒廃した平地林も増加している。地元に残された貴重な里山を保全し、子どもたちの自然体験や環境教育の場として、また市民憩いの場として整備・保全に努めている。今年度はコロナ禍のため、大幅な事業の縮小を余儀なくされたが、地元小学校の理解を得て6年生全員による植樹体験を行った。

事業成果

機械器具の更新が行われ、作業の安全や効率化に大いに役立った。感染対策を徹底し、6年生60人による植樹体験を開催し100本の苗木を植樹した。環境教育は机上よりも実体験が有効ということを改めて感じた。春の植物観察会は感染対策を徹底し開催できた。コロナ禍にもかかわらず、応募が多く、自然に癒しを求める方が多いと感じた。

事業をよく知る関係者の声

- ・当校では里山を自然体験の場として授業に取り入れているが、今年度はコロナ禍でなかなか里山(五郎助山)に行けず残念だった。「里山を守る会」より6年生に小学校最後の思い出として、植樹体験をさせたいというご提案あり、感染防止を徹底し実行させていただいた。久しぶりの里山体験で子どもたちにも笑顔が戻った(小学校校長)

参加者の声

- ・「春の植物観察会」に子どもと参加したが、感染予防も徹底され安心だった。久しぶりの自然の中で子どもたちは、はしゃぎ回り、天気にも恵まれ、楽しいひと時を過ごすことができた。森の中で摘んだ山菜の天ぷらは最高でした。(30代保育士)



6年生がコナラ、クヌギ、モミジを植樹



下刈



春の植物観察会



山菜の天ぷらを楽しむ

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.1ha
 植付本数：100本
 下刈面積：2ha
 植物観察会：1回

参加者数

県内：168人
 県外：2人
 計：170人

樹種

クヌギ、コナラ、モミジ

子どもたち参加の森づくり活動

茨城県古河市



事業概要

里山が、生活環境の変化等により管理が放棄され、荒廃に加えて都市部からの産業廃棄物の不法投棄により景観・樹木の生育環境は著しく損ねられている。そのような中、世界の大きな課題になっている地球温暖化について、身近な里山が森林としての機能が果たせない状況を捉え、保全整備に平成21年に着手した。会員のみでの活動ではなく、市民の関心が高まり保全の機運が上がるのが里山の再生（自然環境保全）に繋がる活動の一助として、子どもたちの里山体験活動を展開することが多くの市民に知られるようになっていく。また、里山にふれあうキッカケをつくる要因となり、ひいては市民の自然環境（里山）保全の啓発につながる。子どもたち参加の活動は平成22年より小中学生参加のもと実施している。

事業成果

サクラの開花を見学した市民からは、身近なところに豊

かな森があったのかと驚嘆の声が聞かれた。里山を花山にすれば、市の活性化にもつながるのではないかとの話題もあった。学校も里山活動を推奨しており、自然環境体験が教育活動に貢献していると自負している。

事業をよく知る関係者の声

- ・会員の高齢化が課題であり、若年層の会員加入を進めたい。また、現在の里山は個人所有が多く、所有者に保全管理を期待するのは無理であろうとの声がある。管理している里山内には市有林もあり、当会にて保全管理している。今後も市の意向等、里山全体を鑑み対応することになる。

参加者の声

- ・これまではゴミ山との認識しかなく、不法投棄の業者等との接触を恐れ遠ざかっていた。森がきれいになれば、産業廃棄物の持ち込みもできなくなる。（観察会）



クリ拾い



アジサイの植樹



里山の生き物探し



シイタケの植菌体験

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.8ha
 植付本数：200本
 下刈面積：10.3ha
 除伐面積：1.5ha
 観察会：1回

参加者数

県内：50人
 計：50人

樹種

アジサイ、サクラ

茨城町小中学生の「体験学習の森」の環境整備

茨城県茨城町



事業概要

茨城町が毎年主催する「里山自然体験」を通じて、参加する子どもたちに身近な里山で自然の恵みを感じてもらうこと。主な活動は以下のとおり。①開催する森林・竹林の年間を通じての草刈りや枯木の伐採などの整備、②伐採木でイベントで使用する薪づくり、③イベントで行う竹工作(弓矢、鉄砲)等を通じた環境学習。

事業成果

今年も茨城町からの依頼を受けて里山自然体験を実施した。コロナの影響でできなくなった他団体の分も受け持つことになり、2回で38人の参加があった。内容は、タケを伐採し竹細工(1回目は弓、2回目は鉄砲)を実施した。昼食もサバイバル料理で、ビニール袋でカレーとパン生地づ

くり、そのパン生地を竹串に巻き付けて、伐採木でつくった薪で焚火を行い焼いて食した。これらの活動を通じて、森林環境学習のフィールドとして効果的な活用ができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・ 荒廃した森林の回復のために、継続した草刈りや倒木処理などの整備活動は大変な作業である。良く整備された森林はとても気持ちの良いもので、子どもたちの里山として活用されていてうれしい。(茨城町農政課職員)
- ・ 自然の恵みと楽しさを十分に体験でき、年間の人気行事として定着している。(茨城町生涯学習課職員)

参加者の声

- ・ たくさん自然に触れ、互いに協力しながら様々な経験をすることができた。



タケの伐採



タケを切り分ける



タケ細工



「サバイバル料理」

実績とりまとめ

作業内容

下刈面接：1.5ha
チップ作業：1回
クラフト体験：2回
竹林整備、シイタケ植菌ほか

参加者数

計：324人

市民による里山と共生する持続的保全の実践

茨城県土浦市



事業概要

目的は、生物多様性のある森づくりを広く市民参加による活動により実現すること。主な活動は以下のとおり。①多様性のある森にするため、伐採、下刈、落ち葉かきを行った、②竹林の侵入拡大を防ぎ適切な竹林管理を行った、③子どもたちが安全、安心して活動ができる空間を整えた。

事業成果

多様性のある森にするため、伐採・下刈・落ち葉かきを行った。床植物等が生えてくる条件が整った。竹林の侵入拡大を防ぐため、タケ伐採等を行った。安全に活動できる教育の場を提供できた。

事業をよく知る関係者の声

・下刈や伐採などにより整備された場所が増えた。明るく

歩きやすく安全な場所で子どもたちを活動させたり、遊び場にしたりできてとても助かっている。今後も整備を続けてほしい。(子ども探偵団担当理事)

・整備活動のお陰で、月例観察会や子ども探偵団等の里山を使った環境教育が安全に行われている。また、整備された里山の美しい風景に訪れた多くの人が安らぐ、癒されたと感想を述べている。(教育部会担当理事)

参加者の声

- ・竹林の整備が進んでいるが、竹林拡大の脅威も増している。若者たちの力が必要であると感じる。(60代女性)
- ・ツル類やトゲのある木々を伐採した。コナラの林となって林床にヤマユリがいっぱい咲いてほしい。(70代男性)
- ・分け入ることができなかった竹林が間伐することによって自由に入ることができるようになった。これならタケノコ採りも期待できる。(70代男性)



倒木の処理



竹林整備



倒木などでベンチづくり



落ち葉を枠に入れて「落ち葉ブロック」づくり

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：7.8ha

保全活動：19回

倒木処理：22本

参加者数

県内：210人

県外：9人

計：219人

ひだまり里郷プロジェクト こどもの森整備

栃木県高根沢町



事業概要

手入れが不十分であった私有地を地域の企業や事業所・団体・行政・NPOが連携し、2016年より下刈や間伐・危険物の除去・遊具づくりなどを実施してきた。企業にとって職員がリフレッシュできる森であったり、保育園にとって森を使った保育プログラムの開発を行う場であったり、NPOにとって子どもたちの環境教育のフィールドであるような森をめざしたい。また、プレーリーダーなどの育成を行いながら、みんなが楽しめるプレーパークができ、自治会や育成会との地域交流にも貢献したい。

事業成果

ボランティアでは難しい太い木や傾斜地にある木の間伐を専門業者をお願いでき、陽が入る森になった。また、案内看板の設置ができ、利用者に周知することができた。また、新たに近隣の環境事務所の方々がボランティアに入っただけ、生態系の調査も実施できた。

事業をよく知る関係者の声

- ・コロナ禍ではあったが、森林整備は限られた機会や人員で遂行できていたと思われる。コロナ禍の先行き不透明である中ではあるが、里山を活かした森林の良さを普及するイベントの確立というプロジェクトの目標を達成するために、プロジェクト構成メンバーと連携し、里山への遊具の設置やイベントの検討などを進めてほしい。(町役場職員)

参加者の声

- ・森林整備のボランティア活動を通して、いろいろなことを学ぶことができた。たくさんの人たちと助け合いながら活動することは楽しかった。そして、ボランティアをした後は、緊張していた気持ちもなくなり、有意義な時間となった。森林整備ボランティアでの気持ちを忘れずに、これからも誰かのためになるようなことをしていきたい。(中学2年)



下刈



生きもの観察会



落ち葉掃き



作業に参加した皆さん

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：2.1ha
 間伐面積：2.1ha
 生物調査：2.1ha
 生き物観察会：1回
 クラブ教室：1回

参加者数

県内：123人
 計：123人

ふるさと糠塚山の里山環境保全事業

栃木県鹿沼市



事業概要

菊沢地区にある里山 糠塚山の環境整備のため、次世代につないでいくための里山保全事業。

事業成果

糠塚山全体が整備され、樹木が間伐され整備されたため、林内に光がさして良い公園となった。次世代につなげるための里山環境が整い自治会の協力も得られた。また、子ども育成会の新たな楽しみの場所にもなった。子どもから高齢者に至るまで、憩いの場所として整備された。

事業をよく知る関係者の声

・コロナ禍であったが作業が進んで良かった。

- ・次世代へ里山環境保全を今後どのように位置付けるかが課題。
- ・自治会や近隣の子ども育成会等に呼びかけ自然体験の場として活用したい。

参加者の声

- ・新たな子どもたちの遊び場ができたことに喜びがある。(50代男性)
- ・子どもが自然に触れ合う場所ができてうれしい。(30代女性)
- ・これからも里山の自然を守る活動を続けていきたい。(40代男性)
- ・巣箱などを設置したい。(町内子ども育成会会長)



間伐され明るくなった林内



整備された里山



サクラ、ヤマモミジほかを植樹



サクラ

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.07ha
 植付本数：81本
 下刈面積：0.15ha
 間伐面積：0.3ha

参加者数

県内：78人
 県外：5人
 計：83人

樹種

サクラ、ヤマモミジほか

みんなで作るみんなの森プロジェクト

栃木県那須塩原市



事業概要

目的は、生物多様性に富んだ森林を再生するため、荒廃林となっている保育園の園庭林を活用して、子どもたちが森林の役割や整備の必要性を学びながら、すこやかに成長することをめざす。主な活動内容は以下のとおり。全6回ともワークショップ形式で開催。①整備する荒廃林の用途を計画するワークショップ「ランドデザイン」、②自らの体験を通じて森林整備の技術を学び、森林の役割や整備の必要性を学ぶ「下刈」「間伐」「落ち葉掃きと堆肥づくり」「薪割り」、③ツリーハウスの計画づくり。

事業成果

荒廃林の地主が整備後の私たちのフィールドを見て自分の土地を自ら整備した。参加者募集にあたりチラシやHPほか、知人等に積極的に声をかけたことで保育園関係者以外の方も参加し、参加者の多様化を実現した。整備面積の拡大により森林活用の幅が広がり、参加者自らが関わり活用計画づくりに関わったことで、自主的な森林整備に向けた意識が生まれた。

事業をよく知る関係者の声

- ・各回のワークショップの位置づけをより明確にすることで、実施効果が高まる。事業終了後の自主的な活動継続のため、情報発信活性化で新規ファンを増やし体制の強化を。(NPO理事)
- ・ツリーハウスづくりの実践者から話を聞くことで、具体的にイメージを膨らませることができた。現場の自然の中で考えることで、子どもたちの豊かな発想を引き出した。(公務員)

参加者の声

- ・6回のワークショップを1日で実施できないか。参加したいが日程調整が困難なため。(60代男性)
- ・間伐したことで林に光が差し込み木々が喜んでいるようだ。(30代男性)
- ・シノタケの処理は困難だ。チップパーにかけても機械に詰まってしまう。(60代男性)



間伐体験



下刈



落ち葉掃きと堆肥づくり



ツリーハウスづくり構想

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：0.4ha
 間伐面積：0.4ha
 森林資源活用：0.4ha
 森林資源活用：0.25㎡

参加者数

県内：116人
 計：116人

宮崎公園ツツジを未来へつなぐ

群馬県富岡市



事業概要

枯死により失われている宮崎公園の貴重なツツジの種を保全し、挿し木植栽に必要な環境を整え、公園の価値を地元の子どもたちとともに継承していく。主な活動は以下のとおり。地元富岡実業高校生によって、公園内のツツジから挿し木で育てた苗木を同高校生と地元かしの木保育園園児により公園内に植樹した。その際、富岡市からツツジの調査を依頼している群馬県文化財保護審議会委員の方に指導いただいた。

事業成果

感染対策のため、保存ツツジの採穂が適期に行えず挿し木の成績は不調であった。しかし、採穂技術や挿し木の留意点など、樹木医からの指導は当会会員の技術向上に役立った。

予定していた市民による植栽やツツジ解説ツアーも実施

できなかったが、富岡市実施の宮崎公園つつじ祭りにあわせ、地元幼稚園児とともに、当事業で整備した植栽地にツツジを植栽することができた。

子どもたちはもとより保護者やまつり参加者に、宮崎公園のツツジの大切さを伝えることができ、地元への愛着を深められた。地元高校で育成した苗を育成した生徒が幼稚園児に植栽を教える姿は、世代をつなげるものとして有効であった。

事業をよく知る関係者の声

- ・宮崎公園のツツジを地域の貴重な資源として後世に伝えていきたい。(地元自治会長)

参加者の声

- ・大きくなるのが楽しみ。(参加者)
- ・子どもが大きくなってもしょしょに来て見たい。(参加者保護者)



植樹前の説明



オオヤマツツジほかを植樹



植樹に参加したみなさん



木製筋工

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：10本
挿し木本数：100本

参加者数

県内：80人
計：80人

樹種

オオヤマツツジほか

みんなで守ろう 育てよう!よしみ里山プロジェクト

埼玉県吉見町



事業概要

所有者の高齢化等で手入れ不足で荒廃した里山の保全とその活用、地域住民と共に行う森づくりを通じた森林ESD活動を行う。主な活動は以下のとおり。①活動目的の説明とレクチャー（里山保全活動、世界と日本の森林の現状、SDGs）、②自生樹木の観察、③落ち葉溜めづくり、④保全活動（落ち葉掃き、伐採）、⑤ホダ木づくり・シイタケ植菌、⑥植樹、⑦木工クラフト、⑧樹幹ロープによる綱渡り遊びなど、⑨バイオマストイレの製作。

事業成果

活動地は宅地造成地域に隣接した雑木林。水道や電気やトイレなどのインフラがなく、大人でも徒歩10から15分かかかる近隣の公園トイレを利用してきた。コロナ禍の影響で一般参加による活動が結果的に減ったためスタッフ数人で

週末6か月をかけて、最小限の予算でバイオマストイレを手づくりで設置した。5月活動では、バイオマストイレの仕組みを説明し、循環型農業（果樹）を具体的に説明していく新たな学びの環境ができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・町の保全活動を継続してきたことから、新たな管理地について相談があった。（役場職員）

参加者の声

- ・子どもたちが楽しみながら体験学習できそうだったのが一番の参加の動機です。
- ・子どもたちが自然の循環や森や緑の大切さなどを楽しく体験しながら学べたことは、貴重な機会となった。また、親もコロナ禍でなかなか外に出かける機会も減っていたので、自然で身体を動かすのが気持ち良かった。



どんぐりポット苗づくり



モミジ、クロモジほかを植樹



シイタケ植菌

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.3ha
 植付本数：24本
 下刈面積：0.8ha
 間伐面積：0.2ha
 腐葉土づくり：4回
 自然観察：2回
 クラフト：1回

参加者数

県内：146人
 県外：28人
 計：174人

樹種

モミジ、クロモジ、果樹

親子でとりくむ「森のがっこう」拠点づくり

千葉県千葉市



事業概要

都市部における持続可能な森づくりとそれを支える人づくりのために、誰もが参加できる「森のがっこう」を構築する。主な活動内容は以下のとおり。①森の調査…森の中にはどんな動・植物が在るのか調べる、②森をまもる…下刈、枝打ち、ツル切り、残材を薪にする、植栽した苗木を守る、土壌改良やエアレーションを施す、枝葉は可能な限り粉碎してチップにする、③森を彩る……小鳥の巣箱をかける、虫の棲み処を作る、ビオトープをつくって森のいきもの観察をする、④森を楽しむ…間伐材を製材して巣箱やおもちゃを製作、丸太を使っていすづくり、薪をつくり燃料にしてクッキング、グリーンウッドワークの手法で間伐材からツールづくり、森の恵みでクラフト。

事業成果

自然災害による倒木の除去やその活用も進み、幹や枝はもちろん、実や葉も使って森活動を楽しめている。整備だ

けではないこういった活動が、持続可能な取り組みを支えている。活動の度に新たな参加者が増えている。

事業をよく知る関係者の声

- ・伐採した森の木を自然乾燥させ、製材した板を使って自分で巣箱をつくり、それを森に掛けに行く。そしてその巣箱がどういう使われ方をしたのかまでを観察することはなかなか経験できないプログラムだと思う。(森林インストラクター)
- ・森林の循環利用について皆で体験を通して学ぶとともに、その過程で樹や森にかかわる仕事をする方々との出会いは貴重な体験となった。(小学校教員)

参加者の声

- ・自分たちで植えた樹が森へ行くたびに成長している様子をみることができ、うれしい。(保護者)
- ・森を元気にするために、下刈は続けていかななくてはいけないと思う。(小5女子)



ヤマザクラ、クヌギほかを植樹



ツル切り



製材所見学



巣箱づくり

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.08ha
 植付本数：38本
 樹勢回復：4本
 下刈面積：0.78ha
 間伐面積：0.02ha

参加者数

県内：406人
 県外：19人
 計：425人

樹種

ヤマザクラ、クヌギ、モミジ、カエデ、ヤマボウシほか

歴史ある学びの森で、地元の小学生へ体験学習

東京都八王子市



事業概要

聖パウロ学園高校の学校林であるパウロの森をフィールドにした体験学習で、地元の子どもたちが森の役割や自然の大切さなどを学び、それに相応しい安全な森づくりに継続的に取り組むことにある。具体的にはパウロの森くらぶが森を整備し、今年も恩方第1小学校・恩方第2小学校児童に対し下記4回の森林学習プログラムを企画・実施した。1年生「いろいろなはっぱをあつめて、すきなはっぱのえをかこう!」、2年生「葉っぱを集めて工作をしよう」、3年生「パウロの森のたんけん隊」、4年生「森に入り間伐作業を見て木を切る体験をして恩方の森を体験する」

事業成果

昨年も一昨年に続き、4回中2回雨で学校の校舎での授業になったが、昨年から予定日が雨の際の予備日を設けてもらい、全4回が実施できた。昨年の経験と成果が生きた。

1年生の植樹プログラムが3年目に入り、2年生、3年生が自分たちが植樹した成果を実際に見ることができた。自分で成果を確認できる効果は大きい。

事業をよく知る関係者の声

- ・自然に囲まれた地域ですが、きちんとその自然を学ぶ機会は、普段なかなかありません。短い時間の中、上手に子どもたちの興味を引き出してくださり、楽しい時間を作っていただき感謝しています。「自然の中で」という実体験の力は大きいと感じています。(副校長)

参加者の声

- ・パウロの森は新しい経験ができ、とても楽しいのでまた来たい。(子どもたち)
- ・子どもたちの笑顔が楽しみで毎年進んで関わりたい。予備日の設定が大変きついが補って余りある体験です。(スタッフ)



1年生 葉っぱのお絵かき



2年生 工作



3年生 森の探険



4年生 間伐見学

実績とりまとめ

作業内容
 体験授業：4回
 森の整備：2回

参加者数
 都内：43人
 都外：7人
 計：50人

稲城市立長峰小学校学校林ルネサンス事業

東京都稲城市



事業概要

地域の緑化空間でもある稲城市立長峰小学校の学校林について、鬱蒼とした雑木林となっている状態の学校林を伐採整理し、適正管理を行うことで学校林を再生させ、野鳥や昆虫が飛来する憩いの空間とすることで地域住民にも良好な緑空間を提供することを目的としている。森や樹木に親しむ一環として、秋には学校林や近隣公園等で採取したドングリを利用しドングリクラフトを作製した。また、伐採した空間には在校6年生が総合学習の事業の一環で学習・検討する中で果樹を選定し植栽した。

事業成果

学校林ルネサンス事業の進捗によって、長峰小学校の在校生が学校林に植栽されている樹木について関心を持ち、森と人との関わりや、森に飛来する野鳥や森に生息する昆

虫の生態に関心をもって総合学習を進めるきっかけとなった。また、学校林が地域の貴重な緑空間であるとの認識を深めた。事業推進の中で、学校林の樹木の副産物であるドングリを利用し、ドングリクラフトを作製し、樹木が自分たちの生活を美的にも豊かにすることを体感した。

事業をよく知る関係者の声

- ・この事業を通じて樹木への関心が高まり、生物多様性への関心も高めることができた。(学校関係者)

参加者の声

- ・樹木の名称や特性について学べたことは有意義だった。(6年生)
- ・伐採地に自分達が検討した果樹を植栽し、果樹の育成や果実が楽しみ。



ドングリクラフト



伐採・剪定



学校林管理講座



果樹の植樹

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：10本
除伐面積：0.1ha
講座：2回

参加者数

都内：160人
計：160人

樹種

プラム、レモン、ミカン、サクラ

豊ヶ丘小学校林活用・再生プロジェクト

東京都多摩市



事業概要

目的は40年前から学校敷地にある林を今までのように子どもたちの学習、体験の場として守っていくこと。そのために、①手紙や学校のホームページで学校林の様子を伝える、②年間7回位の整備作業、③定期的に学校林の中を見て回り危険な枝がないか確認、④多摩市のグリーンライブセンターに連絡を取り林の状態について助言をもらう。

事業成果

今年度もコロナ禍の影響でできないこと（工作会、银杏拾い）もあったが整備作業はおおむね予定通り実施できた。高学年の「総合」学習でも地域と協力して学校林の保全を考える学習が行われた。

事業をよく知る関係者の声

- ・教育環境としてとても良い学校林を地域といっしょに守っていききたい。植生も変化してきているが元々の多摩の林の植生を残していければと思う。常緑樹は適切に伐採するなどエリアごとの保全の仕方を考えて整備作業を行いたい。（地域在住・樹木医）

参加者の声

- ・初めてノコギリを使って木を伐ったのが楽しかった。（4年生）
- ・親子で参加して学校林のある良さを感じた。（40代保護者）
- ・地域の協力をいただいて学校林の整備をできたことをありがたいと思う。（教員）



落ち葉溜め



シイタケほだ木の整理



杭づくり



学校林のゲート設置

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：0.25ha

参加者数

都内：120人

計：120人

4年生林業体験(間伐作業・下草刈り) 5年生林業体験(間伐作業・枝打ち) ~相原小学校における「木育」~

東京都町田市



事業概要

地域の人々から相原町の歴史を学び、林業体験を通して、地域のすばらしさと自然を大切にしようとする気持ちを育むことである。主な活動は、相原共有林の歴史や地域の方々の思いを知る(相原保善会の方のお話)、間伐の様子を見学する、下刈体験(4年生)、枝打ち体験(5年生)、境川源流散策である。

事業成果

同規格のカマ、ノコギリをクラス人数分使用することにより、効率的に体験することができ、一人一人の作業時間を十分に確保することができた。また、相原保善会の方々が境川源流までの道を整備してくださったことで、最初の一歩を見ることができ、森林の保水力についての理解が深まった。

事業をよく知る関係者の声

- ・しっかりとした道具をそろえてもらい活動が充実した。よく切れる道具のほうが、むしろケガをしないので良い。(相原保善会役員)
- ・コロナ禍、例年通り開催することができて良かった。今後も大切な活動として、継続して行ってほしい。(相原保善会役員)

参加者の声

- ・林業体験に初めて参加して、とても貴重な体験をすることができていることを実感した。(4年生保護者)
- ・相原共有林や保善会の方々の活動について、くわしく知ることができて良かった。(5年生保護者)
- ・森林を守ることの大切さを勉強して、保善会の人たちがしていることは、とても大切なことだと思った。(4年生)



森林についての説明(4年生)



下刈(4年生)



枝打ち機による作業を見学(5年生)



丸太切り(5年生)

実績とりまとめ

作業内容
 下刈面積：0.5ha
 間伐面積：0.5ha
参加者数
 都内：218人
 計：218人

みんなで集う多様で豊かな森づくり活動

東京都八王子市



事業概要

八王子市南浅川町梅ノ木平国有林、部分林、及び隣接民有林(約82ha)を対象に植樹等の森林整備を行う。また、作業フィールドや宿泊研修施設を活用して森林体験教育を行う。主な内容は、①過密になっているスギ・ヒノキ人工林の間伐と風倒被害木等の処理。②ツル切り、除伐、林床整理、植樹、歩道整備。③学校や企業、地域グループ、親子などを対象にした森林作業体験教育。④間伐材を利用した木製品の製作と福祉施設への寄贈などである。

事業成果

①天然林施業・刈出しや広葉樹の植樹を実施したことでスギ・ヒノキ人工林の混交林化が進んだ。②間伐・除伐等の作業を新規の森林で行ったことで、整備済み森林が拡大した。③親子などを対象に16回の森林作業体験を行い森林理解の増進を図った。④間伐材を活用して活動の拠点整備を実施した。

事業をよく知る関係者の声

- ・5年生の授業として森林体験を行ったが、自然の中で心も体もリフレッシュし、帰りのバスはみんな笑顔が絶えなかった。(小学校教員)
- ・木材がどのように生産されるかを実践を通じて学ばせたかったがコロナ過でできなかったのは残念だった。来年度はぜひ行いたい。(高校教員)

参加者の声

- ・植えたクリの木の成長が楽しみだ、また会いに来たい。(小学5年)
- ・木を1本伐るだけでも重労働であることが初めてよく分かった。(男性)
- ・間伐した後の林が見違えるように明るくなり気持ちが良かった。(女性)
- ・山を良くするためには木を伐ることと、その木を使うことが大事。(男性)



オニグルミ、カツラ、トチノキほかを植樹



小学生の植樹体験



間伐体験



木工体験

実績とりまとめ

作業内容

植樹面積：0.4ha
植樹本数：300本
間伐面積：0.9ha
ツル切り除伐：1.7ha
歩道整備：1km
体験活動：16回

参加者数

都内：688人
都外：180人
計：868人

樹種

オニグルミ、カツラ、トチノキ、ヤマグリ、イタヤカエデ、ヤマザクラ、ホオノキ

故郷の里山再生および園芸文化の復活プロジェクト

新潟県三条市



事業概要

荒れた里山を整備し、かつて緑化造園木の生産地であった頃の姿を取り戻し、地元住民および一般外来客が散策できるような環境を創出し、地域の活性化に貢献すると共に三条市の観光資源とすること。主な活動は以下のとおり。①はびこっているモウソウチクの駆逐（伐採したタケはクラフトなどに活用）、②豪雪によって折れたり倒れたりした支障木の伐採・撤去もしくは現場集積、③将来的に生産地の情景を創出することを前提とし、支障木の伐採・撤去もしくは現場集積、④遊歩道からの景観を楽しめるよう、情景をふさぐ樹木を撤去し、休息スペースを創出、⑤低地から見上げても作業成果がわかるレベルの整備をめざす。

事業成果

保内公園隣接民地の北側斜面を集中的に整備し、相当数の高木や腐朽木を伐採処理した。このことで明るい空間や新たに植樹できるスペースができ、ヤエザクラを植えるこ

とができた。軽トラックが入れる搬出路をつくり、リレー輸送で搬出を行ったが大径木は搬出できず、人力で動かせる程度に刻んで現場に集積した。

事業をよく知る関係者の声

- ・支障木を伐採することで地表面への日当たりが良くなり、新たな植生が生まれると思う。下刈などを継続していくことが大切。（公園当初設計参加者）
- ・子どもたちが自然環境に親しめる環境づくりに参加することで、緑に親しむ心を醸成するのは大変良いことだと思うので継続して企画していただきたい。（小学校長）

参加者の声

- ・1本伐ると新たに支障木が現れてくる。ファイトを奮い立たされる。（60代男性）
- ・若い人たちが、里山整備という思いと地元愛を引き継いでくれるだろうか。（60代男性）



モウソウチクの伐採



支障木の伐採



シダレザクラの植樹



歩道脇を整備

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.2ha
 植付本数：10本
 下刈面積：0.5ha
 除伐面積：2.3ha
 間伐面積：0.5ha

参加者数

県内：214人
 計：214人

樹種

ヤエザクラ

子どもたちの未来の森づくり事業

石川県輪島市



事業概要

第66回全国植樹祭は、2015年5月に石川県で開催され、記念植樹が小松市「憩いの森」で行われた。植樹されたケヤキ、タブノキ、スタジイ、サカキ、アテ等、地域を代表する樹木は順調に成長しているが、継続した保育が必要である。「憩いの森」にはハイキングコースもあり小松市街から近く、地域のシンボルトとなる森に育て、学童の「森の学び」のフィールドとして整備する。また、輪島市金蔵地区には、美しい里山や奥能登の原風景を留める棚田維持に不可欠な用水溜池周辺の山林保全活動が地域住民により行われているが、高齢化に伴い次第に困難となっている。そこで、地元住民並びに小中学校と連携し、未来に引き継ぐ地域の象徴的な森づくりを行う。主な活度は、以下のとおり。「憩いの森」①植樹区域の下刈、②植樹区域に隣接する法面の雑木伐採により、ハイキングコースの景観改善。「金蔵の里山保全」①金蔵山の休憩用東屋周辺の下刈、②集落に隣接する里山で学童による植樹体験区域の整備。

事業成果

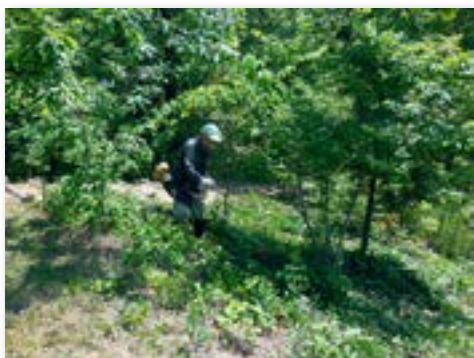
金蔵の里山保全活動は、遠隔地につき宿泊を伴う活動を行う予定であったが新型コロナウイルスの影響で日帰りの活動となった。地元住民及び能登地区の会員の参加を得て、今後の活動実行のための確実な一歩を踏み出すことができた。また、新規入会メンバーを中心に下刈機やチェーンソー使用について、ベテラン会員による安全指導等を行うことで、安全な作業につなげることができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・一昨年行った地域の学童による森林整備の見学会が好評だったので、継続しての実施を希望したい。(憩いの森管理事務所員)

参加者の声

- ・地元住民の参加者が当会の活動を高く評価し、当会に加入することとなった。



下刈(憩いの森)



間伐(憩いの森)



植樹(金蔵地区)



歩道整備(金蔵地区)

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.2ha
植付本数：20本
下刈面積：6.1ha
除伐面積：0.3ha
間伐面積：0.3ha

参加者数

県内：123人
計：123人

樹種

サクラ

小学校移動教室における林業体験プログラム

長野県富士見町



事業概要

森林管理署と協定を結んだ「遊々の森」内で、児童たちに木を伐倒してもらい、森林の整備を行うとともに、林業の大切さと協働を学ぶ機会を提供すること。主な活動は以下のとおり。①森林の役割と林業の重要性を伝える森林教室の開催、②自然の家スタッフの指導による危険木・支障木の伐倒、③伐倒木の丸太切り、道脇への運搬、④丸太のストープ用ペレット等への再利用。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響による、移動教室の中止に伴い、林業体験も取りやめとなった。その代替として、各学校へ出向き、森林教室と丸太切り体験を行う「出前教室」を自己資金で実施した。

事業成果

新型コロナウイルス感染症の影響による移動教室の中止に伴い、体験林業も取りやめとなったため、令和3年度に向けての資材購入や体験場の整備を行った。令和3年度の

6月に2校で実施し、1年間のブランクがあるにもかかわらず、ケガや事故もなく終わることができ、準備の大切さを改めて感じた。

事業をよく知る関係者の声

- ・国有林を継続的に利用できる「遊々の森」制度を活用し、学校教育における「総合的な学習の時間」などで、森林の利用を通じた子どもたちの人格形成や、幅広い知識の習得を行う森林環境教育の場として積極的に活動している。(南信森林管理署)

参加者の声

- ・森林体験は本当に貴重、内容もとても充実している。(小学校教員)
- ・一本の木を伐るとき色々考えていることに驚いた。(小学生女子)
- ・今の地球環境を良くしていくには、自然を大切にしなければと思った。(小学生男子)



ノコギリで伐採体験



丸太運び出し



伐採木を切り分ける



森林教室(森の仕組みや林業の役割を解説)

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：0.6ha
間伐面積：0.6ha
森林教室：2回

参加者数

県内：32人
県外：187人
計：219人

名勝「金尾滝」周辺の「森の学び」整備事業

岐阜県大野町



事業概要

地域住民に親しまれ、子ども達にとって安全な森林空間の創出をめざし、雑木等が生い茂った森から広葉樹による景観林に変える。主な活動は以下のとおり。①雑木の伐採・ツル等の撤去、②下刈及び植樹場所の清掃、③広葉樹の植樹、④伐採木を利用してベンチ・テーブルの製作・設置、⑤地域住民の皆様への事業説明会、⑥地域住民をお招きして植樹会。

事業成果

雑木の伐採ができ、子ども達を集めての教育の場が整った。全員の力を合わせ困難な作業も克服できた。各イベントで諸団体とも交流し地域の絆が深まった。専門家の意見

も伺うことができ、次年度以降の活動へ役立った。

事業をよく知る関係者の声

- ・この事業は単なる森林整備にとどまらず、健康増進、森林環境教育、治水の面からも素晴らしい取り組みである。
- ・雑木の伐採とスギ葉の撤去を実施したことにより、ギフチョウ幼虫の餌となるカンアオイが自生してきている。数年後にはギフチョウの復活が期待できる。

参加者の声

- ・50年先100年先の、未来につながる森となることを願っている。
- ・皆で、素晴らしいユートピアにしていきたい。



支障木などを伐採



広葉樹を植樹



テーブル・ベンチを製作



階段設置

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.7ha
 植付本数：82本
 除伐面積：1ha
 間伐面積：1ha
 ベンチ・テーブル製作：1回
 植樹会：1回

参加者数

県内：173人
 計：173人

樹種

広葉樹

子どもたちと地域で育てる松野小学校の森とビオトープ整備事業

静岡県静岡市



事業概要

目的は、松野小学校の学校林とビオトープを静岡市民の憩いの場として提供するため、学校教育を通じて子どもたちへの森林環境教育とビオトープの整備を行うことである。

①経年変化により環境が悪化しているビオトープの連柴柵による護岸工事と浚渫工事、②景観と環境を向上させるための水生植物植栽工事、③経年変化で稼働しなくなった水車再生のための資材提供、森林環境学習環境向上のための樹名板の設置、④松野小学校の森で子どもたちが森と親しみ森を学ぶために行った森林環境教育、道具に触れる林業体験、野鳥観察及び樹木と触れ合うフィールドワーク、⑤募金の協力者であるファミリーマート静岡営業所とともに行った記念植樹と看板設置。

事業成果

20年ほど前に整備したビオトープが落葉などの有機質の堆積や土砂の流入、設置した水車などの重要な教育資源の

修復が必要な状況になっていたが、経費的な制約で整備が滞っていた。ビオトープが整備されたことで、学校教育の中でも積極的に活用できるようになった。また、事業を通じて森の中でロープを使用した自然のプランコやフィールドワークを楽しむことで、学校林への関心も高まった。

事業をよく知る関係者の声

- ・野鳥観察や森でのロープを使ったアスレチックは子どもたちに自然の中で遊んだり、学んだりする楽しさを伝えることができたと思う。(5年生担任)
- ・ビオトープのメンテナンスは落ち葉拾いなどかなり大変だが、きれいになると継続して手入れを続けていく意味が感じられるようになった。(教頭)

参加者の声

- ・当社が取り組んでいる虹の架け橋募金の具体的な使い道を知ることができた。機会があれば、また参加したい。(ファミリーマート営業所長)



森の話を聞く



薪割り



サクラを植樹



ビオトープ護岸工事(連柴柵と玉石水制工)

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：3本
 森と木の話：1回
 林業体験：1回
 フィールドワーク：2回
 野鳥観察：2回
 記念植樹：1回
 看板設置：1回

参加者数

県内：134人
 計：134人

樹種

サクラ

どんぐり交流会の山づくり

愛知県新城市



事業概要

平成8年度よりどんぐり交流会を実施し、どんぐりの苗木を毎年植栽してきた。当初植栽したどんぐりの木（コナラ）も大きくなり、混み合ってきているので除間伐を実施し、健全などんぐり山をつくる。

事業成果

新型コロナウイルス感染症防止対策のため、交流会は中止になった。ただ、山の除間伐はボーイスカウトを中心に実施できた。参加者は山の変化に気づくことができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・ 除間伐を実施した結果、山の変化に驚いた。
- ・ 山の整備が悩みであったが、ここまで整備できると何度も足を運びたくなる。
- ・ 子どもたちが一生懸命除間伐を行っている姿をみると、将来が明るく感じられる。

参加者の声

- ・ 一日に何本も伐れない。結構疲れた。
- ・ 明るく、歩きやすい山になった。
- ・ 楽しみにしていた交流会が中止になり残念だった。



コナラの植樹



除間伐



階段の設置



樹名板を設置

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.1ha
 植付本数：80本
 除伐面積：3.6ha
 間伐面積：3.6ha

参加者数

県内：113人
 計：113人

樹種

コナラ

「森の教室」どんぐり山づくり①

愛知県豊田市



事業概要

「森の教室」で保育園児が植えたどんぐりの苗木でどんぐり山づくり、将来、学習の場、遊びの場、地域の交流の場となるようにすること。主な活動は以下のとおり。①どんぐり山を作るための準備（草刈り、階段設置、樹名板の作成と設置、標柱の設置、看板パネルの更新）、②どんぐり山の樹木を獣類から守るためのネットの設置、③子どもたち、保護者、地域の方、事業団体会者による記念式典、④どんぐり山の維持管理など。

事業成果

上記①の里山に隣接した場所に、クヌギ・コナラ・アベマキを植樹し、どんぐり山が完成した。今回は、大人や子どもたちが協力してどんぐり山を整備し、また、植樹したことで感謝の心と愛情をもって活動できた。今後、多くの方々とともに、学習の場・遊びの場・地域の交流の場となっていくことが期待できる。

事業をよく知る関係者の声

- ・一人一人に自分の木があり、それを自分の手で植えたこと、また、保護者や地域の方々とともに活動したこと、全てが大きな意味をもつ活動であり、すばらしい取り組みだ。（事業団体会員）
- ・子どもたちが大人になったとき、小さな苗木が立派な木々になり、その年輪を親として次の世代の子どもたちに伝えていくことだろう。こういった一つ一つの積み重ねが大切。（区長）

参加者の声

- ・数年後にここでどんぐりの実を拾うことを今からわくわくしている。（6年生）
- ・コロナ禍で大変だろうが、このような企画によって良い経験ができた。（40代保護者）
- ・子どもたちが植えた木が大きく育ってほしい。（校長）



植樹地の草刈り



樹名板づくり



階段づくり



クヌギ、コナラ、アベマキなどを植樹

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.08ha
 植付本数：100本
 下刈面積：0.08ha
 樹名板設置：3回
 防獣ネット設置：1回
 階段設置：2回

参加者数

県内：221人
 計：221人

樹種

クヌギ、コナラ、アベマキ

「森の教室」どんぐり山づくり②

愛知県美浜町



事業概要

技術や資金不足のために手入れが十分に行き届いていない学校林・裏山の整備を行う。主な活動は以下のとおり。①階段枕木・杭の取り替え、②除草作業。樹木の生長を促すための間伐・除伐、③どんぐりの苗植樹。

事業成果

学校林である裏山は、児童だけでなく地域住民の災害時の津波避難場所にもなっている。修繕した階段を上り高台に避難すること、また、斜面に集まるスペースを確保することができた。東屋やロープの遊具が設置された広場への経路を複数確保することができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・今後も継続して手入れをする必要がある。今後も学校と地域で連携して整備活動に取り組んでほしい。(青少年を守る会会長)

参加者の声

- ・植樹をして木が大きく育ってほしいと感じた。自分がつくった樹名板が階段や通路の両端に立てられて自分たちも整備に関わることができて良かった。(4年生)
- ・裏山の斜面の草刈りは足を取られて厳しい作業であったが、子どもたちのためという気持ちで取り組んだ。自然とふれ合える機会が減少している中、このような場所が学校校地内にあることは良いことだ。これからも学校の裏山を大切にしてもらいたい。(50代男性)



除草



階段の修繕



樹名札づくり



コナラ、クヌギ、アベマキを植樹

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.03ha

植付本数：50本

下刈面積：0.4ha

参加者数

県内：32人

計：32人

樹種

コナラ、クヌギ、アベマキ

あさくら里山再生プロジェクト

愛知県知多市



事業概要

地域で唯一残された里山を整備し、50年以上前の賑わいを取り戻し地域住民の憩いの場とする。

主な活動は年4回の草刈、竹林の伐採、小径の整備など里山整備事業を行い、子どもたちや地域の人々にオリエンテーリング等に参加してもらい、気軽に遊んだり、花見ができる場所にする。

事業成果

耐久性のある材料で散歩道を延長することができた。幟を里山の入口や大きな市道の脇に設置でき目立つようになった。樹名板を設置したことにより来訪者も樹木の名前がわかるようになった。

事業をよく知る関係者の声

- ・反省点としては、植えた木や剪定してはいけない枝を剪定してしまった事があった。参加者への事前指導を徹底していきたい。(事務局OB)

参加者の声

- ・継続して整備する必要がある。(会員)
- ・毎年良くなっていて、サクラがきれい。樹木の名前が分かるようになった。(地域住民)
- ・園児たちが喜んで遊んでいる。(保育士)



サクラ、ウメを植樹



下刈



看板などを設置



樹木名を設置

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：10本

下刈面積：1ha

参加者数

県内：161人

計：161人

樹種

サクラ、ウメ

未来を担う子ども達へ森林文化を伝えよう

三重県桑名市、いなべ市、鈴鹿市



事業概要

ゲーム等に傾倒している現代の子ども達に、木工体験を通じて木の持つやさしさや香りに触れ、そのぬくもりや達成感を感じてもらうこと。主な活動は次のとおり。①国有林の間伐で出た枝等を木工作品づくりに活用、主に公民館等に出向き工作を指導。②ヒノキ林の中に間伐した木材等を利用して遊び場となる空中遊歩道づくり。

事業成果

公民館等に出向き木工指導する出前講座では、活動が広く知られるようになり依頼数が増えた。また、子どもアイデア楽工の秘密基地づくりにおいては、学年が上がっても

継続して参加している子ども達が下級生をリードしながらいっしょに遊び、学校ではできない体験をしている。

事業をよく知る関係者の声

- ・参加者数を絞るなどコロナ対策に苦心したが、開催できて良かった。(公民館職員)
- ・コロナ禍、外で遊ぶ機会が少ない子ども達の貴重な時間となる。(アイデア楽工理事)

参加者の声

- ・うまく作ることができてうれしい。(木工教室参加児童)
- ・クギが太いので打ち込むのが難しかった。少しずつできていくと楽しい。(アイデア楽工参加児童)



タケでドームづくり



空中回廊づくり



丸太切り



ベンチづくり

実績とりまとめ

作業内容

間伐本数：78本
木工体験：8回
こどもアイデア楽工：13回

参加者数

計：376人

子供達・地域の人々が安全、快適に集える雌岡山梅林の管理、整備育成及び環境保全

兵庫県神戸市



事業概要

市民の安らぎと憩いの場、子ども達には自然の大切さを学び体力知力増強の場の提供に努める。主な活動は、①下刈、倒木の除去、樹木の剪定整枝、遊歩道の整備、施肥。安心、安全に過ごせる憩いの場、教育の場の設営、②来訪者への森林の大切さの説明と交流、③子どもたちの環境学習との触れ合いの機会をつくる、④梅見食事会(3月)収穫体験会(6月)の開催等で広く一般来訪者や子どもたちとの交流を図る。

事業成果

この時節、地元中学校の例年の校外学習ができず相談を受け、2年生全員で行う梅林内整備の作業を提案し実行した。広報活動の活発化で少人数グループや家族づれの来訪が増え団体来訪者の減少をかなりカバーできた。収穫体験会の後枝払い応援隊に来てもらい、剪定作業後は梅の実の

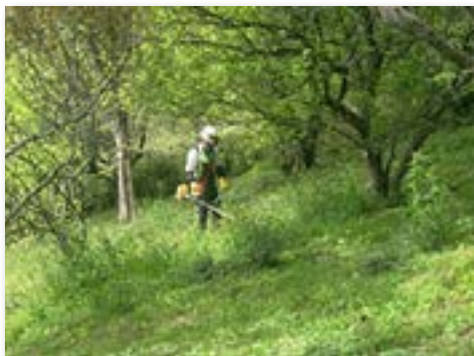
収穫を楽しんでもらえ、我々も助かった。

事業をよく知る関係者の声

- ・整備活動は長年の実績通り手慣れているので問題ない、毎日通っても飽きない。(毎日登山会会員)
- ・四季の花々で楽しめる。日頃の苦勞がうかがえる。(毎日登山会々員)
- ・素晴らしい環境なのでワーキングホリデー等の学習の場として提案し実現できて嬉しい。(中学教員)

参加者の声

- ・コロナで学校でも家でも活発に活動できなかったが、明石大橋や淡路島を見下ろし、大声で歌えて気持ち良かった。(中学2年男子)
- ・すぐ下まで毎日通学しているのにここには初めて来た。梅林整備活動で汗をかき嬉しかった。(中学2年女子)
- ・ウメの実の収穫ができて感動した。(家族での参加者)



梅林の草刈り



サクラを植樹



梅まつり



中学生による梅林整備

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：47ha
植付本数：5本
名札付け：1回

参加者数

県内：295人
計：295人

樹種

サクラ

コウノトリ育む森づくりと森の恵み自然体験

兵庫県豊岡市



事業概要

荒廃が進む森林を整備し、市民が利用できる森づくりを行うと共に整備によって出た材の有効活用を考え、実行すること。主な活動は以下のとおり。①竹林整備、②広葉樹林整備、③タケを使った製作体験。

事業成果

倒木や倒れかかっているタケを中心に整備し遊歩道付近がすっきりした。参加者を募って行った竹林の整備では伐りやすいものから伐った。当日は講師から森の仕組みや現状・整備について教えていただき、実際に整備やタケの活用などを体験してもらうことで森に対する興味を持って

もらい、森林の大切さも伝えられた。タケでキャンドルとテントを製作し完成品は参加者が持ち帰った。

事業をよく知る関係者の声

- ・タケはいくらでも伐ってほしい。(男性)
- ・地区としても何をやっていけばいいのか悩んでいる。ぜひ連携させてほしい。(地元育成会会長)

参加者の声

- ・タケを30年ぶりに伐ったが、今回参加させてもらった事で普段感じない事や達成感を味わえた。こういう体験はとても必要なことだと感じた。(40代男性)



竹林整備



子どもたちも伐採体験



「山に暮らす生き物について」の説明



竹材を使っのテントづくり

実績とりまとめ

作業内容

除伐面積：0.3ha
間伐面積：0.5ha
森林資源活用：2回

参加者数

県内：57人
計：57人

生駒市西畑町の棚田・里山の再生と創造

奈良県生駒市



事業概要

棚田・里山の多面的機能を守るとともに、未来を担う子どもたちの自然教育の場を構築する。事業内容は、①休耕棚田の景観整備（草刈・花の道）、②里山林の整備（除伐、枯れ損木処理）、③休耕棚田に果樹園や山野草を植える、④里山林に植樹、⑤山のようにちえんの野外教室の場を提供、⑥小学生対象の棚田・里山体験会の開催など。

事業成果

コロナ感染予防でいくつかの事業が中止または縮小となったが、会員の活動に支えられほぼ予定どおりの活動内容になった。また、棚田の景観を維持することは、地元自治

会及び家族連れとの交流により生物の多様性となりSDGsにもつながっている。

事業をよく知る関係者の声

- ・西畑町自治会の協力依頼により活動しており 自治会と友好的な関係で信用を得ている。
- ・自治会とは年に数回の協働で草刈りを実施して、棚田の景観を維持している。

参加者の声

- ・山のブランコが面白い。(小学生)
- ・川遊びが1番楽しかった。(小学生)
- ・ここ1か所でいろいろ楽しいことができる。(小学生)



下刈



除伐



シイタケ植菌イベント



休耕田の草刈り

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：25本
下刈面積：1.1ha
除伐面積：0.1ha
草刈り面積：2ha
栽培面積：0.03ha
環境教育・イベント：34回

参加者数

県内：462人
県外：1081人
計：1543人

樹種

ヤブデマリ、タニウツギ、サラサドウダン

子ども達の心を育てる持続可能な森づくり

奈良県天理市



事業概要

持続可能な森づくりをめざした活動に携わることで、自然と人との繋がりを体感し、主体的に環境について考える心を育むこと。主な活動は以下のとおり。①草刈機講習会とチェーンソー講習会（大人向け）、②自然物を活かした遊具（ツリーハウス）づくり、③夏休み自然体験活動、④果樹苗木の植樹など。

事業成果

刈払い機やチェーンソーの使い方・知識を学んだことで女性も刈払い機が使えるようになったり、朽ちた丸太等をカットし、薪として利用できるようになった。

ツリーハウスづくりや自然体験活動を通して、新たな発見や自然の深さに気付いたり、木を使って作り出せる楽しさを味わう姿があった。またコロナ禍の中での活動は森のありがたさや自然と共に生きるということの大切さを改めて感じさせられた。果樹の植樹は森づくりの楽しみの1

つにも繋がった。

事業をよく知る関係者の声

- ・コロナ禍で自然体験の場が減少している昨今、イベントを開催できた事は大きな意味がある。子ども達が自然に触れ、心が動く体験の学び場を今後も継続してやっていたらと思う。森をみんなで作っていくプロセスは自分や他者や自然を大切にしていける事につながっていくように感じた。(スタッフ)

参加者の声

- ・使う前は機械は怖いというイメージだった。講習を受けて女性でもできるという感触になった。年に1回くらいは保護者向けに講習会を設けたら良いのではと思った。(30代女性)
- ・グループに分かれてのネイチャーゲームが楽しかった。(小学生女子)
- ・植樹するときの土づくりは勉強になった。(40代男性)



刈払い機講習会（大人向け）



チェーンソー講習会（大人向け）



果樹の植樹



ツリーハウスづくり

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：8本
下刈面積：1.5ha
自然体験：1回
遊具づくり：4回

参加者数

県内：38人
計：38人

樹種

果樹5種、サルスベリ

みんなでつくるドングリの森林

鳥取県鳥取市



事業概要

「森の教室」に参加した園児達が育てた苗木を自分たちで植え付け、成長を見守ることで森林への関心の醸成を図り、森のともだちを増やしていく。主な内容は、「森の教室」に参加した鳥取市内の5保育園の150人が、自分たちがドングリから育てたコナラの苗木を森林公園に植樹。

事業成果

自分たちが育てた苗木を植樹し、今後の成長を見守ることで森林への関心を高められた。

事業をよく知る関係者の声

- ・小さな苗木を子どもたちが植えることを通して、広く自然の役割や緑の豊かさ、環境保全意識の高揚を発信できる事業として、また「未来を植える事業」として今後も続けていきたい。(森林公園指定管理責任者)

参加者の声

- ・ドングリが芽を出し苗木になるという流れも子どもたちは知ることができ、育てた苗木を山に植えるという貴重な体験もできた。ありがとうございました。(保育園長)



苗木贈呈式



コナラを植樹



ていねいに植樹



獣害防止柵を設置

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：150本

参加者数

県内：181人

計：181人

樹種

コナラ

五感で感じる森のある園庭づくり事業

島根県大田市



事業概要

保育園の周りは国道やJRに囲まれ、自然を感じることの少ない環境となっているため、子どもたちが木に触れ、自然を体験できる「森のある園庭」づくりを行う。主な活動は、①園庭への植木の植え付け、②丸太の遊び場づくり、①・②については、園児、保護者、先生といっしょに行った。③看板製作については、プロのイラストレーター、教育コーディネーターを講師に招き、子どもたちの自然を大切にする気持ちを題材に絵を描き製作した。

事業成果

整備した園庭は、周囲の福祉施設からも見ることでできる場所である。将来は、地域の施設利用者の方もいっしょになって緑を感じることでできるような場として環境整備を行うことができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、植樹の作業から遊び場整備と一部の保護者のみの参加となり、残念だった。この活動で終わりとせず、今後も保護者会で整備し続けられるようにしていきたい。(保護者)

参加者の声

- ・子どもと植樹を行ったことで、園での生活の中で緑を大切にするようになった。家でも植樹した植物の成長について話をしてくれる。(30代男性)
- ・木材を加工して遊び場づくりに参加したが、初めてドリルを使ったり楽しんで取り組めた。園庭に保護者が作製したものがあると子どもたちも大切に使うと思う。(20代女性)



園庭に植樹



アオダモ、ウラジロガシほかを植樹



看板づくり



園庭の遊び場整備

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.01ha
 植付本数：82本
 看板製作：1回
 遊び場整備：1回

参加者数

県内：74人
 計：74人

樹種

アオダモ、ウラジロガシ、ユキヤナギ、ヒサカキほか

みんなで育てよう伊部つながりの森整備事業

岡山県備前市



事業概要

「伊部つながりの森」は平成21年に(株)ティシーシーが森林所有者である伊部区有林管理会と協定を締結し、同社が社会貢献活動として森づくりを行うため設定した。①この場所を活動の基地として平成25年に片上、伊部自治会及び(株)ティシーシーによる実行委員会を設立し森林作業だけでなく、森林を活用した体験学習に取り組み、本年で8年目である。備前市内4小学校5年生が共に森林体験、森の役目について学び交流を通じて親睦を深めた。

事業成果

長年にわたる活動が評価され、備前市第3回備前楷の木賞(地域貢献賞)を受賞した。

事業をよく知る関係者の声

- ・こうした事業を長年にわたり続けており、今後も継続してほしい。応援を続けたい。備前市も当会の貢献を認め評価をしている。行政に働きかけて学校行事に取り入れる活動をしてはどうか。(備前ロータリークラブ)

参加者の声

- ・寄せられた感想文に、森の役割、植栽、シイタケ植菌、コースターづくりなど全ての経験について喜び感謝している、との記載が多い。
- ・子どもたちも山で遊ぶことで、学校では見えない行動が出ており野外活動の重要性を感じた(教員)



「森の働き」の話を聞く



植樹方法の説明



マツを植樹



シイタケの植菌

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.1ha
 植付本数：200本
 シイタケ植菌：2回
 コースターづくり：2回

参加者数

県内：164人
 計：164人

樹種

桃太郎松(抵抗性マツ)

伊部区有林マツ再生事業

岡山県備前市



事業概要

備前焼の主燃料のアカマツは松くい虫の被害で壊滅状態のため、10年前から森林の再生に取り組み、緑の少年隊や地元小学校に呼びかけて市民参加の森づくりを行っている。

事業成果

雨天の為、緑の少年隊と区有林管理会関係者が日を別にして行事を行ったが、緑の少年隊はサブメニューの消防署見学のみでなく天候が回復したので植栽及びシイタケ植菌を行った。子どもたちは指導者と共に作業し、森林に興味を示していた。区有林関係者は初めて山作業をする人が多く子供たち以上に興味を示し、今後は機会があればどんどん参加したいとの心強い賛同を得た。

事業をよく知る関係者の声

- ・雨天のため合同での植栽はなくなり緑の少年隊と区有林関係者との一体感を味合うことができず残念だった。機会をつくっておじいさんと孫の出会いを増やしてほしい。

参加者の声

- ・少年隊行事としてこのような機会を毎年つくっていただきたい。道具を使つての行事はあまりないので期待している。(保護者)
- ・今年度は私たちは経験もないので外部委託した、機会があれば事前作業に参加して共に苦勞をしたのと心強い発言があった。(区有林関係者)



マツを植樹



シイタケの植菌



伊部区有林管理会員による植樹



植樹地

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.1ha

植付本数：200本

下刈面積：0.1ha

シイタケ植菌：2000コマ

参加者数

県内：107人

計：107人

樹種

マツ（桃太郎松）

楽しい里山二島

山口県山口市



事業概要

目的は、里山の整備「竹林ボランティア山口南」の継続活動。森林を持続可能な里山として整備し、子どもたちに里山の魅力、自然と触れ合うことの楽しさを知ってもらい、地域の交流の場となることをめざす。

事業成果

竹林を整備したこと、大木2本を伐採し安全性が確保された里山となった。里山がすっきりと見渡せるようになり、子どもたちの安全性も向上してきた。参加者のさらなる広がりの可能性を確信した。また、里山の将来像が明確となり、活動の活力となった。

事業をよく知る関係者の声

- ・以前の竹林からは想像できないくらい、明るく散歩しやすい里山となつてうれしい。(女性)
- ・昔はこの里山の中に遍路道があり山遊びや通学をしていたが、遍路道が復活し歩けるようになったことがうれしい。(男性)

参加者の声

- ・これまで環境整備を行い里山として整備してきたが、今年は竹林や木の伐採面積も広がり、大木も伐採され、山道も整備され、明るく安全な里山として手ごたえが感じられた。(80代男性)
- ・山が歩けるようになってうれしい。(中学生男子)



大木の伐採



竹林整備



竹材をチップ処理



竹林ボランティアのみなさん

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.6ha
 植付本数：100本
 下刈面積：0.7ha
 除伐面積：0.7ha
 間伐面積：0.7ha
 作業道路整備：80m
 落葉の掃除：10回
 竹チップづくり：16回

参加者数

県内：160人
 計：160人

樹種

アジサイ

子ども達に託せる美しい里山づくり

高知市春野町



事業概要

都市公園である春野総合運動公園の未整備自然林(0.5ha)の竹木類の除伐採を実施するとともに、伐採後の林内には鑑賞木であるサクラやモミジの苗木を植樹し、子ども達に託せる美しい里山づくりの礎を築くことができた。

また、令和3年2月に開催した植樹祭では地域住民や子ども達にも参加してもらい、森を守ることの大切さも実感してもらうことができた。

事業成果

前年度の事業で植樹されたサクラやモミジの苗木の養生としての下刈を実施するとともに、新たな植栽地の確保をめざして竹木類の除伐(0.5ha)と地拵え作業を行い、本年度もサクラとモミジを植樹した。

コロナ禍の中で大々的に呼びかけることは難しかったが、企業や行政、地域住民などの協力も得られることとなり、事業としての大きな拡がりも示してきた。

事業をよく知る関係者の声

- ・目を覆いたくなるようだった荒廃林が、見事なまでに明るく様変わりしてきて感動している。サクラやモミジを植樹してもらったことによって、10年後や20年後のサクラの名所としての里山の姿にも思いを馳せることができる取り組みに、心より感謝している。今後は、財団としても継続した整備に力を注いでいかなければ…との思いを新たにしている。(高知県スポーツ振興財団理事長)

参加者の声

- ・「自分たちもその一助になれば…」との思いで子ども達とともに参加させていただいたが、子ども達が成長していく過程の中で自然を大切にしていって思いが芽生えていってくれたらと願っている。植樹だけでなく木工クラフトもセットされているなどすばらしい取り組みであり、これからも継続していただければありがたいし応援していきたい。(地元住民)



サクラ、モミジを植樹



植樹に参加した皆さん



木工体験



タケの伐採

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.8ha
植付本数：101本
下刈面積：1.1ha
除伐面積：0.35ha

参加者数

県内：209人
計：209人

樹種

サクラ、モミジ

傷と病から身を守る森づくり

熊本県水上村



事業概要

地震等自然災害や疫病に備え、子どもたちの自己回復力や抵抗力を高めるために、子どもたちと共に薬用・食用植物に触れられる森を創り出すことである。主な活動は以下のとおり。①子どもたちが森に入りやすくするための進入路づくり、②植物を採取し食してみる、③苗木を植樹するのに必要な道具や技法を現場で学び実際に植える、④山で体験したことを絵にし、家族や友達に話せるようにする。

事業成果

進入路や歩行路を整備したことによって、森に対する警戒感や恐怖心を低下させることができた。「秋の現地下見作業」と「春の植樹」の2回の作業を体験することによって、子どもたちの山に対する親近感が高まってきた。その様子が子どもたちが描いた体験絵図からうかがうことができる。

事業をよく知る関係者の声

・「傷と病から身を守る」ということに着目した取り組みは、一般に縁遠く感じられていた「森づくり」に広がりをもたせるものとして期待されるが、その効果を実感できるようになるには、もっと足繁く森に通う動機づけが他にも必要だと思われる。今年度参加者が来年度も引き続き参加したくなるような企画が望まれる。(水上村出身者)

参加者の声

・森の中は、歩くのだけでも大変だということがわかった。植樹後の手入れにも参加するならば普段から足腰を鍛えておかななくてはいけない。(令和2年球磨川豪雨災害の被災者60代男性)

・高校生がピョンピョンと跳ねるようにして斜面を登っていくのを見て、森づくりには若者が不可欠と実感した。(50代女性)



薬用・食用植物採取



避難小屋適地探し



基幹通路の整備



コナラ、トチノキほかを植樹

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.55ha
植付本数：139本
樹勢回復：8本
下刈面積：1.5ha
除伐本数：15本
基幹通路整備：150m

参加者数

県内：77人
県外：1人
計：78人

樹種

ジャケツイバラ、コシアブラ、ハリギリ、クルミ、モミジ、コナラ、トチノキほか

子どもとミツバチの森づくり活動

鹿児島県南九州市



事業概要

目的は、養蜂に適したミツバチの森づくりとともに、子どもたちが森林内で遊び、学ぶことのできる森林体験学習の森林を整備すること。そのため、荒廃森林の地拵えを行い、地域の子どもたちと養蜂協会の会員が、養蜂に適した蜜源樹を植栽する活動を行うとともに、林内の歩道整備と間伐材を使用したツリーデッキを整備した。

事業成果

森林ボランティアの日には、多くの人が下刈に参加し、森林造成において保育作業の重要性を学んだ。間伐材を利用したウッドデッキや歩道を整備し、森林をより身近に親しむことができるようになった。

事業をよく知る関係者の声

- ・馬事公苑の森が森林ボランティアの手により、毎年整備され、多くの市民に利用されつつあり感謝している。今後も、南九州市としても活動に鋭意協力していきたい。(南九州市都市計画課森林管理者)

参加者の声

- ・蜜源樹の植樹活動を地拵えからすべての面で進めていただき感謝している。(養蜂協会員)
- ・森の中で遊ぶのはすごく楽しい。来年もぜひ参加したい。(児童クラブ児童)



植樹方法の説明



蜜源樹の植樹



ウッドチップで整備した歩道



ツリーデッキ

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.2ha
植付本数：150本
下刈面積：2ha
ツリーデッキ製作
歩道整備：120m

参加者数

県内：248人
計：248人

樹種

ヤマザクラほか14種

國際協力



地域住民によるアフリカの里山の再生と保護事業

マリ・クリコロ州



事業概要

人々の生活を支えるアフリカの「里山」において、地域住民自らが育て、自身で利用できる小さな林づくりを行い、最終的に里山を再生し生活の安定化を図ることを目的としている。主な活動は以下のとおり。①住民による里山の再生（苗木配布による小さな林づくり、植林ワークショップ、配付苗のフォローアップ）、②里山再生モデルの実践（植林技術を研修した村人が実践者として、個々の里山で育苗・植林を行う）、③試験地・見本林での植生回復技術及び栽培技術の開発（荒廃地の植生回復、有用在来種の育成・生育促進、果樹の栽培技術など）。

事業成果

3地域で、41カ所の村・学校に苗木を配布し、それぞれ小さな林づくりを進めた。特に学校・保護者・管理委員会などと協働して小学校11校に学校林を継続して育成した。里山再生モデルの実践では、昨年より効果が得られている

雨期前の植栽を積極的に進め、その後の降雨によって生育が格段に促進された。人的ネットワークの拡大をめざして、新実践者への支援を、既存の実践者の協力を得て始めた。

事業をよく知る関係者の声

- ・サヘルの森の支援を受けて、学校の校庭に学校林が育成され育ったことは、大変誇らしく思う。(小学校校長)
- ・草も生えなかった裸地に、どのようにすれば1年で草が生え木が育つか。大変驚いた。(住民)

参加者の声

- ・在来種のトロを育苗して畑に植えた。市場では枝葉が家畜の飼料として高値で取引されるが、村周辺の里山でもだいが数が減っている。(実践者)
- ・近くの街では、建設ラッシュで建築補助材としてユーカリの材の需要が増えた。ユーカリをたくさん育苗して育て、需要に応えたい。(実践者)



苗木配布



農園の柵内に配布苗を植える



校庭に植樹



在来種チャンガラを直播

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：1万1360本

参加者数

マリ：3723人
計：3723人

樹種

ユーカリ、バオバブ、カシュー
ナットノキ

フィジー 森林と海の生物多様性保全に向けた植林と環境教育推進プロジェクト

フィジー・ビチレブ島



事業概要

リゾート開発等により森林やマングローブの伐採が進み、生物多様性が劣化するとともに、海面上昇や大型サイクロンなどの異常気象による被害が深刻化しているフィジー・ビチレブ島において、持続的な緑化・環境保全活動を促進するため、植林活動及び実践的な環境教育を実施。主な活動は、15の学校及び周辺地域における植林・環境教育活動、育苗活動、マングローブ植林など。

事業成果

事業3年目である今年度は、新型コロナウイルスの感染拡大により、活動が制限されるなかではあったが、地域の協力もあり、13の学校・地域で植林活動を行った。各種規制により、環境セミナーやエコキャンプなどを開催できなかったが、各植林活動の際に講義を行い、植林を含む環境

保全の意義を伝えることで、子どもたちや地域住民の意識の向上に努めた。政府からも高い評価を受けており、青少年を巻き込んだ継続的な活動が期待されている。

事業をよく知る関係者の声

- ・環境意識の啓発を行いながら、進めるこの緑化活動は素晴らしい。(ナンドロ/ナボサ県環境委員会)
- ・気候変動は待ってくれないので、引き続き森林やマングローブの再生に取り組む必要がある。(村長)

参加者の声

- ・クラスリーダーとして、植林活動に参加できたことを誇りに思っている。これからも学校や地域をよりよい環境にしていきたい。(8年生)
- ・この取り組みを継続しながら、周囲の地域にも植林の輪が広がっていくように働きかけたい。(校長)



マングローブ植林



学校での植樹



砂丘公園での清掃活動



海岸樹木の育苗

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：4.79ha

植付本数：4726本

参加者数

フィジー：651人

計：651人

樹種

マホガニー、フィジーマツ、ココナツ、サワーソップ、サンダルウッド、マングローブなど

インドネシアマドゥラ島 水保全に向けた緑化と環境教育の推進

インドネシア・東ジャワ州スメネプ県、パメカサン県



事業概要

乾季には深刻な水不足、雨季には大洪水の被害が多発しているインドネシア東ジャワ州のマドゥラ島において、水保全に向けた植林活動と持続的な環境保全活動を促進するため、環境教育・啓発活動を実施。主な活動は以下のとおり。「まちの森」における植林活動、20の学校における植林活動・環境教育活動・水保全学習の実施、マングローブの植林活動、雨水貯水設備設置（2校）、水タンクの設置（1校）、環境教育冊子の配布、教員向けワークショップの実施。

事業成果

第3期初年度である今年度は約3haの緑化を行った。植林活動には、20の学校が参加し、そのうち水源の確保が難しい2校に対し、雨水貯蔵設備を支援、その他1校に、水タンクを支援するなど、水環境の改善にも務めた。新型コロナウイルスの影響により、移動や集会の規制により、エコキャンプは実施できなかったが、その代替活動として、前

年度作成した環境教育冊子の配布を行ったほか、参加校の教員を集めたワークショップを実施し、コロナ禍における環境教育について、意見交換を行うことができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・子どもたちは多くのことを学んでいる。この活動が大きく広がっていくことを願っている。(県環境事務所課長)
- ・このプログラムは、子どもたちが自分の周りの環境を愛し、気にかけるようになるためのヒントを与えてくれる。(県環境事務所課長)

参加者の声

- ・子どもたちや教師は、自分たちの学校、自分たちの地球を緑化するという熱意があふれている。(小学校教員)
- ・学校の環境も、緑が増え、木陰もたくさんできた。またエコキャンプなどの活動も再開してほしい。(中学校8年生)



マングローブ植樹(中学生)



ごみ処理場での植樹



教員向けに実施したワークショップ



雨水貯蔵設備とあわせて設置した手洗い場(小学校)

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：3.62ha
植付本数：3195本
下刈面積：0.04ha
除伐面積：0.02ha

参加者数

インドネシア：1511人
計：1511人

樹種

マトア、アカシア、マホガニー、チーク、レインツリー、モクマオウ、マングローブほか

カンボジア国コンポンチャム州における持続可能な森林管理を目指した植林事業(フェーズ2)

カンボジア・コンポンチャム州



事業概要

カンボジア国コンポンチャム州は森林密度が非常に低い上に、洪水や干ばつ等の気候変動による影響に対して脆弱な地域である。貧困な地域住民にとってはこれらの災害の緩和は喫緊の課題である。森林の増加によりこれらの災害による影響の緩和が期待され、住民の生計向上が期待される。そこで、本事業では、急速な森林減少と劣化に伴い生物多様性の減少が進む同地域において、地域住民の生活に深く根付いている寺院および小学校を軸に、持続可能な森林管理をめざした植林を実施した。また、植林や森林保全の重要性に関する理解の向上をめざしたワークショップを実施した。本事業では植林活動に加え、持続可能な森林管理に関する地域住民の知識・技術の向上と環境・森林保全の啓蒙活動を行った。

事業成果

計画当初は2校での植林を予定していたが、別の小学校

からも植林活動を実施したいとの要望があり5校の実施となった。本年度は昨年度のような干ばつは起こらなかったこと、また教員を中心とした森林管理グループの積極的な管理もあり、2020年7月に植林した小学校では苗木の95%の生存率、また別の小学校でも85%の生存率を確認することができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・参加者は木の重要性について深く理解することができた。(小学校教員)
- ・植林活動が地域コミュニティへの貢献活動となったと感じている。(村長)

参加者の声

- ・絶滅の危機にさらされている在来種を植林することができて良かった。子どもたちのためにもまた植林活動を実施したい。(小学校教員)
- ・もっと木を植えたい。(小学生)



ブラトン小学校での植樹



サムロン小学校での植樹



フンセンアピバ小学校での植樹



オームル小学校でのワークショップ

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：5ha
植付本数：7000本

参加者数

カンボジア：115人
計：115人

樹種

メンガ、ケランジ

地球温暖化防止と日中友好の森づくり事業

中国・内モンゴルエジンホロ旗



事業概要

企業（株日本触媒）が植樹した苗木の生長を目的として、現地林業局の協力のもと、日常的な維持管理の活動を実施した。具体的な作業としては、雨量に応じた水やり、病害虫対策として消毒薬の散布、森林火災防止策として除草などを実施した。また小動物による被害対策としての巡回も実施した。

事業成果

新型コロナウイルスの影響に伴い、日本から中国へ訪問することができなかったものの、当センターの中国事務所を通じて植林地の様子を伝えてもらい、協力企業側とも状況を共有することができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・植林地の木々は順調に成長しています。今年度は日本から来てもらうことはできませんでしたが、また皆さんと会えるのを楽しみにしています。（エジンホロ旗林業局）



防火対策の除草



防火対策の除草



散水



枝打ち

実績とりまとめ

作業内容

これまでの10年間で植林した苗木の維持管理として、年間を通じて、水やり・除草と日常的な巡回活動。

参加者数

中国：27人
計：27人

モンゴル国ブルガン県における森林再生並びに環境教育事業

モンゴル・ブルガン県



事業概要

森林火災や違法伐採により森林が減少しているモンゴル国ブルガン県において、学校及び周辺地域で、森林再生のための植林活動及び持続的保全をめざした環境セミナーを実施。さらに、次世代の育成を目的に、学校敷地内での植林活動と環境教育活動を実施。主な活動は以下である。① 森林再生の為に植林活動及び住民対象の環境セミナー、② 7つの学校敷地内の植林活動・環境教育活動。

事業成果

ブルガン県内の森林再生を目的に地域住民達と共に植樹することができた。そして、持続的な保全活動を続けるため、住民対象の環境セミナーをオンラインで実施、環境保全の意義や意識の向上に努めた。学校では、7校敷地内に植樹を行い、あわせて環境意識の向上を目的とした環境教育活動も実施した。

事業をよく知る関係者の声

- ・セレンゲの植林地で進める緑化活動はこの地域のモデル事業である。住民と共に、この事業を今後もサポートしていきたい。(セレンゲ区区長)
- ・子ども達にとって、環境の問題を学ぶのに、知識と実践活動をあわせて学ぶことはとても意義がある。今後もオイスカと共に取り組みたい。(ハンガル村学校校長)

参加者の声

- ・森林の伐採や減少にはこれまで心を痛めてきた。この活動を通じて、少しでも地域の環境が元に戻るお手伝いができることを嬉しく思っている。(セレンゲ区住民)
- ・環境セミナーをオンラインで受講し、普段は学ぶ事ができない大学の先生達から環境保全や緑化のことを学べてとても有意義な経験ができた。とても分かりやすく理解もしやすかった。(ブルガン県住民)



ブルガン県内での植樹



ダシンチレン村での植樹



ヒャラガンタ村の学校での植樹



苗木の説明

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：1.17ha
植付本数：2340本

参加者数

モンゴル：677人
計：677人

樹種

カラマツ、エゾノウワミズザクラ、カエデ、ライラック

カンボジア国東部の里山再生を目指した緑化推進事業

カンボジア・モンドルキリ州、クラチェ州



事業概要

収奪的な森林開発により森林減少・劣化が進むカンボジア国東部において、人と自然が共生できる里山の再生をめざしている。本事業は3年計画の1年目。3年間の事業終了後には地域全体で自立的に緑化が推進されることをめざして、森林管理住民グループ、地方行政機関、小学校、寺院と連携して、以下の活動を実施した。①里山再生を目指した植林、②持続可能な森林管理に関する知識・技術力の向上を図る研修、③里山再生の重要性を啓蒙するワークショップ、④適切な森林管理に必要な知識・技術と森林と里山再生の重要性を記したパンフレットの配付を行った。

本事業では植林活動に加え、持続可能な森林管理に関する地域住民の知識・技術の向上と環境・森林保全の啓蒙活動を行った。

事業成果

森林破壊が著しいカンボジア国東部の2つの州で植林活

動を実施することができた。住民は植林活動を通して、森林保護・保全の重要性について理解を深めることができた。森林があることで観光客も呼び込める可能性について、住民自身が気づき、植林活動のみならず森林保全に対するモチベーションを得ることができた。

植林には多くの住民が参加し、研修やワークショップで持続可能な管理についての知識や関心を高められた。

事業をよく知る関係者の声

- ・もっと早い時期に植林活動をしてほしかった。(村長)
- ・植林活動に感謝している。継続したい。(コミュニティーリーダー)

参加者の声

- ・観光業のためにももっと木を植えたい。(40代)
- ・コミュニティフォレストにも植林したい。(スヌールレック村住民)



モンドルキリ州での植樹



植樹には多くの住民が参加



クラチェ州での植樹



森林の大切さを学ぶワークショップ

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：4.1ha
植付本数：5800本

参加者数

カンボジア：72人
計：72人

樹種

メンガ、ケランジ

ブラジル国パラ州での水源涵養林づくり

ブラジル・パラ州



事業概要

目的は、パラ州サンタバラバラ市の小農集落内で、環境と水資源涵養に役立つ自然林に近い森づくり。その実務を地域の農産技術学校生徒に体験させ、将来アマゾン森林復元に取り組める人材を育成を行う。

主な活動は以下のとおり。①水源涵養林の拡張の意義を現地農業者協会と話し合い、合意、協力を得た。②植樹活動を行うため、現地での在来種の種を採取、農業学校内での苗木づくり、土づくりを学ぶための講習会を実施。③集落関係者、農学校生徒たち、周辺集落の子どもたちが参加する植樹祭を開催し植樹活動を実施した。

事業成果

州立高専内で、現地カウンターパート団体が、同校の研修生たちを指導して育苗に取り組み、生徒たちには、環境問題、土壌、アグロフォレストリー、水源涵養林づくりなどの講義を専門家、経験者から学ぶ機会を設けた。研修生

たちには、現地の農業者たちを訪問、見学する機会を与えている。苗木(苗畑)づくりは、植樹地の入植地の森林をはじめ近辺の植林地や自然林からも実生苗・種子の採集活動を生徒たちが実習として行った。植樹祭は12月に行った。

事業をよく知る関係者の声

- ・生徒への教育支援事業と連携した体制が取れたことで、非常に良い効果が得られた。特に、パンデミックのために1年半の学校内授業が行われていない中で、生徒たちの移動を円滑に行うための経費、資材費高騰に悩まされた。しかし、苗木の活着が良く、来年2月頃までには水源涵養林の復元が見込める。人づくりと森づくりの可能性に意を強くした。(指導に当たった外部専門家)

参加者の声

- ・汗を流して働き、各種の講習を受けられ、身についた勉強ができたと思う。環境問題への取り組みを自分の将来の仕事にしたい。(林業科生徒)



高専生徒と在来種の採集



苗畑整備



子どもたちへの植樹指導



植樹

実績とりまとめ

作業内容
 植付面積：0.12ha
 植付本数：2000本
 下刈面積：0.3ha
 地拵え：0.12ha
 講習会：6回

参加者数
 ブラジル：360人
 計：360人

第3期モウス沙地における砂漠緑化・生態混交林造成事業

中国・モンゴル自治区オルドス市



事業概要

過放牧等により砂漠化が進行しているモウス沙地にて、植林を通じて自然・社会条件に則した生態系の回復と事業の自立化を図るために、以下の対策に取り組む。①急速に進行する当地の砂漠化を、低木類を中心とした植栽で防止し、黄砂の発生を抑制する。②在来種を中心に植栽することで元の植生を回復させ、混交林を造成する。③自生植物を家畜に食べさせるのではなく、食べさせるための植物を植える習慣を確立する。④現地コミュニティ団体や村民と共同で事業を進め、緑化に対する意識向上を図る。⑤種子や挿し木の自給化を図り、経済的に負担のないかたちで現地コミュニティ団体に事業を移行する。

事業成果

地域住民の緑化に対する意識の変化は目を見張るものがある。活動当初はモウス沙地での緑化は難しく労力の無駄

になるのではないかなど、取り組みに否定的な者もいた。しかし、臭柏などの順調な生育を目の当たりにしたことで、このような意見は皆無となった。積極的に植林をしていきたいとの声も聞かれるようになった。

事業をよく知る関係者の声

- ・コロナによる影響はほぼなくなり、現地スタッフと共に作業を順調に進められた。砂漠化した土地が緑化していく様子が確認できるので、地域住民も積極的に活動に参加している。(現地パートナー代表者)

参加者の声

- ・この活動が始まる前までは砂漠化した土地が緑に変わるなど信じていなかった。しかし、年を追うごとに緑地が拡大し生態系が回復しつつある状況を見ると、方法さえ間違わなければ緑化はできると確信できた。これからの変化も楽しみにしている。(60代住民男性)



防護柵設置



黄柳の挿し木



植樹



第1期植樹地

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：18ha
植付本数：5600本
1万6800株

参加者数

日本：40人
中国：218人
計：258人

樹種

沙柳、旱柳、羊柴、臭柏

ジャカルタ湾岸 マングローブ林再生プロジェクト

インドネシア・西ジャワ州ブカシ県



事業概要

ジャカルタ西部湾岸地域におけるマングローブ林の回復事業。放棄されたエビ養殖池跡地 4 ha の森林回復を目的とし、オオバヒルギの植林を実施した。植林事業により将来的に自然生態系の回復が見込まれ、特に天然のエビ・カニなどの漁業資源の回復が期待できることから、森林回復活動と地域住民の生計向上効果の両立が見込まれる。また、当該地域は政府が定める森林保全区であることから、本事業の成果が政府公認の森林回復活動として承認され、インドネシアの森林保全政策におけるモデル事業として位置づけられた。

事業成果

放棄されたエビ養殖池跡地を活用したマングローブ林の回復。事業実施地における優先種であるオオバヒルギ植林。計 4 ha のエビ養殖地において、2 × 2m 間隔の植付を行い、計 1 万本の植林を実施。当該地の森林管理を政府より委託

されている林業公社の技官による技術指導を通じて、政府が定める基準に則った植林を実施。植付に際しては、地域住民の要望に基づき海岸浸食の被害が発生している地点に防護林として線状に植林し、浸食による養殖池の流亡を防ぐ工夫を行った。

事業をよく知る関係者の声

- ・ 予定通りの植林が実施できたこと、地域住民の参加によって植林が実現できたこと、地域の森林回復活動にとってモデルとなり得る取り組みとなっている。(現地を管轄する林業公社職員)

参加者の声

- ・ 参加者は地元漁民であり、マングローブ林が回復することによってエビ・カニなどの漁業資源が増加することによって大きな期待を抱いている。苗木が活着し森林が回復するまでに数年が必要となるが、今後も自助努力を通じて森林回復に努めたい。(地域住民)



苗は地域住民が育成



支柱づくり



オオバヒルギの植樹



1万本を植樹

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：4ha
植付本数：1万本

参加者数

インドネシア：80人
計：80人

樹種

オオバヒルギ

パレスチナ自治区カルキリア県の公立校・農地への植樹を通じた環境改善事業

パレスチナ自治区・カルキリア県



事業概要

隣接するイスラエルの違法入植地から流れ込む生活排水により、悪臭や寄生虫に長年対策を余儀なくされる対象村において、最も被害の深刻であった中高一貫公立校と、村の公共地への植樹を通して、地域の環境改善と緑化に取り組む。本事業は公立校への下水道施工を通じた教育環境改善事業と平行して実施した。主な活動は以下のとおり。①植樹場所の粗大ゴミや雑草・低木の除去および土地整備、②コミュニティ内からのボランティアの参加、③公立校には消臭効果のある花やハーブ、果樹を、村の公共地や主要道路沿いには過酷な土壌環境でも育ちやすいフィーカスやイナゴマメの木を植樹、④イノシシ対策として囲いの設置、⑤灌漑網の設置、⑥木の植え付けと生育状況についてのモニタリング、⑦追加の施肥など。

事業成果

住民や学校職員が協力して植樹会を実施した。学校閉鎖

により植樹会当日に参加できなかった学生も、後日整備された下水路の周辺や校庭に植樹を行った。移動規制下で団体スタッフが対象村に入れない時期は、行政や学校が責任を持って灌漑や定植状況を観察し、今年降雨量の少なかった雨季にも苗木が枯死することなかった。

事業をよく知る関係者の声

- ・排水の問題からすぐに枯れていた果樹を植樹することができ、校内の様子が変わった。学生たちは積極的に植樹に参加し、学習環境の整備に自ら貢献した。(学校校長)
- ・植樹した木のロス率は低く順調に定植している。汚水が垂れ流されている溪谷沿いの道路では、今後木の生育を妨げる雑草や灌木の除去が必要となる。(農業専門家)

参加者の声

- ・占領体制のなか、土地に植え続ける人がいることを尊敬します。真夏の水不足から木を守るために村議会はしっかり管理して欲しい。(50代女性)



植樹地に土を入れる



学校での植樹



排水路横に植樹したレモン



苗木の囲いを設置

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.45ha

植付本数：700本

参加者数

パレスチナ：93人

計：93人

樹種

レモン、フィーカス、オリーブ、ジャスミン、ハーブほか

インド国オディッシャ州ゴバルプール沿岸の住民による「持続可能な生活林」づくり

インド・オディッシャ州ゴバルプール沿岸ガンジャム地域



事業概要

インド国東部ベンガル湾岸オディッシャ州はサイクロン常襲地域で、とくに2013年・2014年・2019年の大型サイクロンによる暴風と洪水で、防風・防砂の植栽が壊滅的打撃を受け、数十万人が家屋を失った。被災者には州災害復興プログラムによる復興支援集合住宅（ODRPコロニー）が建設されたが、建物本体のみで周辺の緑化などの環境再生には手が付けられていなかった。夏には気温が摂氏40度を超える地域で、周辺の緑化を求める住民の声が高まっていた。それに応え、住民が自らの手で環境再生を実現するための教育と技術研修を行い、住民による住民のための「持続可能な生活林」活動を推進した。

事業成果

この活動では以下の2種類の緑化を実施した。①ODRP



苗畑



植樹



住宅脇に植樹



コロニー近接地に植樹

コロニー近接地におけるまとまった規模のコミュニティ植林。②それぞれの住居隣接地のバックヤード（裏庭）緑化。

事業をよく知る関係者の声

- ・女性を中心としたグループ（SHG）を結成し、SHGが主体となり植林活動や植物の世話をを行うことで、主体性が生まれ、より積極的に世話をを行うようになる。コミュニティによっては女性があまり積極的ではない場所もあるため、きちんと見極めて男性も参加してもらうようにする必要がある。（パリスユリ専門家）

参加者の声

- ・この植林プログラムは最高のプログラムであり、金銭的な価値では計れない大きな支援であった。このような支援をしてくれたことに感謝する。

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：27.05ha
植付本数：6万1250本

参加者数

インド：310人
計：310人

パンチカール市 女性グループを中心とした植林と環境保全活動

ネパール・パンチカール市



事業概要

道路工事などにより木々が減少して起きる土砂の崩落を防止するため、パンチカール市女性で活動する女性グループが中心となって地域の共有林地区、土砂崩落地域、学校周辺部などに、市行政と協議して植林を実施した。また子どもたちに環境保全の意識が育つように小中学校では環境教育を実施した。

事業成果

地域の女性グループを中心とする事業にしたので、植林に多くの女性参加者を得ることができた。また、植樹後の雑草取りや刈り込みなどラブグリーンネパールのスタッフが女性グループのメンバーに木の世話にの仕方を教えて、今後、女性グループが木の育成に責任を持つようにした。苗床の設置もできたので、今後地域で苗の育成して、継続し

た植林をしていく予定である。小中学校の生徒に環境教育の講座を実施して、緑化について関心を促すようにした。

事業をよく知る関係者の声

- ・コロナ禍でありながら、日本の支援により緑化活動ができたことに感謝している。ラブグリーンが地元にあった様々な種類の苗木を準備してくれて森づくりに役に立った。植樹後の苗木、苗床の苗木育成を責任を持って地域の人で育成していくことが今後の課題である。(パンチカール市3区区議長)

参加者の声

- ・日本の支援のおかげで地元に戻元する活動ができて嬉しい。(女性グループメンバー)
- ・村に緑が増えてきれいになって良かった。(女性グループメンバー)



苗木の世話をする



植樹する女性メンバー



家族で植樹



小中学校での環境教育

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.52ha
植付本数：520本
環境教育：6回

参加者数

ネパール：421人
計：421人

ゴビ地域苗場造成と緑のエコクラブ育成

モンゴル・ゴビスンベル県チョイル市



事業概要

当センターの事業活動は「モンゴル国の環境保全はモンゴル人自らの手によって森を蘇らせる」ことにある。過去15年間に渡って、モンゴル各地に中学生を中心に植林実践活動隊を組織、各地中学校に温室を設営し（挿種—育苗—植樹）の植林システムを確立させた。ゴビツンベル県が造成している森林公園30haも、当地で組織した青年植林協力隊によって造成されかつ森林公園内に植林技術講習会も開催されている。当地で組織された青年植林協力隊は今後緑のエコクラブとして活動し、その活動はモンゴル全国に広がっていくだろう。

事業成果

ゴビ地域特融の樹木を育てるため苗場の造成に取りかかり12haが整地された。ここはエコクラブのモンゴルの拠点となるだろう。

事業をよく知る関係者の声

- ・環境問題で最も困難なゴビ市の砂漠化防止のための植林に取り組んでいる。ゴビ地域の環境は苛酷で、一般的な植林方法では本事業は達成しない。海外での事業展開は地元国との深いつながりの中から成功に導かれる。その点20年のキャリアを持つ当法人は当国の仲間と協力しながらこの事業を進めている。間違いなく大きな成果を生み出すだろう。（金沢大学大学院特任教授、帝京平成大学教授）

参加者の声

- ・楽しかった。育つかどうか心配。（中学生、30代女性）
- ・植樹の知識が増えたこと、いままで解らなかったことが理解できたことは良かった。これからもこの講習会を開いてください。（50代男性、40代女性）



苗場の造成



苗場に植樹



講習会



講習会受講生による苗場造成実習

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：10ha
 植付本数：1500本
 樹勢回復：1100本
 森林公園植樹：4ha
 温室管理講習会：2回
 植林講習会：2回

参加者数

モンゴル：200人
 計：200人

樹種

マツ、ウイリス、シャルハイツ、クレムツ

燃料資源維持を目指した持続的な種苗場運営

ケニア・カカメガ郡、キスム郡



事業概要

目的は、薪燃料の採取を目的とした森林伐採が、森林面積の減少に繋がっているケニア共和国カカメガ郡およびキスム郡地域において、低価格で苗の販売を行う種苗場活動を育成し、地域住民に対して、自然への被害を補うための植林を持続的に促していくことである。主な活動は以下のとおり。①種苗場運営を行うための女性グループの組成、②種苗場の建設、③女性グループへの種苗場運営に必要な知識研修、④女性グループによる種苗場運営開始、苗の育成、⑤女性グループによる苗の販売、⑥住民参加の大規模植林イベント、⑦住民への苗配布。

事業成果

女性グループ8組がそれぞれ種苗場において、苗の育成および販売を開始した。販売は6800苗を超える。これは一カ所に集めて植えれば、小規模な森林ができる量である。販

売利益は、女性グループにとってインセンティブとなることから、活動の持続性が期待される。今後も、苗が継続的に販売され、適切に植えられていくなら、何年か後には、事業地における木々の量は増加に転じるか、少なくとも現象を防ぐことが予想できる。

事業をよく知る関係者の声

- ・自然環境の保護をめざしながらも、住民たちが参加しやすいよう、彼らの収入創出活動として計画されているところが良いと思う。(自然環境の保全は)すぐに成果ができるようなものではないが、継続されていくことで良い方向に進むと思われる。女性たちが楽しそうにやっているので、持続性はあると思う。(コゴニ準区農務省職員)

参加者の声

- ・苗を植えたので、何年か後に林のようなものができるかと想像すると楽しみだ。(30代植林イベント参加女性)



農業コンサルタントから種苗場運営に関する実践講義を受ける



苗の手入れをする女性グループメンバー



農家への苗の配布



ブシアンガラ村における植林イベント

実績とりまとめ

作業内容

種苗場建設数：8基
育成苗数：約9万4000苗
植付面積：0.06ha
植付本数：1400本

参加者数

ケニア：63人
計：63人

樹種

パパイヤ、サイプレス、グラベリア、モリンガ

マダガスカルでの土砂流失防止の植林事業

マダガスカル・アラトラ省アンボヒダヴァ村



事業概要

マダガスカル共和国アラトラ省のアンボヒダヴァ村において植樹を行い、土砂災害を防止すること。主な活動は、のべ3000人以上の住民と合計2万5500本を植樹することである。参加者は、主に専門家の説明を受けながら植えていった小学生から高校生までの子どもたちであった。

事業成果

調整員をはじめ、専門家や村の世話人たちの動きがまとまってきた。彼らが今年の事業の内容をしっかりと把握して沈滞なく進められた。

事業をよく知る関係者の声

・住民たちが植樹することの大切さを理解し始めてきた。農

作業の時期を変更せざるを得ないのは気候変動のためだ。雨が少ない一方、雨が降ると土砂降りで土砂の流失が多い。薪が少ない。日常使う水質が悪く健康を害する例が多い。これらをの事象を改善するためには植樹が必要だと口にする住民が増えた。(事業に初めから関わる調整員)

参加者の声

- ・家の手伝いで薪を取りに行くのに、遠くまで行かなければならなくなった。木がないから。(小学生)
- ・薪がないからと言って親が果実の木を切った。もっとたくさんのお木がほしい。(小学生)



苗畑



植樹地へ向かう



子どもたちに植樹の説明



ユーカリ、アカシア、ピナスを植樹

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：15ha
植付本数：2万5500本

参加者数

マダガスカル：3000人
計：3000人

樹種

ユーカリ、アカシア、ピナス

ネパール シンドゥパルチョーク郡 地震被災地の学校の緑化と地域の憩いの場及び避難場所として活用するための緑の公園づくり

ネパール・No 2州シンドゥパルチョーク郡



事業概要

2015年の地震被害により失った学校内の緑の復活による環境づくりと共に、地域の緑を増やし同時に災害時の避難場所としても機能する緑の公園づくりを行うことで豊かな地域環境を取り戻す活動の最終年度。3回の植林キャンペーンをコロナ禍の中ではあったが、村人達の参加を促して実施、同時に学校でも可能な範囲で植樹した。また、各家庭にての植林を行うための育苗を継続して実施し学校を彩る花、観葉植物、レモンなどの苗木づくりを行った。公園づくりは、現地の専門家による指導にて行った。

事業成果

公園を完成することができた。住民の協力を得ることができことは、今後さらに現地の力となって環境活動を実施できる。ロックダウンより乾季に水やりができなかったために前年度植樹した木々へのダメージがあったことは残念だったが、自宅で世話をできる植木鉢である程度の大きさまで育てるアイデアにより一部学校に彩る花に関しては植木鉢での育成を実施した。環境への高い意識が本事業で培

われたことは大きな成果である。

事業をよく知る関係者の声

- ・年々緑が復活していくことを実感している。特に住民の憩いの公園の完成は大変うれしい。これまで地域の環境にあまり関心がなかった住民もこの公園の完成が環境への関心へのきっかけになると感じている。学校の子もたちの環境意識の向上は顕著である。これを維持できるように住民たちのさらなる活動の活性により、まだ沢山ある地域の環境課題の改善につながることを期待している。(村地区長)

参加者の声

- ・直接活動にかかわることによって生徒たちの植物や学校の環境に対する考え方が変わって来ていることを感じた。特に今年はロックダウン後の開校時に生徒たちから学校を植物で環境を良くしたいとの声が上がってきた。させられていた行動が進んでする行動に変わったことを感じた瞬間だった。今後も学校環境を良くする活動を継続していきたい。(小中学校長)



学校での植樹活動 (ロックダウン対策で植木鉢に)



学校に植樹



公園の道づくり



公園への植樹

実績とりまとめ

作業内容

- 植付面積：2.1ha
- 植付本数：1470本
- 下刈面積：3ha
- 育苗：3000床
- 公園整地：1.5ha
- 歩道づくり：2km

参加者数

- ネパール：427人
- 計：427人

樹種

- ブラシノキ属、アジサイ属、
- テンジクアオイ属、ナンテン
- 属、クスノキ属、ムラサキフ
- トモモ、ハウオオボク

フィリピン・ベンゲット州における鉱山開発地域の森林再生事業

フィリピン・ベンゲット州トゥバ郡



事業概要

鉱山の採掘により環境面で深刻な影響を受けているフィリピン・ルソン島北部のトゥバ郡。水源涵養と災害減少と同時に、先住民である住民たちの生計向上を図ることを事業の目的とした。事業内容は以下のとおり。①アラビカ・コーヒーを中心としたアグロフォレストリー（森林農法）による植栽、②水源涵養と土砂崩落軽減のための共有地における植栽、③教育目的としての小学校敷地内でのアグロフォレストリーによる植栽、④コミュニティ内のアグロフォレストリーのモデルファームの設置、⑤植え替えや植樹地拡大のための苗場の建設、⑥受益者を対象とした環境とコーヒー栽培に関する技術指導講習会開催。

事業成果

新型コロナウイルス感染による政府の移動・集会規制で、現地パートナー団体の担当森林官が事業地のあるコミュニティを訪問するのにも困難を伴った。訪問回数を最小限に抑え、感染対策をして訪問し、コミュニティリーダーたちに指導を行った。彼らが中心となって、植栽作業を行った。

都市に暮らしていた若者がコロナ感染のため帰郷し、作業に加わったことにも助けられた。

事業をよく知る関係者の声

- ・パンデミックによって都市で働いていた先住民の若者たちが仕事を失い故郷の村に戻った。そして、村で収入を得るために森林の農地への転換が進んでいると聞いている。すべてを農地に転換するのではなく、環境保全のためにアグロフォレストリーを取り入れ、長期的な持続可能なコミュニティのあり方を考えた土地利用の方法を考えてほしい。コミュニティリーダーたちが優秀であり、人々の信頼も厚いことから、可能であると考えている。（現地パートナー団体アドバイザー）

参加者の声

- ・パンデミックで今まで生計の根幹をなしていた有機野菜の都市部での販売ができなくなった。今後も起こるかもしれないこういった状況のために、複数の収入手段を持っていたい。コーヒーも植えられる場所に植えていきたい。（キャンプ3 MOFSAIメンバー）



苗木づくりの実習



ポット苗



苗木運搬



講習会

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：1万8038本

参加者数

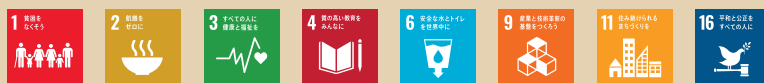
フィリピン：60人
計：60人

樹種

ハンノキ、オオベニゴウカン、アラビカ・コーヒー

モザンビーク共和国カーボデルガド州モリンガプロジェクト

モザンビーク・カーボデルガド州



事業概要

モザンビーク共和国でも貧困率の高いペンバ市のスラム地区において、開発による自然の荒廃といった環境問題や貧困問題と栄養不良の改善の複合的問題を両立解決するため、持続成長可能かつ実効力ある活動の実施である。主な活動は以下のとおり。①モリンガ、グアバ、カシューナッツを各家庭の庭に移植する。②子ども環境教育を4回実施。③地下式貯水タンクの設置。

事業成果

モリンガ、果物の苗の他、カシューナッツの苗の移植も実施した。現地はもともとカシューナッツの森があったが外資企業による開発のためカシューナッツの森がほとんど伐採・消失したため、緑化及び産業復興のため今後もカシューナッツの移植に力を入れていく。またテロとコロナで食糧難が深刻化しているが、これまで移植したモリンガの

葉を摘み取って料理に活用できている。

事業をよく知る関係者の声

- ・テロの影響で農地を移動、縮小しなければならない状況だったが、農民を支える活動として役に立っている。(農業グループ)
- ・子どもたちの木に対する興味や植物を育てる気持ちが年々育まれている。これからはカシューナッツに力を入れて森を取り戻す活動に力を入れると良い。(講師)

参加者の声

- ・前に植えたモリンガが育ったので料理に使った。家の庭でトウモロコシを植えることに挑戦をはじめた。(子ども)
- ・モリンガはしっかりした幹に育たない場合もある。カシューナッツは大きな木になるので植える場所を考えて大切に育てたい。(主婦)



ポットの土づくり



苗の移植



子どもたちの環境勉強会



貯水タンク建設

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.08ha
植付本数：844本

参加者数

モザンビーク：189人
計：189人

樹種

モリンガ、グアバ、レモン、マンゴー、カシューナッツ

令和元年度事業



古民家／宙(そら)ーこどもの「ひみつきち」の森づくり

千葉県千葉市



事業概要

かつて適切に管理されていた里山林は、その後スギ溝腐れ病の蔓延、周辺の都市化や土地開発に伴う林地の売買、所有者の世代交代などを背景に管理がほとんど行われなくなり、今では荒廃してしまっている。そこで、森林資源の循環的な利用の復活・再生のため、当該山林の所有者や都市部に住むその知人・友人とその子ども、住民や森づくりNPO等と連携し、タケや枯損木等の伐採、歩道の整備などとともに、伐採したタケを活用したランプづくりなどの工作や里山自然体験活動を行った。

事業成果

元年度前半までは、近隣住民や周辺で活動する団体等との協力関係を強化できたほか、台風15号被害をきっかけに、新たに都市部のボランティアとの繋がりをつくることができた。しかし、元年度後半からは新型コロナウイルスの影響で思うように活動が進んでいない。

事業をよく知る関係者の声

- ・裏山整備がせっかく軌道に乗ったところでコロナ禍となり、大人も大変だが子どもたちの遊びの場が少なくなるのは切ない。子ども向けの森林教室も実現できず残念。(地元森づくりNPO関係者)

参加者の声

- ・台風でスギ大木が倒れて自然の猛威に驚いたとともに、手入れを怠ったための芯腐れが風倒の一因だと聞き、森を手入れすることの大切さを実感した。(ボランティア)
- ・指導者の方がロープ一本で大木に上り、枝をチェーンソーで切り落とす作業に感心した。(親子での活動参加者)
- ・タケは、軽そうに見えても実際に伐採したり持ち上げると重いことが分かり、タケ駆除の大変さが分かった。(親子での活動参加者)



タケの伐採



タケの運び出し



伐採したタケで流しそうめん



危険な樹木の枝を伐採

実績とりまとめ

作業内容

除伐面積：0.07ha

間伐面積：0.01ha

危険枝除去：2本

参加者数

県内：121人

県外：84人

計：205人

秩父市久那上の山及びその周辺山林の整備と育成

埼玉県秩父市



事業概要

目的は事業名のとおりである。①藪化した雑木林や竹林を除伐し、②森の中の湿地を回復し、③山野草豊かな明るい森、④ホタルの棲息できる森づくりを目標に取り組みを進めてきた。⑤一部のスギ林への侵入タケ、枯損木の除伐、林床整理が進行しつつある。また、⑥一部の竹藪を除伐した。今後そのギャップ地に植樹を行う予定である。⑦地権者の雑木林を借用しコロラード（方形区）調査地を設定した。⑧季節ごとに、植生調査、観察とあわせて、周辺山林での山菜狩り体験を行っている。⑧地域の物産交流「くんなまつり」に参加し、会で手がけた観賞炭・竹炭・草木染作品の展示販売や子どもを対象にクラフト遊びを行った。

事業成果

コロナ禍により、数回の活動中止を余儀なくされたが、感染防止に配慮しつつ、活動をつなげてきた。除伐した枯竹の燃焼処理や除伐材の薪づくり、倒木処理、ホタルの沢づくり、竹炭づくり、植生調査等を楽しみ取り組んでいる。

事業をよく知る関係者の声

- ・刈払機等機材の購入、ソーラーパネルやトイレ設置により、作業環境は良くなった。目標とする森林の整備面積は広いし、植生調査、イベント開催等活動内容も豊富である。コロナ禍のため活動参加者は減少したが、目標を達成するためには、参加者の増員を図ることが重要と思われる。（森林インストラクター）

参加者の声

- ・ヘルメット腰に二丁差しをつけ、うっそうとしたタケ藪に突入。それぞれ黙々と作業する。たわんだタケ、倒れたタケ、折れたタケを伐って枝を払い束ねて運ぶ。骨は折れるが、やがて少しずつ広がる足場に陽光が届き、覆われていた実生の幼木が息を吹き返す。さあどんな森になるかしら？いえ、どんな森にしましょうか？仲間と共に小さな里森の誕生を喜べるかけがえのない時間です。（50代女性）



林床と林内湧水路の整備



竹林を整備



独奏と篠笛づくり



くんなまつり「森の会」のテント、観賞炭（花炭）が人気

実績とりまとめ

作業内容

除伐：0.8ha
くんなまつり：1回
竹炭焼体験：2回
観賞炭づくり体験：1回
里森生態調査：6回
ホタルの堤づくり：3回
チェーンソー研修：1回
ロープワーク：1回

参加者数

県内：24人
県外：146人
計：170人

水源の森づくりと木材活用の一体型拠点事業

岐阜県恵那市



事業概要

矢作川上流域の水源地域である岐阜県恵那市上矢作町において、水源林保全と木材活用の重要性を普及啓発していくことをめざし、水源整備および地元木材を活用した山里文化体験の拠点整備および間伐材の利活用推進を一体的に実施する。主な活動は以下のとおり。①森林整備と活用に親しむための広場整備、②次世代の森林ボランティア育成と森林整備、③森林資源活用の推進。

事業成果

次世代育成と森林整備として間伐技術を学ぶ講座や、森林資源活用推進として炭焼き、タケのおもちゃづくり、地元の薪を使ったピザ窯、山里の食文化や野草とその利活用を学ぶ講座などを実施した。いずれも女性や子ども連れの家族層に多く参加いただくことができ、今後への広がりを感じた。

事業をよく知る関係者の声

- ・山里の魅力を多面的に捉えた企画で地域の魅力を引き出し、関係人口の創出につながっている。一方で高齢メンバーの多い団体であり、コロナ禍での活動のあり方と、今後の団体運営のあり方が課題である。地域から他にも若い人材を確保し、同時に自己資金確保のための取り組みも必要になってくる。今後の活動に期待したい。(林業家)

参加者の声

- ・小さい息子もお世話になりました。夫も楽しかったみたいで、3日間参加できなかったのを悔やんでました。また企画してください。(30代女性)
- ・2歳と0歳といっしょという無茶にも快く受け入れてくれて感謝です。これからも里山とともに私も子どもも成長していきたいと改めて感じました。(30代女性)



タケのおもちゃづくり



炭焼き



シイタケ植菌



野草講座

実績とりまとめ

作業内容

除伐面積：0.05ha
 森林資源活用：25本
 植生調査：3回
 クラフト体験：3回
 森林教室：2回
 山里文化体験：4回

参加者数

県内：213人
 県外：51人
 計：264人

福を呼ぶ「フクギさんぽ道」プロジェクト(最終年)

沖縄県那覇市



事業概要

那覇市では、都市緑化を推進するため、昭和58年に市民からの公募によりフクギを那覇市木として制定した。

フクギはこれまでも市木として公園内や街路樹等として市民に親しまれてきたが、たとえば備瀬集落のフクギ並木のように、那覇市内のフクギとしてすぐに思い浮かべられるような名所がないのが現状である。

沖縄県内の都市部の市民が緑に親しみ、那覇市のシンボルとして誇りをもてる「フクギさんぽ道」をめざし、企業の協力を得て、新都心に50年後100年後にも残るフクギの散歩道づくりをめざし“福を呼ぶ「フクギさんぽ道」プロジェクト”を実施した。このプロジェクトは、都市部の緑化の重要性をアピールするとともに、第43回全国育樹祭のプレイベントとして開催した。コロナ禍の中、令和2年は延期することとなり、今回(令和3年11月20日)、関係者および地域住民代表者により最終年の植樹・育樹作業を行った。

事業成果

今年度は最終年であり、残り100m部分について、フクギ54本の追加植栽と補植5本が実施され、合計224本となった。

事業をよく知る関係者の声

- ・当該地は、那覇市内で来訪者の多い公園であり、フクギが大きくなり木陰の散歩道となることについて待ち望む声大きい。

参加者の声

- ・地域住民の代表からは、植栽されたフクギが大きくなり緑陰を提供することに期待している声が多かった。今回は子ども達の参加がなく、少し残念な育樹作業となった。



フクギの植樹



参加者

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：541本
下刈：380m

参加者数

県内：30人
計：30人

樹種

フクギ、コバノサンダンカほか

第3回「山と海をつなげるいのちの森づくり植樹祭」

静岡県掛川市



事業概要

源流域の荒廃民有林を社会全体の力で再生するため、市内外からの参加者によって植樹祭を開催し、森林の現状を理解してもらい、保全の大切さを啓発する。主な活動は次のとおり。①針葉樹中心の人工林の除間伐の後の下刈を行い地域樹種の植生を促す、②自然植生が難しい箇所には地域樹種を選定し植樹を行う、③ニホンカモシカやシカによる食害等の対策のための獣除け柵の設置を行う。

事業成果

事業の最終年度として植樹を実施する予定だったが、新型コロナウイルス感染に伴い実施期間を1年延長し、自然植生の劣る箇所に植樹した。ニホンカモシカやシカによる

食害が激しいため、獣除け柵及びネットを設置した。

事業をよく知る関係者の声

- ・今後の社会の課題や動向を見ると、同様な森づくりの必要性は一層高まり、多様な主体が参加する必要がある。その解決策は、社会全体が協働することであるので、NPO法人の活動を評価し、それを社会活動に発展させていくという、行政の動きが非常に重要である。

参加者の声

- ・こんなきれいな水の流れる源流があったんですね。(30代女性)
- ・子どもとこの森へ来て遊ばせてもらっています。今日は、森に感謝の気持ちを込めて木を植えました。(30代女性)



シカ除け柵設置中



作業道整備



ヤマザクラ、ヒメシャラほかを植樹



下刈

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.1ha
 植付本数：619本
 下刈面積：0.3ha
 作業道作設：100m
 シカ柵：400m

参加者数

県内：164人
 県外：5人
 計：169人

樹種

ヤマザクラ、ヒメシャラ、イタヤカエデ、コナラ、アカシデ、エゴノキほか

菱小学校多行の松継承事業

群馬県桐生市（桐生市立菱小学校）



事業概要

多行松の保存と継承を通じて、次代を担う児童の豊かな情操を育むとともに、地域の宝を守り愛でる経験を通して、学校目標「菱町を愛する子どもの育成」を実現する。主な活動は以下のとおり。①植樹、②樹木の手入れ、③その他マツ枯れ予防のための樹幹への薬液注入などを行った、④学校行事「多行松の写生コンクール」、児童作品の入賞作品を展示、表彰。児童会主催の「植樹祭」、多行松を大切に、次世代へ引き継いでいけるよう、新しい苗木の植樹を実施。

事業成果

新しい苗木を植樹をしたことで、苗木の成長をしっかりと見守り、次世代へ引き継いでいく心を育てることができ

た。また、植樹祭にはコロナ禍の警戒度が引き下げになったタイミングで行えたため、お世話になっている方々を招くことができ、地域との連携を深めることができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・多行松は学校や地域のシンボルである。植樹は、先輩から後輩へ末永く受け継いでいこうという気持ちが育ったのではないか。（区長）

参加者の声

- ・植樹を経験して、学校のシンボルである多行松を未来に残るよう大切に育てていきたいと思う。（小学生女子）
- ・新しい苗木といっしょに菱町を愛する心、自然、環境を大切に守っていこうという心も育てほしい。（教員）



多行松の苗木



植樹



大きく枝を広げる多行松



写生大会での作品

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：6本

樹勢回復：1本

剪定：16本

参加者数

県内：395人

計：395人

樹種

多行松（アカマツ）

「もりで遊び!もりで学び!もりで育てる!!」鎌倉タヌキの森プロジェクト

神奈川県鎌倉市



事業概要

幼稚園児の遊び場となっているタヌキの棲む自然豊かな森を学びの場とし、自然を愛し大切にする心や森林に対する理解を深める事で「自然との共生」を目的とする知的な経験を踏まえた幼児教育活動。この活動を中心に親子・卒園生・地域の住民の方々にも、植樹や造成等の自然保護体験活動を基軸にし、自然・動植物との関わり方をそれぞれが学ぶ機会を提供する。

事業成果

事業開始当初は、活動を通しての保護者や地域の方を含めた活動の広がりを感じていた。そこでは、身近にある豊かな森の成り立ちやその全体像を知り、森を活動の場とし参加者と協力し活動していく機運は高まっていった。ただ、中盤から後半に計画していた活動が、コロナ禍で行えなかった。しかし、職員を中心に今後につなげていくための作業(倒木などの処理・伐採・造成)を続けたことは、今後への

活動を行う上では土台となる部分であった。

事業をよく知る関係者の声

- ・子どもの頃に遊んでいた森の活動に、森のこと知る専門家の一人として参加できたことは感慨深かった。園に通う子どもたちが、そこに棲む動物に関心を持ち「どうやったら、友だちになれるのかなあ」という言葉聞いたときは、大人とは違う感性でこの活動に参加していることが分かった。幼少期からの経験の大切さを感じた。(造園業)

参加者の声

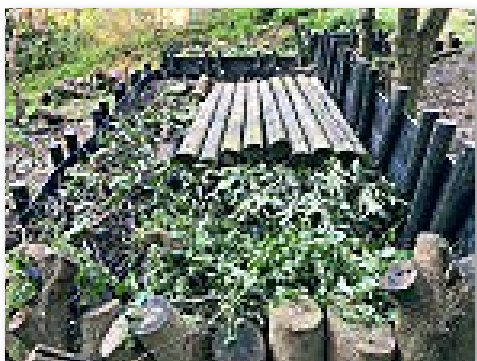
- ・改めて森のことを意識し、自分や子どもといっしょに何ができるかを考える機会となった。また、途中台風の被害で活動していた森に倒木などの被害があったことも災害という面で森との関わりを考える契機となった。(40代男性)
- ・今後も森を守り育てるために、子どもたちとこのような活動を行っていくことの大切さを感じた。(30代女性)



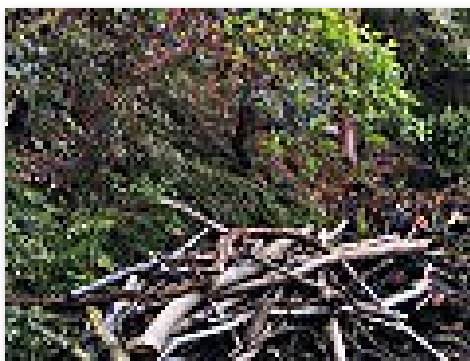
看板づくり



伐採した木を引き出す



剪定した枝葉などは腐葉土に



倒木などを伐採

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：1.03ha
 間伐面積：1ha
 森林資源活用：40回
 斜面地整地：50回
 森林教室：3回
 野外活動：1回

参加者数

県内：610人
 計：610人

カブト・クワガタの学びの森づくり

長崎県佐世保市



事業概要

目的は、子どもたちが森での体験や体感をしながら、森の生態系の多様性などについて学んでもらうこと。主な活動は、①クヌギの植樹、②カブトムシ・クワガタムシの飼育と観察学習、③広報活動。

事業成果

コロナ禍のため活動期間を1年延長した。活動の取り組み状況については、フェイスブックで情報発信をしている。植樹活動を通して森林組合関係者や緑の少年団経験者等との繋がりも得られた。昆虫の飼育や観察に関しては必要な

器材ほか環境整備ができた。技術的なノウハウや知識については、多くの昆虫愛好家の協力を得られ連携もできている。

事業をよく知る関係者の声

- ・少子化と指導者の高齢化の中で植樹等の事業活動は「継続が困難で植えっぱなしもある」と事業活動経験者や林業関係者から聞いた。塾や習い事に忙しい子どもたちを自然やその多様性を学習体験する事業に誘うには、子どもやその親にとって魅力ある企画・活動であることが必要であると考えられるので、コロナの終息を見据えて研究していきたい。



昆虫飼育用の腐葉土づくり



子どもたちがクヌギを植樹



地域の人による植樹



下刈

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.01ha

植付本数：80本

除伐面積：0.01ha

参加者数

県内：50人

計：50人

樹種

クヌギ

ガーナ植林・日本式炭焼普及プロジェクト

ガーナ・マンクランソ村、ダーソ村、東京都新宿区



事業概要

森林減少が進むガーナ中部で、植林により森林の再生を図り、砂漠化防止、農地の地力維持に貢献するため2015年度からマンクランソ村に植栽してきたニーム（インドセンダン）は根元径20cm以上に成長しており、本年度も間伐を実施した。間伐木や製材工場のオガクズ等を炭にするため、2017年度に増設した日本式炭窯を用いて、ニーム間伐木の炭焼きを行った。また、マンクランソより北部の半乾燥地への移行帯にあるダーソ村で新たに植栽するため、行政区長や土地所有者である伝統的チーフとの話し合いを継続し、さらに元大統領への説明を行うなど中央政府の理解を求めた。

事業成果

アクマダン地区ダーソ村出土地を確保すべく地区長と会

談、また女性の伝統的チーフと話し合い、これは継続している。この間、ダーソ村の小学校と植林を計画し、ダーソ村の農民に委託して苗木生産を行ったが、小学生との植林はコロナが長引いて中止となった。また、炭焼きについては、炭窯の改良、修復を重ね、その都度の炭焼きはうまくいかなかったが、2021年4月に成功した。

事業をよく知る関係者の声

- ・小学校の植樹イベントがコロナで中止になったのは残念。ガーナ農業環境大学は今年から近くの小学校で植樹イベントを始める。(同大学教授)

参加者の声

- ・4回失敗した炭焼きの成功、おめでとうございます。ガーナへの普及はこれからです。我々も手伝いますよ。(ガーナで立ち上げ予定のNGO)



間伐前のニーム林



間伐後のニーム林



間伐して炭窯前に並べたニーム



修繕した炭窯での炭焼き

実績とりまとめ

作業内容

間伐面積：1.3ha
苗木生産：1000本
炭焼き：3回

参加者数

日本：20人
ガーナ：10人
計：30人

オランウータン保護活動の基盤強化に向けた住民共同での植樹活動

インドネシア・東カリマンタンブラウ県



事業概要

目的は、インドネシアにおいてオランウータン保護活動の拠点となる地域を、周辺コミュニティと共同して植樹活動を実施することで、長期的に保全していくことである。主な活動は以下のとおり。①全体のスケジュール調整、および現地カウンターパートを通じて周辺コミュニティへの説明と合意の締結、②植樹対象地域（火災被害を受けた地域）の調査と樹種の選定、苗床の設置、③苗木の調達、植樹活動、④整地作業、モニタリング、記録など。

事業成果

実際に植林活動が地域社会に与えた影響を評価できるようになるまでには時間がかかるが、苗床の設置や実施体制の整備といった今後も植林活動を広げていくうえでの基盤

を整えることができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・新型コロナウイルスの蔓延により、プロジェクトを2020年6月末までの予定通りに完了することができなかったが、ラバナン演習林を管轄している地方政府との合意を締結し、周辺コミュニティによる参加のもと植林活動を実施することができた。（現地カウンターパートコーディネーター）

参加者の声

- ・孫の世代まで植林した樹木による恩恵を受けられるようになることを望んでいます。この苗を与えてくださった関係者の方々に感謝しています。（住民）



火災のあった植樹対象地域の調査



苗床の設置



購入した郷土種や果実の苗木



植樹

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：20ha
植付本数：2505本
苗床の設置：1カ所

参加者数

インドネシア：50人
計：50人

樹種

在来種、果樹

家庭菜園を利用した持続可能な苗木生産の創出

タジキスタン・ログ地区、クマルク地区、ロミ地区



事業概要

気候変動のもとで厳しい生活を強いられている地域住民が、より安定してその生活を継続するために大切な生態系の管理手法を地域ごとに研究し、必要に応じて植林活動等を実践する。継続的に植林活動を推進するには「自前で苗木を供給できる仕組みを整えること」が大切である。具体的には、地域住民の家庭菜園を利用して一部を苗畑として転用し、植林事業区ごとに苗木を生産すれば苗木購入費だけでなく苗木の輸送費も軽減するばかりでなく、春先の雪崩の危険を冒して苗木を長距離輸送する必要もなくなる。また、果樹園用の苗木に余裕ができた場合には、地域の小学校等教育機関に無料で配布され、学校林として環境教育に役立てられる。市場等で販売された収益は苗木生産協力者の利益として還元され、地域住民の民生安定に貢献する。

事業成果

地域住民の所有する家庭菜園の一部を利用して約2haの



アプリコットの枝を剪定



移植後



ブルンに薬剤散布



クルミの苗木

苗畑を作った。苗木を自立して生産すれば苗木購入費や苗木の輸送費を軽減することができる。将来持続的な植林活動が期待できる。苗木は目標数を2年間で達成したが、コロナ禍でも自主的な植栽活動が実施された。クルミ林の移植が行われた。結果は干ばつのため、多くの苗木が枯死。河川蛇行による林地浸食の被害があった。リンゴ、アプリコット、チェリーの収穫があった。

事業をよく知る関係者の声

- ・植林事業の成果は年々果実の収穫が増加しており大成功といえる。(クマルク地区住民)
- ・植林は大成功だ。浸食防止のため護岸工事の資材援助が必須だ。(マドルシュカット地区住民)

参加者の声

- ・参加者からこれまでの援助に対してふかい感謝の言葉と事業に対する強い支持があった。(クマルク村長)
- ・自主的に果樹園を管理する意識が醸成されている。(教員)

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：20ha
植付本数：1060本

参加者数

タジキスタン：50人
計：50人

樹種

アプリコット、マツ、リンゴ、チェリー、ポプラほか

ブラジル国トカンチンス下流域河畔林地帯におけるアグロフォレスト植林事業

ブラジル・パラ州トメアス郡



事業概要

河畔林地帯に、原生樹種や果樹によるアグロフォレストリー植林を導入し、アサイー以外の作物による収入源を追加するとともに、同地域における原生樹種の増加をめざす。現地カウンターパートであるトメアス総合農業協同組合と共に、2005年度から小農家の組織化を図り、苗畑整備と苗づくり等の指導を行ってきた。その結果トメアス郡に12カ所の小農家生産者協会において苗畑整備ができ、アグロフォレストリー農法・植林が普及されつつある。本事業では、アサイー生産地のカメタで苗畑（苗生産能力2万本）を設置、また、同時にモデル植林（1ha）を実施した。

事業成果

カメタの小農家生産者協会で苗畑を設置し、また、同時にアグロフォレストリーモデル植林（1haに1000本）を実施した。アサイー生産農家は現地訪問指導による技術指導によって、苗づくりや適切な施肥・石灰の使用方法、植付方

法、剪定方法、植栽後の管理などについて学んだ。

事業をよく知る関係者の声

- ・アグロフォレストリー植林は地域住民の多角経営につながり、一年を通してアサイー以外で収入を得ることで、住民の生計向上に貢献し、同時にアマゾン地域の生物多様性保全につながることから大変重要である。今後も継続的に行い、周辺地域に普及させ、カメタの発展に貢献してもらいたい。（生産者協会会員）

参加者の声

- ・アサイー生産者にとって大変有意義であった。アサイー以外の農産物の販売により、将来的に収入を増加させ、生計を向上させていきたい。（50代小農家男性）
- ・カカオなどの果樹が順調に成長し収穫できるのが楽しみ。（20代小農家女性）
- ・苗づくりと植栽法について学べて良かった。（20代小農家男性）



アグロフォレストリーについてのワークショップ（カメタ市）



アグロフォレストリーの管理法について指導



苗畑



カカオの植付け

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：1ha
植付本数：1000本
技術指導：20回

参加者数

ブラジル：156人
計：156人

樹種

カカオ、アサイー、アンジローバ

令和2年度 中央事業実施状況一覧

【森林の整備】

交付決定番号	事業名	事業地	交付先	所在地	交付額 (千円)	SDGsの目標との関連																	掲載頁	
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17		
02SC-01	緑のボランティアの森記念造成事業「いずみの森21」	大阪	いずみの森ボランティアの会	大阪	250											●	●							8
02SC-03	玖珠町ふれあいの森づくり事業	大分	玖珠郡森林組合	大分	2,407													●						9
02SC-04	富士山緑の募金の森造成事業	静岡	富士山緑の募金の森造成事業実行委員会	静岡	1,880			●	●		●					●		●	●	●			●	10
02SC-05	さいたまの森づくり支援事業	埼玉	(特非)埼玉森林サポータークラブ	埼玉	1,000			●	●			●						●	●	●				11
02SC-06	湯河原で進める企業の森づくり体験活動事業	神奈川	(公財)かながわトラストみどり財団	神奈川	600			●										●		●			●	12
02SC-07	南足柄で進める企業の森づくり体験活動事業	神奈川	(公財)かながわトラストみどり財団	神奈川	1,580			●										●		●			●	13
02SC-08	「赤西渓谷・水源の森」保全事業	兵庫	(特非)ひょうご森の倶楽部	兵庫	650			●			●							●	●	●				14
02SC-09	緑のボランティアの森記念造成事業「フォレスト21さがみの森」	神奈川	フォレスト21さがみの森連絡協議会	東京	1,700			●	●									●	●	●			●	15
02SC-10	木下沢渓谷冒険の森保全活動と環境教育	東京	木下沢渓谷冒険の森の会	東京	800			●	●							●	●	●		●			●	16
02SC-11	協働によるSDGsの森づくり事業	宮城	(特非)宮城県森林インストラクター協会	宮城	800			●	●							●		●	●	●			●	17
02SC-12	日本曹達グループの森づくり事業	新潟	日本曹達グループの森づくり推進協議会	新潟	3,500						●					●			●	●			●	18
02SC-13	和木町協働の森づくり事業	山口	和木町里山研究会	山口	180			●								●	●	●		●			●	19
02SC-14	木曽川・やおつ水源の森づくり活動	岐阜	やおつ水源の森づくり実行委員会	岐阜	750															●				20
02東震災SC-01	3.11復活の森づくり～千葉県山武市連沼沿岸林再生事業	千葉	(特非)森のライフスタイル研究所	東京	1,800											●		●	●	●			●	21
02東震災SC-02	白子町海岸保安林整備事業	千葉	(公社)千葉県緑化推進委員会	千葉	700											●		●	●	●			●	22
02東震災SC-03	「岩沼・荒浜潮除須賀松の森」保育事業	宮城	(公社)宮城県緑化推進委員会	宮城	2,425			●	●							●		●	●	●			●	23
02東震災SC-04	3.11復活の森づくり～千葉県一宮町東浪見海岸林再生事業	千葉	(特非)森のライフスタイル研究所	東京	5,000											●		●		●			●	24
02SDGs-01	豊かな森づくりへの道 実働型次世代育成事業	神奈川	(一社)Silva	神奈川	1,000		●			●	●		●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	25
02S-01	森林環境保全型の自伐林業家養成事業	北海道	道南森づくりの会	北海道	900			●	●				●	●		●	●	●	●	●				26
02S-02	間伐材の資源化プロジェクト	岩手	(特非)いわて森林再生研究所	岩手	295								●			●		●						27
02S-03	栗原市行者の滝周辺「癒しの森」植樹活動	宮城	(特非)森林との共生を考える会	宮城	1,000																●		●	28
02S-04	トトロの森と狭山丘陵周辺緑地での里山保全	埼玉、東京	(公財)トトロのふるさと基金	埼玉	1,200			●								●		●		●				29
02S-05	神奈川の森づくり「山北町と湘南海岸林」	神奈川	(特非)地球緑化センター	東京	400															●				30
02S-06	市民参加による森づくり「山と緑の協力隊」	滋賀	(特非)地球緑化センター	東京	400															●				31
02S-07	高田松原再生整備事業	岩手	(特非)地球緑化センター	東京	400															●				32
02S-08	北浅川上流地区の森にホテルを飛ばそう!	東京	枯れ沢復活&ホテルを飛ばす会	東京	500											●		●		●			●	33
02S-09	森の次代を担う青年森づくり事業	東京	(特非)森の包括支援センター	東京	460																			未掲載
02S-10	水源を守ろう、森づくり事業	群馬	みどりを守る首都圏住民の会	東京	750																			未掲載
02S-11	富士山で学びながら広葉樹の森林を復元する活動	静岡	(特非)山の自然学クラブ	東京	400			●	●	●	●				●					●	●	●		34
02S-12	相模湖若者の森づくり、知足の森整備活動	神奈川	(特非)緑のダム北相模	神奈川	740				●									●		●			●	35
02S-13	竹林の持続可能な保全と活用	神奈川	(特非)日本の竹ファンクラブ	神奈川	510			●	●	●					●	●	●		●					36
02S-14	都市の里山資源の活用推進	神奈川	(特非)よこはま里山研究所	神奈川	410				●		●				●	●								37
02S-15	都市近郊の新しい里山づくり	東京	(特非)ドングリの会	岐阜	1,000			●	●		●				●		●						●	38
02S-16	熱海市の森林整備と木材加工	静岡	(特非)熱海キコリーズ	静岡	1,080			●	●		●	●			●		●	●	●					39
02S-17	間伐整備活動で取組む三河湾の生態系の保全	愛知、長野	間伐こもれび会	愛知	600						●					●	●	●	●					40
02S-18	資源利用と環境学習によるやまの森再生	滋賀	(認特)やまの森の会	滋賀	700				●			●				●		●		●				41
02S-19	大学生による森林・竹林整備	京都	京都府立大学 森林ボランティアサークル 森なかま	京都	320						●	●			●		●		●					42
02S-20	里山整備事業	兵庫	任意団体 清水寺の森	兵庫	120			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	43
02S-21	国境を越えたSDGs 六甲の森・里山づくり	兵庫	(特非)Peace&Nature (ピースアンドネイチャー)	兵庫	1,000				●									●		●			●	44
02S-22	鹿ノ台周辺緑地の再生事業	奈良	ECOKA委員会	奈良	600			●							●				●					45
02S-23	憩いの場として豊かな自然の森づくり	奈良	(特非)森づくり奈良クラブ	奈良	420			●	●		●	●								●				46

交付決定番号	事業名	事業地	交付先	所在地	交付額 (千円)	SDGsの目標との関連																	掲載頁			
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17				
02S-24	比治山の環境整備と環境教育	広島	(特非)森いく 比治山	広島	390																					未掲載
02S-25	SDGs里山竹林アクティビティ・親子自然体験教育プログラム	徳島	(一社)CS阿波地域再生まちづくり	徳島	820																					未掲載
02S-26	尾の瀬山ヤマザクラの森と竹林の整備事業	香川	(公財)オイスカ 四国支部	香川	440			●														●		●		47
02災S-01	北上川の上下流を結ぶ緑の再生活動	岩手	(特非)環境生態工学研究所	宮城	925						●								●	●	●					48
02災S-02	世田谷・川場上下流連携の森林活性化事業	群馬	やまづくりくらぶ	東京	330			●											●							49
02災S-03	津波や大雨等からの災害予防に向けた森林整備事業	千葉、東京	(特非)森のライフスタイル研究所	東京	2,200						●					●			●			●		●		50
02災S-04	「山の学校」～水が繋ぐ地域と世代～促進事業	神奈川	(一社)全国森の循環推進協議会	神奈川	1,200				●								●				●					51
02災S-05	命の森づくり2020一里山自然復元植樹	新潟	(特非)新潟県山野草をたずねる会・植生研究会	新潟	930			●									●		●							52
02災S-06	緑の遺産「胎内」災害に強い森づくり	新潟	四季を愛する会	新潟	2,300													●			●			●		53
02災S-07	丹波山みんなの森づくり・防災事業	山梨	(特非)木netやまなし	山梨	1,000			●	●		●		●			●		●		●		●		●		54
02災S-08	木曽谷の水源地を育成する森造り協力事業	長野	(特非)緑の挑戦者	愛知	700																					未掲載
02災S-09	里山斜面林の復旧およびボランティア研修事業	大阪	(特非)里山倶楽部	大阪	610																	●				55
02災S-10	丹波山のある暮らし再生事業	兵庫	北岡本自治会	兵庫	950			●	●	●	●		●			●		●		●		●	●	●		56
02災S-11	自然回帰・椿守の森づくり事業 (森林の整備と連携して行う普及啓発活動)	島根	森の駅事業推進協議会(いずも森の駅)	島根	950																					未掲載
02災S-12	入来浜海岸防災林保全活動	鹿児島	(特非)森と木の研究所	鹿児島	960			●	●										●		●					57

【緑化の推進】

交付決定番号	事業名	事業地	交付先	所在地	交付額 (千円)	SDGsの目標との関連																	掲載頁			
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17				
02RC-01	獅子吼高原アウトドアFes.「もりもりの森」&森のふれあい音楽会	石川	「つたえよう美しき森」推進委員会	石川	1,500			●											●			●	●			60
02東震災RC-01	「被災地に緑と心のふれあい森林づくり」事業	宮城	(公社)宮城県緑化推進委員会	宮城	1,335			●	●		●							●	●	●	●	●		●		61
02東震災RC-02	「森と海を結ぶ・絆の森林づくりプロジェクト」事業	宮城	(公社)宮城県緑化推進委員会	宮城	1,097			●	●										●	●	●	●	●		●	62
02東震災RC-03	ラグビーワールドカップ2019後のコミュニティ再生を目指す大槌湾海岸防災林植樹事業	岩手	(特非)環境パートナーシップいわて	岩手	450				●		●								●		●	●				63
02熊震災RC-01	熊本地震復興支援事業(学校緑化)	熊本	(公社)熊本県緑化推進委員会	熊本	680			●	●										●		●	●	●		●	64
02西豪災RC-01	うなぎの森植樹会	大阪	(一社)大阪府木材連合会	大阪	1,200								●						●		●	●	●		●	65
02台風災RC-01	千葉の里山で竹林整備と台風被害林復旧活動	千葉	ちば里山・バイオマス協議会	千葉	1,000			●	●				●	●					●	●	●	●		●		66
02台風災RC-02	ボランティアによる参加型の日向の森	千葉	(公財)Save Earth Foundation	東京	1,100				●										●		●					67
02台風災RC-03	「わくわくの森」復興支援活動	千葉	木更津市立波岡小学校PTA	千葉	400																					未掲載
02R-01	森・子どもたちの元気づくり・再生プロジェクト	北海道	(公社)北海道森と緑の会	北海道	1,680																					未掲載
02R-02	【Furano Forest Style】植樹会と間伐イベントを通じた富良野・森づくり事業	北海道	(特非)C・C・C富良野自然塾	北海道	504			●	●		●								●		●	●	●			68
02R-03	森と緑と湖のマチ、そららの森づくりプロジェクト	北海道	釧路湿原・阿寒・摩周 シーニックバイウェイ運営代表者会議	北海道	580														●			●				69
02R-04	いのちの森づくり植樹祭 IN おたる奥沢水源地 VOL8	北海道	北海道千年の森プロジェクト	北海道	1,000			●	●		●	●							●		●	●		●		70
02R-05	オオヤマザクラ等の保育活動を通じた地域を結ぶ森林づくり	青森	岩木山桜会議	青森	300			●			●									●	●	●		●		71
02R-06	陸奥湾の植林と除間伐材の利用を学ぶ授業	青森	(特非)白神山地を守る会	青森	245																●	●				72
02R-07	馬と歩く瞑想と森林浴を行う新しい森づくり	岩手	(一財)ハヤチネンダ	岩手	1,200																					未掲載
02R-08	沈黙しないでピカピカ里山にしませんか!	秋田	(特非)角館里山再生プロジェクト	秋田	1,060			●											●		●					73
02R-09	八幡山桜(はな)の森整備事業 コブシ・ハンノキの森整備事業	山形	手ノ子区協議会	山形	500			●	●		●									●		●	●		●	74
02R-10	健康で元気な森林づくり	茨城	つくば樹楽会	茨城	180			●	●		●	●								●		●	●		●	75
02R-11	みんなの家でみんなの森づくりプロジェクト③	山梨	(特非)野外遊び喜び総合研究所	東京	450			●	●		●	●			●				●	●	●		●			76
02R-12	地域貢献ボランティアSATOYAMA体験	石川	(特非)角間里山みらい	石川	300																					未掲載
02R-13	オオムラサキ舞う故郷の里山再生	山梨	(特非)自然とオオムラサキに親しむ会	山梨	1,000			●	●	●	●	●								●	●		●	●	●	77
02R-14	猿投山北西山麓の環境林整備	愛知	猿投の森づくりの会	愛知	350			●	●		●	●								●		●	●		●	78

交付決定番号	事業名	事業地	交付先	所在地	交付額 (千円)	SDGsの目標との関連																	掲載頁
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	
02R-15	トコトコダンダン緑でいっぱいプロジェクト	大阪	(特非)トイボックス	大阪	1,100																	未掲載	
02R-16	「かがやけ白崎の森」プロジェクト	和歌山	白崎青少年の家友の会	和歌山	1,250																	未掲載	
02R-17	境港市竹内西緑地マツ林復元・整備事業	鳥取	竹内マツ植樹隊	鳥取	900			●							●		●		●			79	
02R-19	東京五輪開催記念植樹祭	広島	(特非)ひろしま人と樹の会	広島	1,060					●	●	●			●	●	●		●		●	80	
02R-21	森林づくり活動と森林資源の利活用を体験	鹿児島	(特非)四季の会	鹿児島	1,556			●	●			●			●	●	●	●	●		●	81	
02災R-01	渡良瀬川源流の荒地緑化事業	栃木	(特非)足尾に緑を育てる会	栃木	1,445				●		●						●		●			82	
02災R-03	湘南国際村めぐりの森づくり	神奈川	(一社)Silva	神奈川	2,100		●			●	●		●		●	●	●	●	●		●	83	
02災R-04	菊炭と里山を未来につなぐプロジェクト	大阪	大阪能勢田尻菊炭振興協議会	大阪	1,900			●	●		●	●			●		●	●	●		●	84	
02災R-05	グリーンベイOSAKA森を育てる活動(海岸防災林の植樹と緑地保全)	大阪	(特非)グリーンベイOSAKA	大阪	1,800			●							●		●					85	
02災R-06	損保川源流の森づくり	兵庫	兵庫ドングリ千年の森をつくる会	兵庫	1,100															●		86	

【子どもたちの未来の森づくり事業】

交付決定番号	事業名	事業地	交付先	所在地	交付額 (千円)	SDGsの目標との関連																	掲載頁
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	
02子R-01	にちようびの森～森で育つ子どもたち	北海道	(認特)子どもと文化のひろば ふれいおん・とかち	北海道	700			●	●			●			●			●	●		●	88	
02子R-02	こまおかの森げんきづくり事業	北海道	札幌市立駒岡小学校 緑の少年団	北海道	350			●	●						●							89	
02子R-03	子どもと馬を中心としたコミュニティによる里山整備及び森林環境教育事業	北海道	胆振・体験から学ぶ推進協議会COLD	北海道	720			●	●		●	●			●		●		●			90	
02子R-04	ふるさとの森・遊びの森作り事業	北海道	恵庭ふるさと100年の森	北海道	630			●	●		●				●				●			91	
02子R-05	まるごと体験ツアー 2020	青森	(特非)おどろ木ネットワーク	青森	670			●	●			●	●		●	●	●		●		●	92	
02子R-06	子ども達の学びと遊びの共遊の森づくり事業	宮城	(特非)宮城県森林インストラクター協会	宮城	772			●	●						●		●	●	●		●	93	
02子R-07	森での遊びを通じた環境教育事業	宮城	(特非)蔵王のブナと水を守る会	宮城	396																	未掲載	
02子R-08	「つなげよう!どんぐりの森2020」プロジェクト	秋田	男鹿ツーリズムプラットホーム	秋田	1,000																	未掲載	
02子R-09	子供たちへ繋ぐ森林の風	秋田	トープ・木こりっこ	秋田	520			●	●		●	●			●	●	●		●		●	94	
02子R-10	モニワ桜を増やして植えるプロジェクト	福島	福島ロータリークラブ	福島	360				●						●				●			95	
02子R-11	ふるさとの風景づくり植樹祭	福島	ふるさとの風景づくり実行委員会	福島	533			●							●		●		●		●	96	
02子R-12	私たちの住むふるさとの森づくり	茨城	(特非)里山を守る会	茨城	400			●	●						●		●		●			97	
02子R-13	子ども達の未来の森づくり	茨城	森の守り人	茨城	768																	未掲載	
02子R-14	子どもたち参加の森づくり活動	茨城	(特非)こが里山を守る会	茨城	650			●	●		●				●		●				●	98	
02子R-15	茨城町小中学生の「体験学習の森」の環境整備	茨城	常陽森のボランティア	茨城	356			●	●		●	●					●				●	99	
02子R-16	市民による里山と共生する持続的保全の実践	茨城	(認特)穴塚の自然と歴史の会	茨城	966										●				●			100	
02子R-17	ひだまり里郷プロジェクト こどもの森整備	栃木	(特非)ふるさと未来Sou	栃木	920				●		●	●			●		●		●		●	101	
02子R-18	ふるさと糠塚山の里山環境保全事業	栃木	糠塚山を美しくする会	栃木	1,000				●								●		●		●	102	
02子R-19	みんなでつくるみんなの森プロジェクト	栃木	(特非)1000年の森を育てるみんなの会	栃木	530	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	103	
02子R-20	宮崎公園ツツジを未来へつなぐ	群馬	群馬県樹木診断協会	群馬	795			●	●						●				●		●	104	
02子R-21	みんなで守ろう 育てよう!よしみ里山プロジェクト	埼玉	(特非)ナチュラルリングトラスト	埼玉	780			●	●		●				●		●		●		●	105	
02子R-22	親子でとりくむ「森のがっこう」の拠点づくり	千葉	子育て支援ステーション ニッセ	千葉	1,000	●		●	●	●	●	●		●	●	●	●		●		●	106	
02子R-23	歴史ある学びの森で、地元の小学生へ体験学習	東京	パウロの森くらぶ	東京	300			●	●	●					●						●	107	
02子R-24	子どもがつなぐ未来の森とSDGs	東京	(特非)フジの森	東京	760																	未掲載	
02子R-25	稲城市立長峰小学校学校林ルネサンス事業	東京	(公財)いなぎグリーンウェルネス財団	東京	1,000				●						●						●	108	
02子R-26	豊ヶ丘小学校林活用・再生プロジェクト	東京	豊ヶ丘小学校林活用・再生プロジェクト 委員会	東京	730										●		●		●		●	109	
02子R-27	4年生林業体験(間伐作業・下草刈り)5年生林業体験(間伐作業・ 枝打ち)～相原小学校における「木育」～	東京	相原小学校 木育を進める会	東京	370				●		●				●		●	●	●			110	
02子R-28	みんなで集う多様で豊かな森づくり活動	東京	高尾グリーン倶楽部	東京	750			●	●		●	●			●		●	●	●		●	111	
02子R-29	持続可能な森林管理を生徒児童と学ぶ	神奈川	(特非)農ある暮らしを広める会	神奈川	770																	未掲載	

交付決定番号	事業名	事業地	交付先	所在地	交付額 (千円)	SDGsの目標との関連																	掲載頁
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	
02K-08	ブラジル国パラ州での水源涵養林づくり	ブラジル	(特非)地球と未来の環境基金	東京	956				●		●						●		●		●	143	
02K-09	第3期モウス沙地における砂漠緑化・生態混交林造成事業	中国	(一社)地球緑化クラブ	東京	967	●														●	●	144	
02K-10	ジャカルタ湾岸 マングローブ林再生プロジェクト	インドネシア	(公社)日本環境教育フォーラム	東京	1,446	●														●	●	145	
02K-11	ガラバゴス諸島:スカレシアの森再生事業	エクアドル	(特非)日本ガラバゴスの会	東京	1,467																	未掲載	
02K-12	パレスチナ自治区カルキリア県の公立校・農地への植樹を通じた環境改善事業	パレスチナ	(特非)バルシック	東京	1,497						●									●		146	
02K-13	インド国オディッシャ州ゴバルプール沿岸の住民による「持続可能な生活林」づくり	インド	ラムサールセンター	東京	1,575	●	●	●	●	●			●			●	●		●	●	●	147	
02K-14	パンチカール市 女性グループを中心とした植林と環境保全活動	ネパール	(特非)ラブグリーンジャパン	神奈川	1,532						●					●	●		●			148	
02K-15	ゴビ地域苗場造成と緑のエコクラブ育成	モンゴル	(特非)モンゴル環境情報センター	福井	1,367											●	●		●		●	149	
02K-16	緑の再生保全と環境保護第一世代の育成(継続)	パキスタン	マグティン・カラコラム会	滋賀	1,271																	未掲載	
02K-17	燃料資源維持を目指した持続的な種苗場運営	ケニア	(公社)日本国際民間協力会(NICCO)	京都	474															●		150	
02K-18	マダガスカルでの土砂流失防止の植林事業	マダガスカル	(特非)アイユーゴ	大阪	1,716														●	●	●	151	
02K-19	ネパール シンドゥバルチョーク郡 地震被災地の学校の緑化と地域の憩いの場及び避難場所として活用するための緑の公園づくり	ネパール	(公社)アジア協会アジア友の会	大阪	1,543	●		●	●				●						●	●	●	152	
02K-20	フィリピン・ベンゲット州における鉱山開発地域の森林再生事業	フィリピン	マナラボ 環境と平和の学びデザイン	兵庫	1,594	●													●	●	●	153	
02K-21	タイ北部山岳地域ナムカー村の森林再生と農村開発	タイ	(特非)シャンティ山口	山口	1,525																	未掲載	
02K-22	モザンビーク共和国カーボデルガト州モリンガプロジェクト	モザンビーク	(一社)モザンビークのいのちをつなぐ会	福岡	1,225	●	●	●	●		●										●	154	
02K-23	ミャンマー・マインビン地域における水源涵養・アグロフォレストリー推進と緑化啓発事業	ミャンマー	(特非)地球市民の会	佐賀	1,128																	未掲載	
02K-24	ロテアイランドアグロフォレスト推進事業2	インドネシア	うみともSeed Village	鹿児島	984																	未掲載	
02K-25	フィリピン・先住民の持続可能な森林経営に向けた苗木生産・2年次	フィリピン	(特非)DANKADANKA	鹿児島	1,177																	未掲載	

区分	最終交付件数	交付額(千円)
森林整備	56	55,932
緑化推進	87	69,322
国際協力	28	39,459
直接・公募計	171	164,713

令和元年度 中央事業実施状況一覧

交付決定番号	事業名	事業地	交付先	所在地	交付額 (千円)	SDGsの目標との関連																	掲載頁
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	
01S-15	古民家/宙(そら)ーこどもの「ひみつきち」の森づくり	千葉	木と建築で創造する共生社会実践研究会(A-WASS)	東京	285		●							●						●	●	156	
01S-18	秩父市久那上の山及びその周辺山林の整備と育成	埼玉	ちちぶ里森の会	東京	600			●			●	●						●			●	157	
01S-35	水源の森づくりと木材活用の一体型拠点事業	岐阜	なつかしい未来の会	岐阜	550			●						●	●	●		●				158	
01RC-09	福を呼ぶ「フクギさんぼ道」プロジェクト(最終年)	沖縄	(公社)沖縄県緑化推進委員会	沖縄	2,000														●			159	
01R-21	第3回「山と海をつなげるいのちの森づくり植樹祭」	静岡	(認特)時ノ寿の森クラブ	静岡	800				●		●	●						●	●	●	●	160	
01子R-21	菱小学校多行の松継承事業	群馬	桐生市立菱小学校PTA	群馬	700			●										●	●	●	●	161	
01子R-29	「もりで遊びもりで学びもりで育てる!」鎌倉タヌキの森プロジェクト	神奈川	(学校法人)西鎌倉学園 西鎌倉幼稚園	神奈川	700				●			●						●	●	●	●	162	
01子R-57	カプト・クワガタの学びの森づくり	長崎	(特非)えぼし高原ホースパーク	長崎	350				●										●		●	163	
01K-14	ガーナ植林・日本式炭焼普及プロジェクト	ガーナ、東京	(特非)ガーナ農林工芸振興協会	東京	915	●	●					●	●	●		●	●	●				164	
01K-21	オランウータン保護活動の基盤強化に向けた住民共同での植樹活動	インドネシア	熱帯林行動ネットワーク	東京	340															●		165	
01K-25	家庭菜園を利用した持続可能な苗木生産の創出	タジキスタン	(特非)中央アジア森林草地保全研究所	静岡	1,267	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	166	
01K-33	ブラジル国トカンチンス下流域河畔林地域におけるアグロフォレスト植林事業	ブラジル	(特非)野生生物を調査研究する会	兵庫	1,505	●	●												●	●	●	167	

(注1) 本表は、緑の募金法第14条に基づき森林整備等のために交付した交付先等である。
(注2) 交付額は、交付先への交付決定額である。

「緑の募金」事業報告集 —令和3年度版—

発行所 公益社団法人 国土緑化推進機構
〒102-0093 東京都千代田区平河町 2-7-4
砂防会館別館
TEL 03-3262-8457 FAX 03-3264-3974
URL <https://www.green.or.jp>
E-mail bokin@green.or.jp

編集 一般社団法人 全国林業改良普及協会